日本建築協會雜誌



第二輯　第十一號

大正八年十一月二十五日

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ眞實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込ミ欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求ノ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員中ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ每秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　會誌ノ刊行

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ノ計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾貳圓ヲ本會ニ據出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別贊助員ハ特別贊助費年額金六圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スヘシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

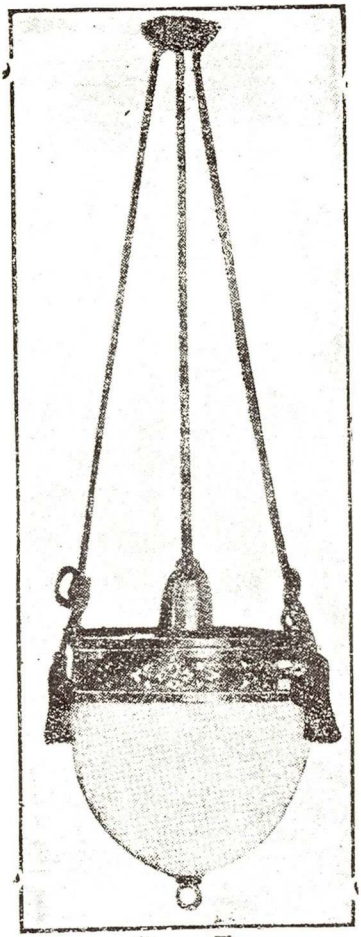
第二十二條　本會ノ財產ハ現金預金及有價證券ノ外每月末日ニ於テ之ヲ計算シ其計算書ヲ作リ翌每年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

誰しも嘆美する『花霞』（日本座敷用 半間接照明器具）

照明學會懸賞 第一等當選 意匠登録 第一四八六〇號



■霞（かすみ）■花（はな）

高尚なる御座敷には是非とも此の花霞を御取付け下さいませ。其の穏かな光りと優美なる形とは必ずや優雅なる氣分を御家庭の中に漲らせます。

御用命の節は何卒最寄の本社販賣部出張所に御一報の程御願ひ申し上げます。

上製（大型八疊以上座敷用 一〇〇—二五〇〇ワット瓦斯封入 マツダCランプ使用）金五十五圓

並製（小型八疊以下座敷用 一〇〇ワット瓦斯封入 マツダCランプ使用）金二十八圓

神奈川縣川崎町

東京電氣株式會社販賣部出張所

東京 東京市銀座須尾町一ノ一 電話新橋（長）一〇五九、一九三、二三一一、二三七二

大阪 大阪市西區阿波堀通一ノ五 電話新町（長）六三〇、八九九、八九八

門司 門司市西本町三ノ一九 電話（長）四六、六八二

名古屋 名古屋市中區府大津町二ノ三ノ二 電話（長）二五九八

仙臺 仙臺市大町五ノ一五 電話（長）二三二

札幌 札幌區南一條通西四ノ二一 電話（長）九八九

上海 上海南京路東首五六四 電話中央（三二六七、四九〇七）

大連 大連市山縣通四五 電話（長）二五五

日本建築協會雜誌 第貳輯 第拾壹號

目次

口繪 株式會社大林組（三色版）

帝國議會議事堂設計一等二等當選圖案＝＝＝＝（自一至十二）

△生活改善と協同一致の努力……一

△「大連市建築規則」批判（下）……會員 池田實……二

△住宅改造（下）……會員 葛野壯一郎……二八

△都市計畫に關する法制（畢）……內務省都市計畫課長 池田宏……三五

△都市政策と防疫（下）……大阪市囑託 向井章……四〇

△社會思想の象徵と建築樣式……江村郊郵……四九

△朝鮮營林廠所管の森林一班（畢）……會員 谷民藏……五六

△京都古建築觀（十五）……特別賛助員 伊藤清造……六〇

〔名流の住居觀〕……

△住居に就て私は斯麼理想を有てゐる　伯　爵　大木喜吉……六四
〔榮冠〕……議院設計三等當選者　竹内新七……六六
△感想……同二等當選者　吉木久吉……六八
△武者修業として應募しました……石井八重子……七一
〔女流の生活觀〕……武藤山治氏夫人　武藤千世子……七四
△今更新舊思想の相違がしみ〴〵と感じられます……七八
△住宅の改良よりも先づ生活の改造……
〔調査〕……
□大阪市接續町村下水道調査綱要（五）……八二
△時報……八五
△會報……八九
△編輯たより……
附錄
△ベルン市外地建築條例……八頁

G.E. CHEMICAL PRODUCTS.

ジーエフ防水剤

GF. Waterproofing Paste.
GF. Trowel Coating.
GF. Dampproofing Coating.
GF. Acidproofing.
GF. Cristalrox,
GF. Mastic Cement.
GF. Timber Life.
GF. Floor Enamel.
GF. Brick and Cement Coating.
GF. Galvanized Steel Coating,
Etc., Etc.

ジーエフ塗料

GE
YOUNGSTOWN. OHIO.

TKS

製造元　米國ジエネラル、ファイヤープルーフキング會社

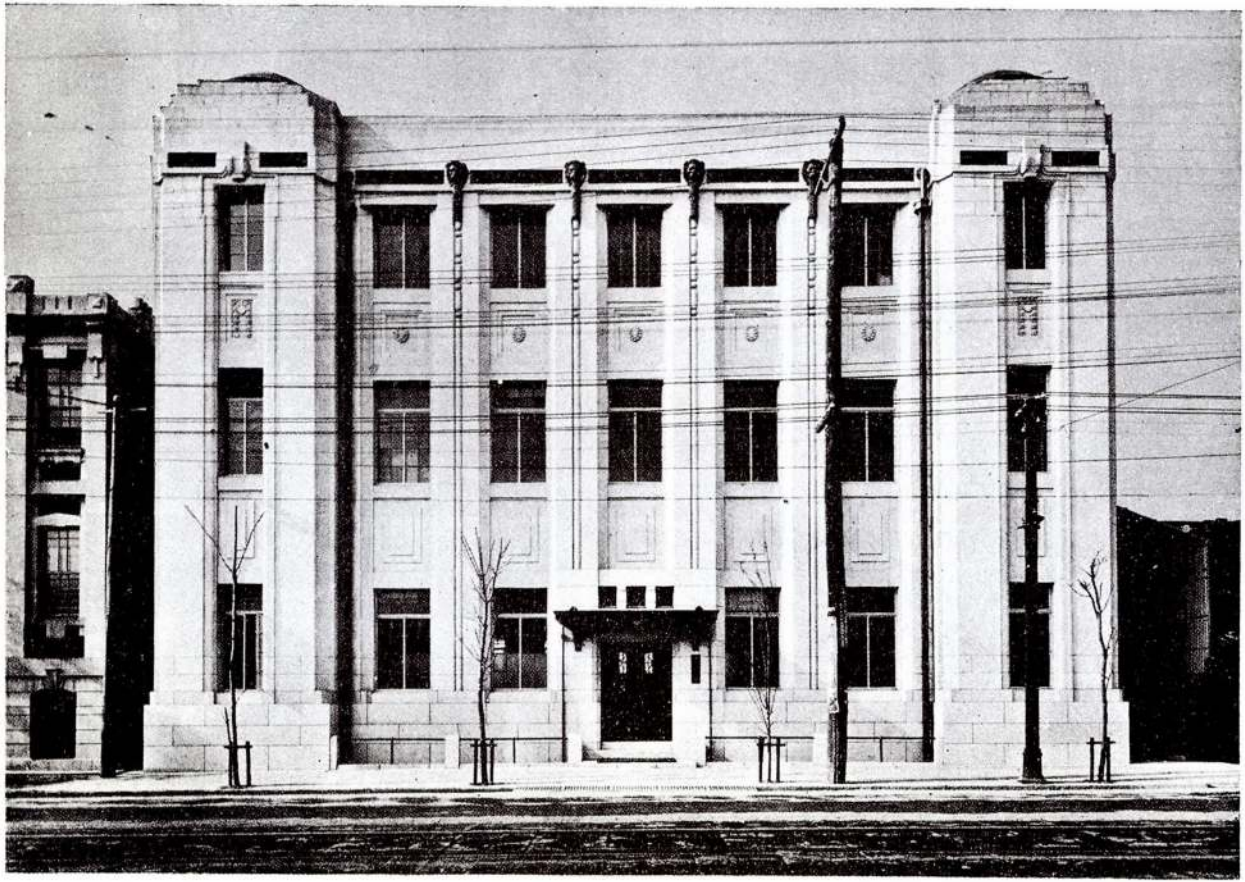
輸入元　中外貿易株式會社

◎ジーエフ防水剤
◎ジーエフ防水防濕塗料
◎ジーエフ防酸塗料
◎ジーエフ室内裝飾塗料
◎ジーエフ床用塗料
◎ジーエフ金屬防蝕塗料
◎ジーエフ木材防蝕塗料
◎在庫品豊富◎

販賣元　株式會社 東洋工業社

東京市京橋區傳馬町一丁目
電話京橋 一二八〇・二二〇・四長三〇四五
出張所　大阪　名古屋　小倉　紐育

S.G.



株式會社大林組

（大阪市東區天神橋南詰）

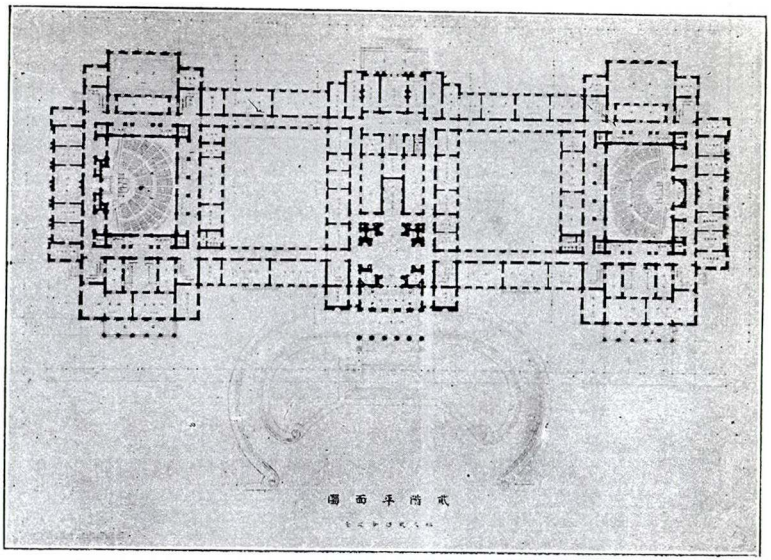
（大阪（柴田製版印刷）

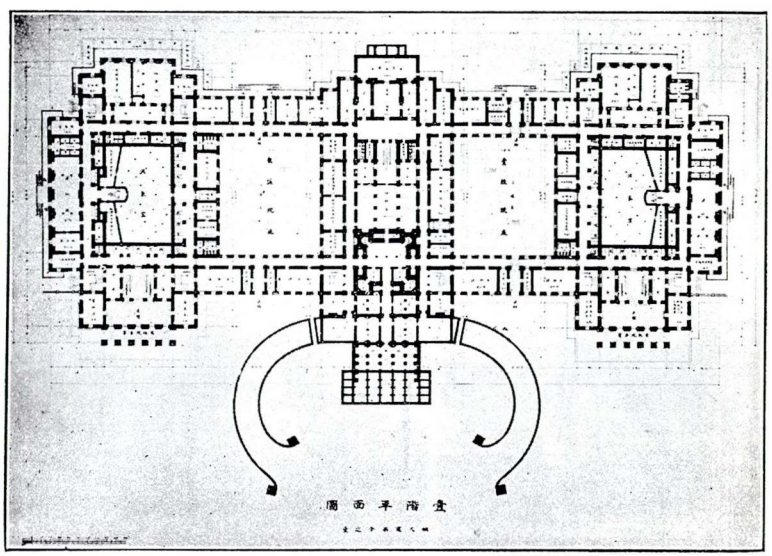
議院設計圖案一等當選

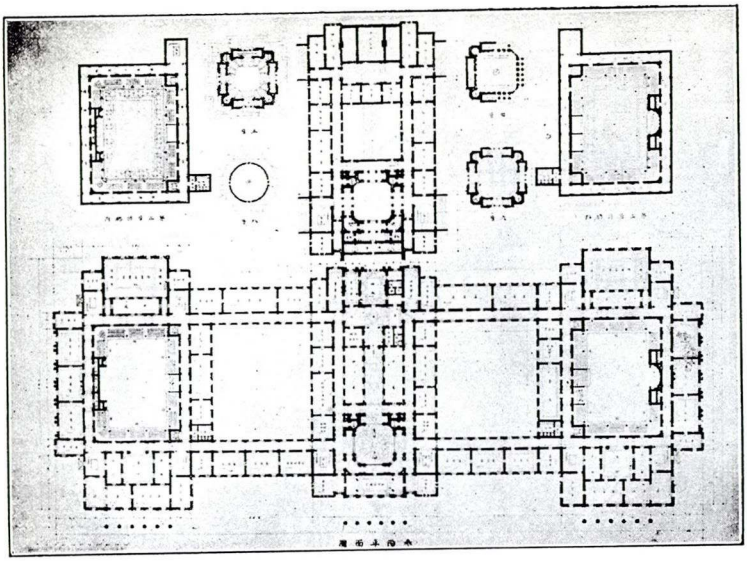
設計者　渡邊福三氏（以下同）

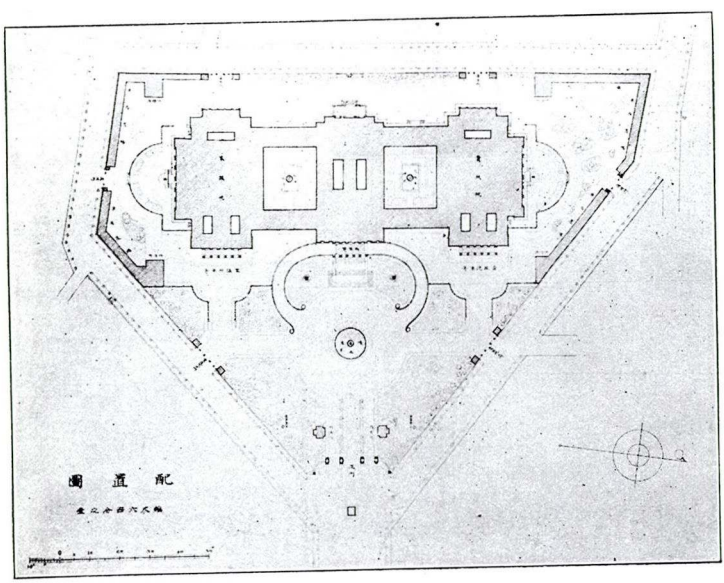


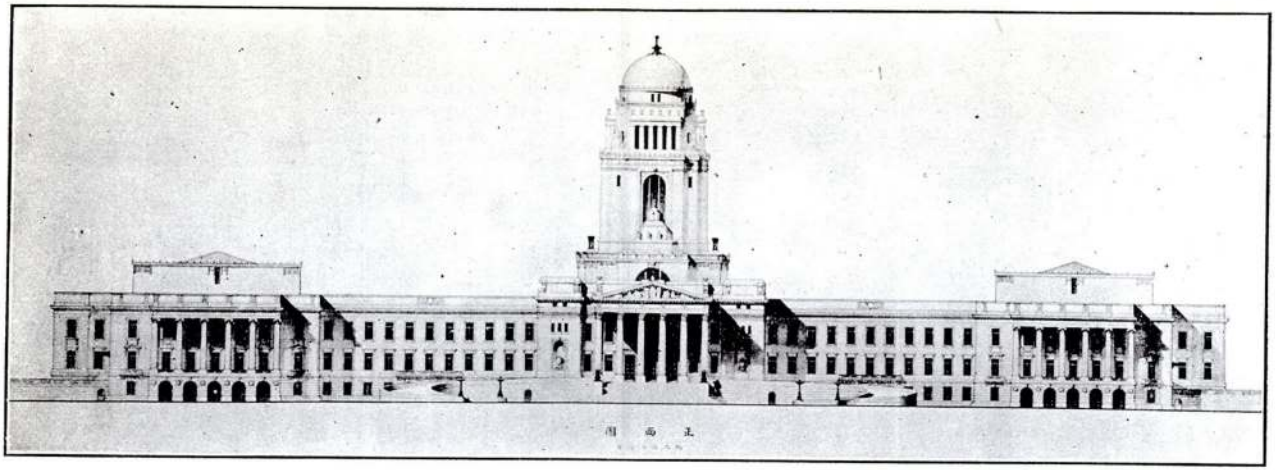
正面


貳階平面圖

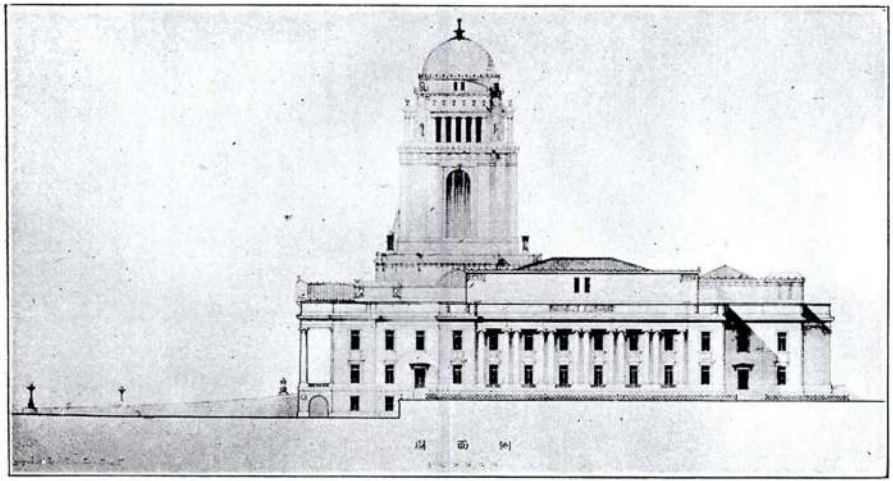

壹階平面圖



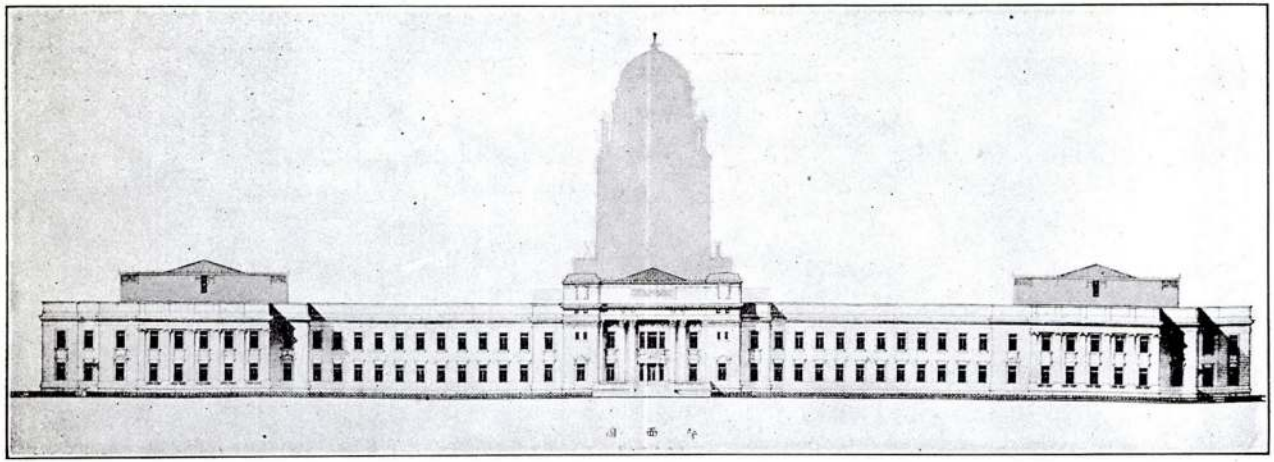

配置圖

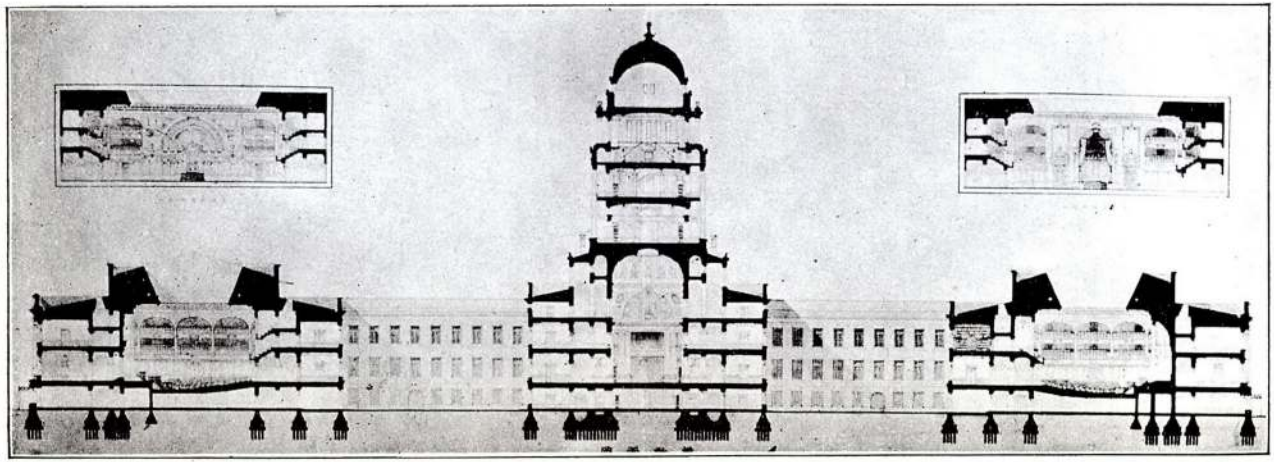


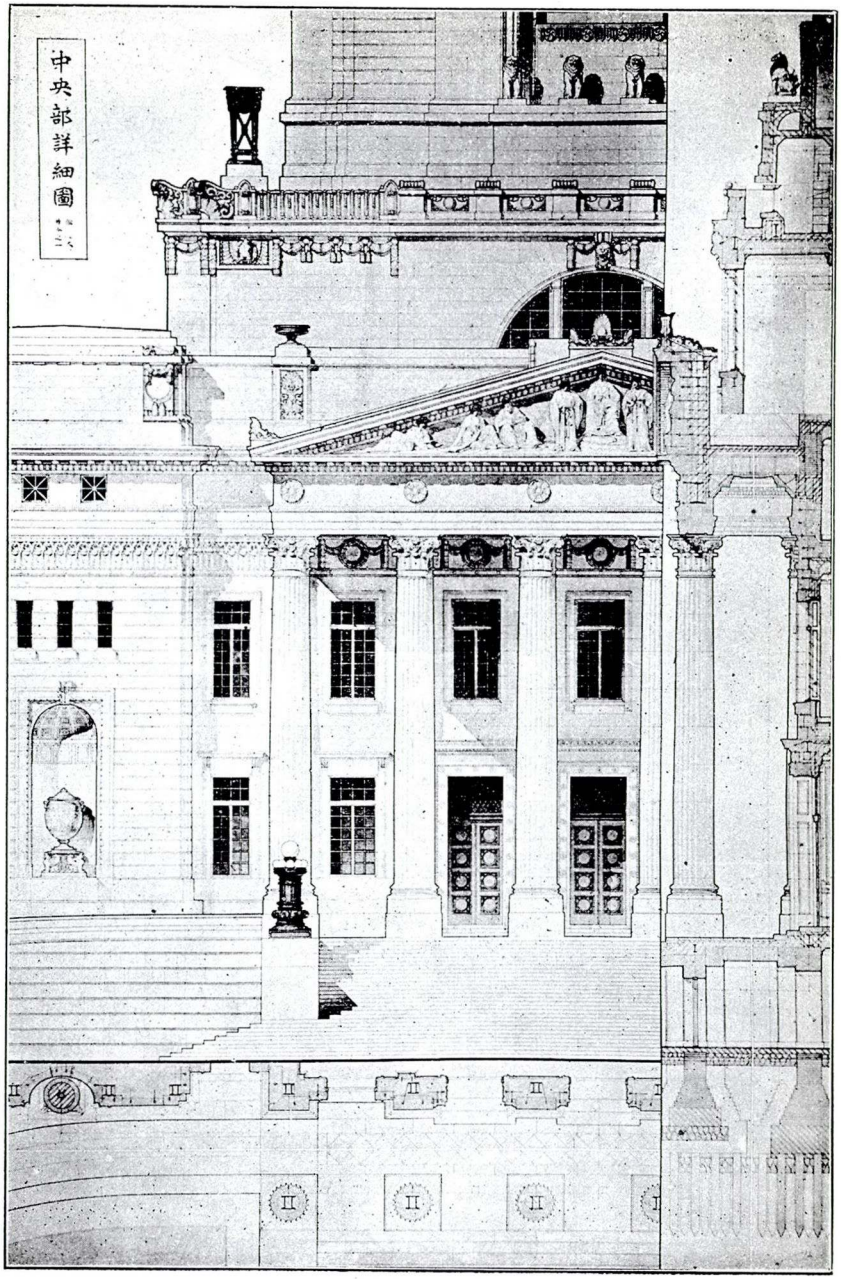
正面圖

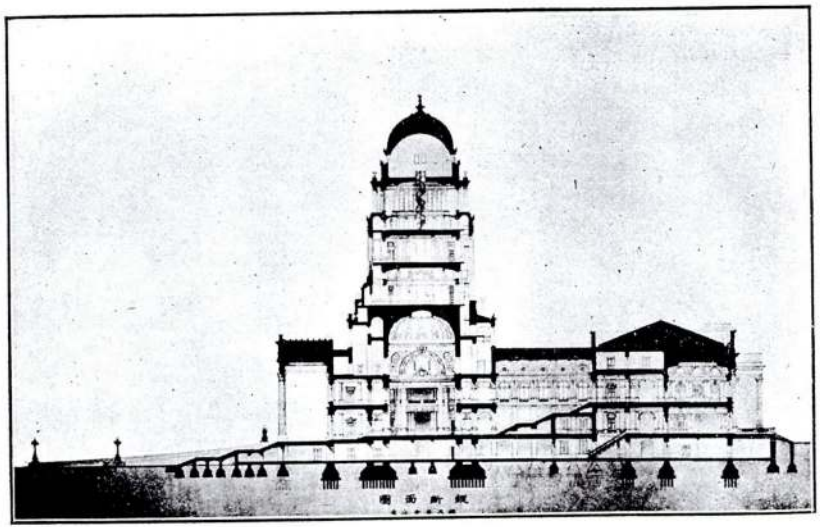


側面圖






中央部詳細圖

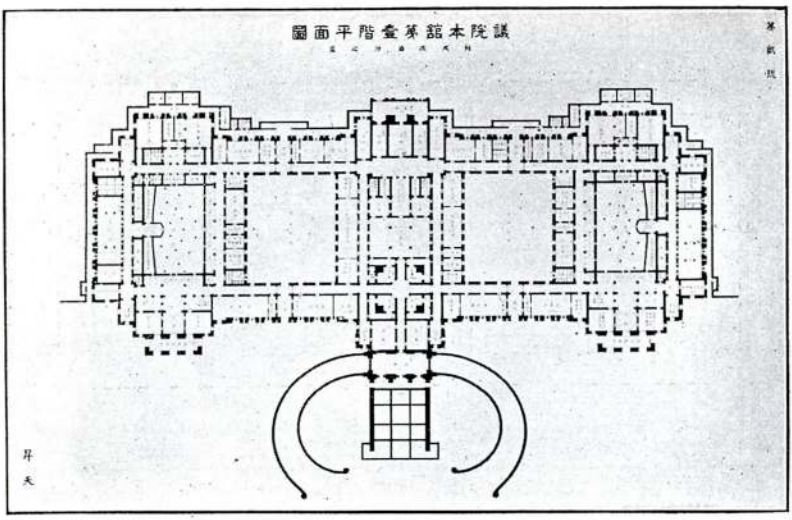


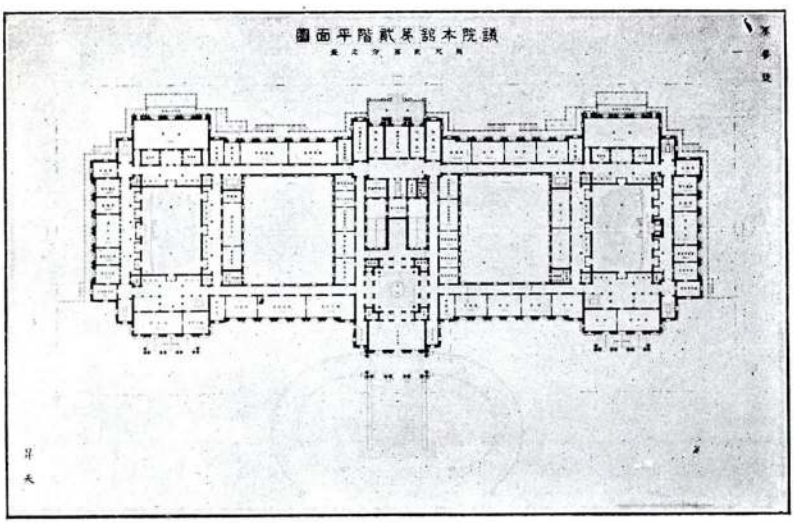
議院設計圖案二等當選

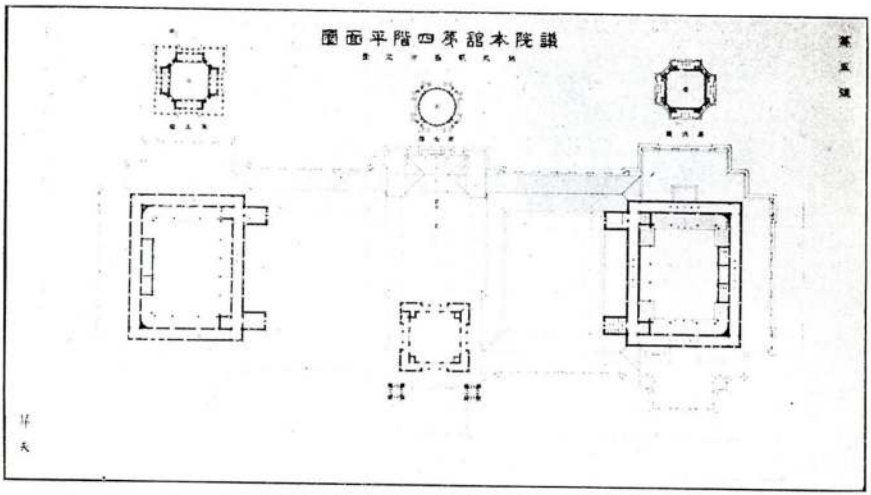
設計者　吉木久吉氏（以下同）

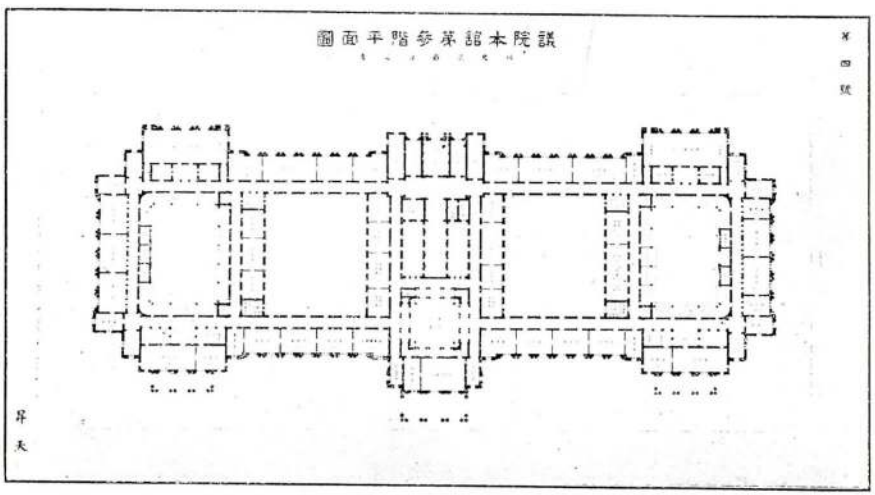


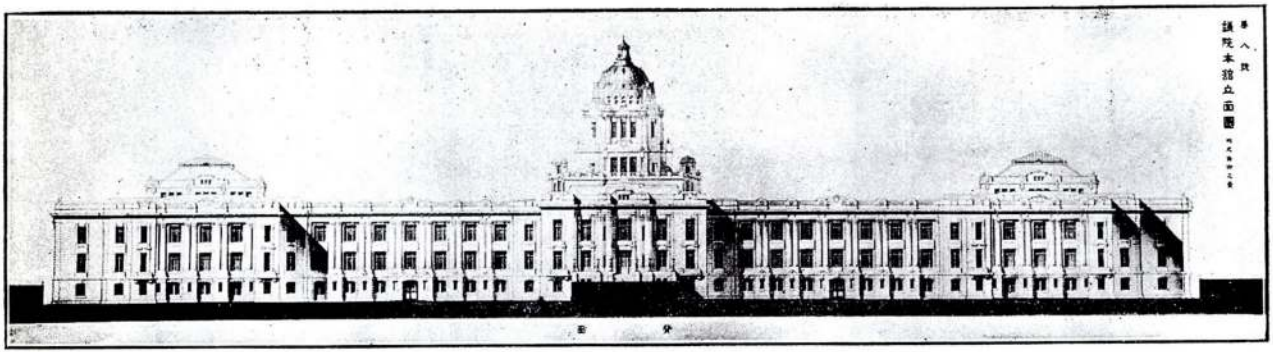
正面


議院本館第壹階平面圖

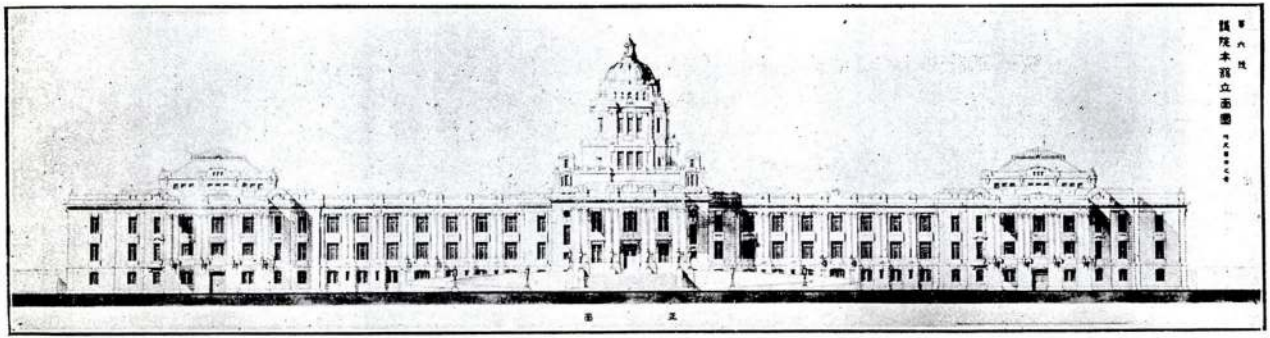

議院本館第貳階平面圖


第五號
議院本館第四階平面圖

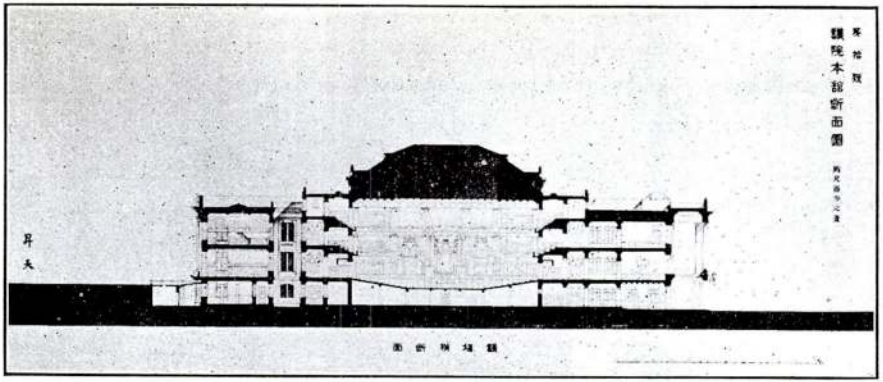

第四號
議院本館第參階平面圖

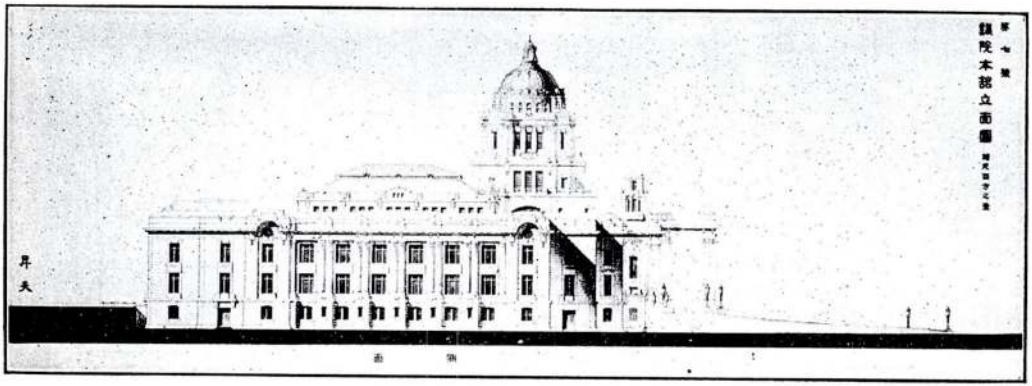


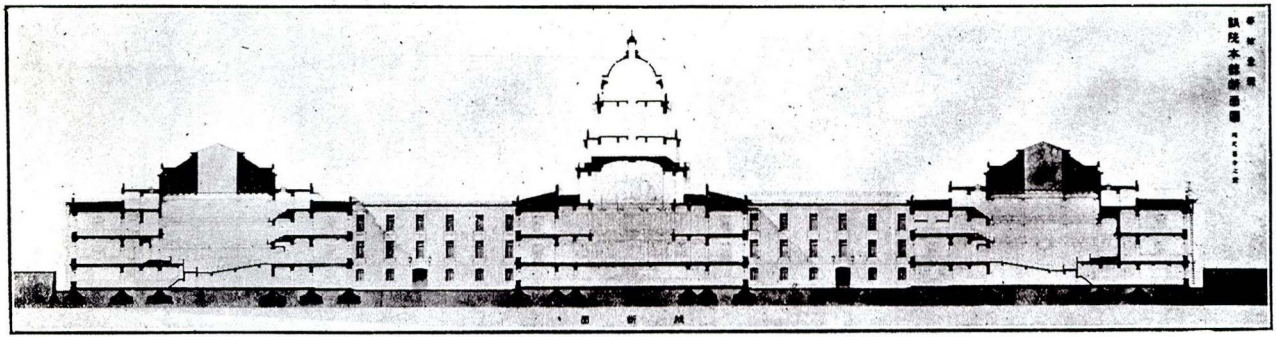
第八號
議院本館立面圖 1/200
正面

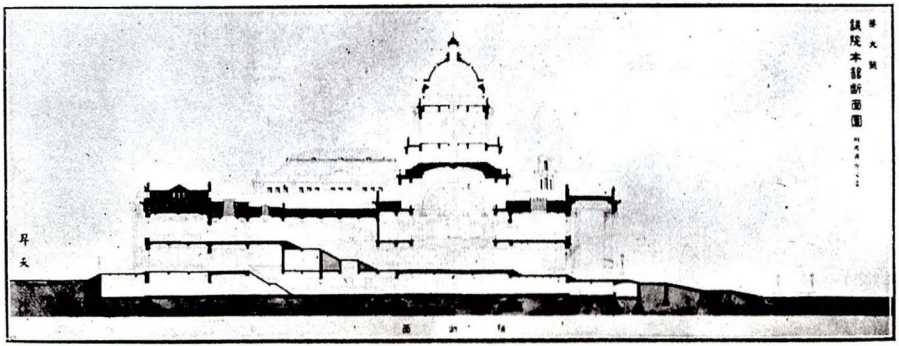


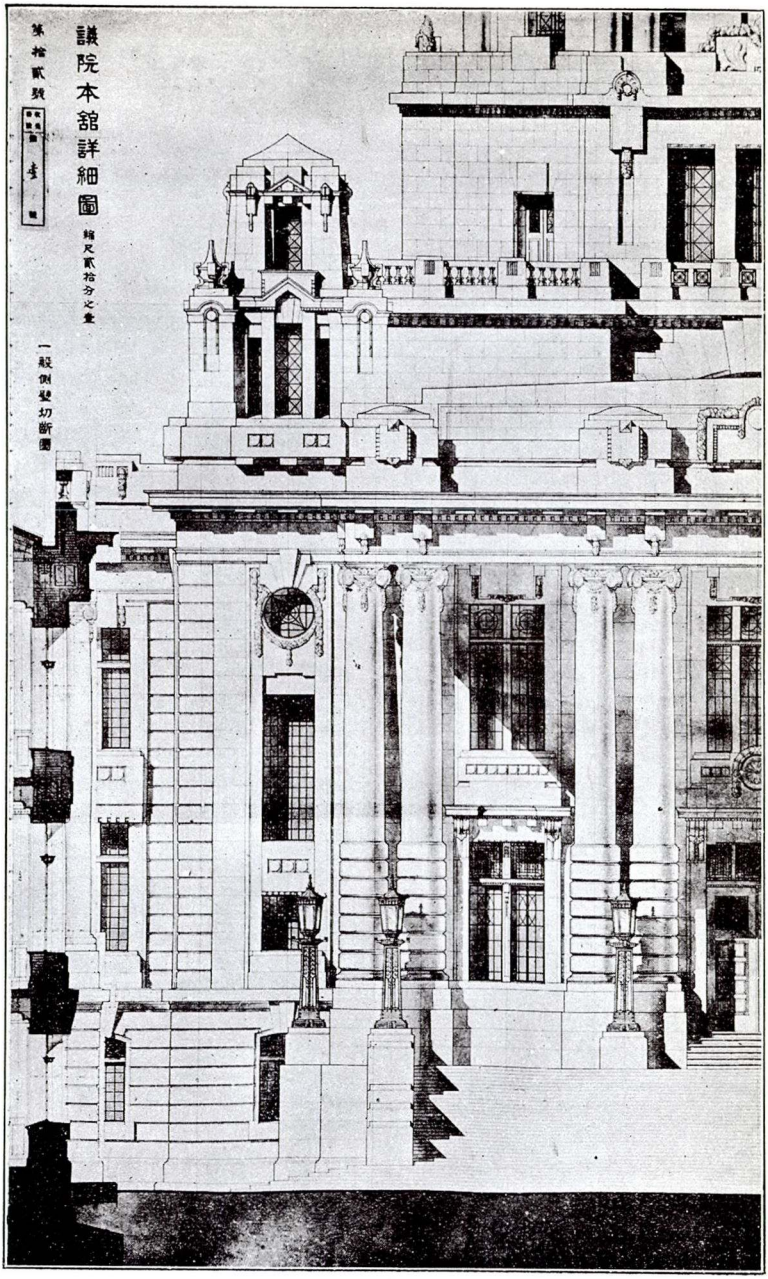
第八號
議院本館立面圖 1/200
正面


第拾壹號
議院本部斷面圖
昇天


第七號
議院本部立面圖
昇天


議院本館新圖


議院本館新圖


第拾貳號
議院本館詳細圖
縮尺貳拾分之壹
一般側壁切斷圖



生活改善と協同一致の努力

生活改善の叫びは、今や、宣傳の時代を過ぎ、緊急切實の輿論として、我國民一般の許容する所となれり。而して、住宅の改良は、凡ての生活狀態改善の第一歩たる點に於て亦衆人の一致する所なり。救濟調査會に於ける小住宅建設の意見を始め、各都市當局者の住宅計畫、更に進んで、住宅會社の勃興しつゝあるが如きは、凡て、之れ時代の要求に促がされたるものと言はざるべからず。然るに、此等の計畫を達觀する時は、其間に、何等根蒂ある統一的組織を發見する能はず、唯、一時の機運に乘じて現狀繕縫を苟もせんとするにあらざるやの感なき能はず、到底吾人將來の生活改善の基礎たるを得ざるべし。抑も生活改善の爲めに住宅改良を徹底せんには科學應用の最善を盡くし、衛生、經濟及利便の向上を圖らざるべからず。而して、其實現を期するには、學識經驗ある各種の專門家の有力なる組織により、其協同一致の努力に俟つより外に途なきにあらずや。吾人は、現時の緊張せる生活改善の要求に對して、先覺者の此擧に出でんことを切望するものなり。



『大連市建築規則』批判（下）

（本編末尾の同規則參照）

會員　池田實

再記

我日本建築協會の前身たる關西建築協會が率先して唱導し、進むで、建築學會建築大會と共に極力主張した結果先般公布せられた『都市計畫法』及『市街地建築物法』に關し、其施行令や施行規則抔を今や內務省に於て調査しつゝありと聞くが、其制定發布及實施も近き將來に逼つて來て居る事と想ふ。されば、此際建築法規の研鑽は、建築家に採つて最も重要なることと信ずる。而して、記者は、明治三十七年夏以降茲に十有六年間大阪府に於て特殊建築物の取締及本邦唯一の一般建築取締に關する法規の起草、並に、早くも十年に餘る實際上の取締の衝に當られて最も夫等經驗に富める池田工學士に、幷が意見の發表を求めた處、幸にも、最近に發布せられた處の『大連市建築規則』を批判せむとのことにて其口述に係るものを前號より登載することゝした。併し、詳細に到りては、到底豫定の紙幅に於て竭し得ないから、先づ其大体に就て概評するのことである。而して、同氏は、實に建築法規の實際的方面に於て、本邦唯一の研究者であるから、必ずや讀者諸君に裨益する所が尠からざるものありと信ずる。但し、本編に關する文章上の責任は勿論記者に在る事を斷り置く。——郊都誌す

自分は、前號に於て、先づ、總則に對する大体の概評を畢つたのであるが、以下更に批評を試むることゝしよう。

第二章に入りて、其章下『構造設備』とあるが、元來、建築に於ける構造と設備とは、何處までが構造で何處までが設備であるか區別し難いから、『構造設備』と一括したることは至當な事であり又、必要のある處である。

第十三條に於て、『街路ニ沿ヒ家屋ヲ建築云々』とあるが、云ひ換たならば、『表家ヲ建築セントスルトキハ』ではあるまいか。而して、第三條第一項第八號に表家を定義して『街路ニ面スル家屋ヲ謂フ』とあり、街路に沿ひと面するとは、果して幾何程な區別を有するのであらうか、蓋し、稍不明たるを免れない。

第十五條に『——多數家族ノ居住ニ供スルモノハ云々』とあり、其所謂多數家族とは、果して奈何なる標準に據つたのであらうか、一つの建物としては、夫れに住む處の者が往々渝る場合があるので、常に居住者の變動を免れない、故に、構造を制限する根據としては稍薄弱である、寧ろ、面積で定むるのが至當ではあるまいか。

第十六條に『——階段室設備ハ云々』とあるが、是も、『構造設備』とする方が適當であらう。而して、同條第三項第四號及第五號に、人數を表す點に於て、二百人以上といふことゝ、以下といふことを並べてあるが、其中間の二百人といふ數は、孰れの制限に付くべきものであるか、蓋し不明である。日本の法律上の云葉では、以上といふ場合にも又以下といふときにも、其表示せる數を含むことゝなつてゐる。其考を以て見ると、此の四號と五號とを比較し、之を嚴密に云ふならば甚だ解釋に苦むのである。尙五號に『——五十人以上』とあるは、五十人未滿との意ならんか。尙、人

數の增した場合に、幅の方を逐次增すようになつてゐるも、場合に依つては、階段の箇數に於て增す必要があるまいか。

第六號中に『一竝ヒ中ノ云々』とあるが、今少し簡單な書き方はあるまいか。

第七號に、階段の段數を『——三級以上トス』と制限してゐるが、是は寧ろ無い方が可いと思ふ而も、其必要なく、又實際に於て困る事がある。

第十八條は、要するに、煉瓦造又は石造の建物に就て制限したのであるが、其表中、高六十尺迄の處を覽ると、一階より四階迄、又は、一階より五階迄としてあり、然らば、三階に成した場合には、奈何なる關係となるのであらうか。此の場合は、四階を表した處の表中、二階を一階と三階を二階と看做した標準に據るべきであらうか、或は、四階丈しかないものと見るべきであらうか、蓋し疑問である。尙、高の方で、二十尺迄、二十五尺迄、四十八尺迄、六十尺迄といふ風に分けてあるが、其分け方は奈何なる根據に據りしや不明なるも、其差が十五尺、十三尺、十二尺といふ割合になつて居り、尙一面より見れば、四十八尺、六十尺といふのは、恰かも『間』(六尺)の倍數のように見へるが、二十尺又は二十五尺は、五の倍數となつて、其間に何んだか統一がないように思はれる。

第十九條に、『——一棟ノ長サ百二十尺以上ノ建物——』とあるが、棟の形が非常に復雜なものと、澤山な棟が寄り集つた場合に、尙且つ『一棟』と謂ふのは、果して適當なるや否や疑なきを得ない。又『店舖又は住家に』限つて此制限を加へた理由が不明である。

第廿二條第一項第一號に、室内の面積を規定して『一坪半以上ト爲スコト』と爲したるは、或は特殊な建物に必要ならんも、之を一般に規定して、小き住宅抔に及しては考へものである。而して同條第二號に、天井高を八尺以上と規定したのは、至極賛成である。けれども、屋階に在りては、室内面積の半分以上を八尺以上とせば、殘りの半分は幾等低くなつてもよい事となるが、是を今少し制限するの必要があらう。而して、同號中、採光面積を『十二分ノ一以上』と規定しあるのは、十分の一以上とするのを適當とする。

第二十四條第一項第一號に『――汚水ハ下水管ヲ設ケ流出セシムルコト』とあるが、此處は構造設備を制限してある處で、汚水を流出する行爲其ものを制限したのではないと見得られる、然るに其規定の体裁なり字句から解すると、流出行爲自体を規定したようになつてゐる、是は何とか修正すべきものではあるまいか。

同第二號に『――成ル可ク網張――』といふ字句あり、斯ういふ場合に、『成る可く』といふ熟語を用ゆるのは意味を成さない。

第二十五條に『――下水溜ハ煉瓦ヲ以テ厚サ七寸以上ニ築造シ云々』とあり、煉瓦の場合に七寸以上石の場合に三寸以上とは、果して其比例が適當なるや否や疑問である。

第二十七條第一項第一號に『厨房及井戸ト成ル〻ク隔離シタル場所ニ設クルコト』と規定したるは、寧ろ、何間若くは何尺と規定すべきではあるまいか。更に、同第三號に『一戸ニ多數ノ住居者又ハ出入者アルトキハ云々』とあるが、是も數字的に表すことが必要であると思ふ。

順序は少し後へ返るが、同條第二號の但書に小便所の省略と、四號の『數戸共用ノ大小便所云々』となつてゐるが、之を合併して意味の徹底するような表し方が可いと思ふ。

第二十九條に『厩舍ハ住家ト隔離シテ云々』とあり、其隔離も具体的に數を表すべきものであらう

第三十條に『飲用に供する井戸ハ便所又ハ汚水溜ヨリ相當ノ距離ヲ存セシメ云々』とあるが斯の場合も、相當の距離と云ふような抽象的熟語を使はずして、具体的に規定すべきである。而して、本條に『便所又ハ汚水溜云々』とあり、斯る場合『又ハ』と云はずして『及』なる熟語を用ゆべき處である。此の兩者の使ひ分けを混同する人が多いようであるが、第七條第一號に『厨房及――』とあるのと同樣に規定すべきである。

第三十一條の『石炭――及云々』あるは、之は右の反對で、『又ハ』とすべきものではあるまいか。

第三十二條に『煙突ハ――危害ヲ云々』とあり、其危害とは、火災許を豫見してゐるようであるが煤煙の害は此の中に豫想してゐない、蓋し、斯の點を考ふる必要があらう。

第三十三條は、申請手續なるを以て、此の第二章の構造設備制限中に列すべきものでないと思ふ

第三十四條に『孤立煙突ハ其ノ種類云々』とあり、其所謂種類とは、奈何なる見方の種類であらうか、甚だ不明である。

次は、第二節に入りて、其第三十五條第一項は、要するに、第三條第一項第十八號『公定建築線』といふ事を表すべきものであらう。折角初めに定義を掲げながら、之を應用せないのは首尾聯關せしむる体裁上甚だ不可である。

第三十六條に『家屋ノ高ハ一一側面街路幅員ノ二倍云々』と規定しあり、然らば、街路に面せない即ち表家に非るもの例へば街路に面せるものは、無制限となるのは奈何。

第三十七條に、家屋の高の最低限度を定めたのは大に賛成である。併し、其程度は、街路の等級に於て、今少し差を付くべきものであつて、其聯關が第五十條、第五十二條に離れて居るので見苦い欠点がある。

第三十九條に、歩道下を建物に利用し得るやうに認めたのは、英斷なりと謂ふて可い。

第四十二條第一項に『街路彊界線』とは、是も法定建築線として表すべきものであらう。

第四十四條は、構造設備の制限ではない、故に、是は總則か若くは第三章にでも入れべきものではあるまいか。

第三節に入りて、第四十七條に、商業地區、住宅地區、混合地區、とあるが、地區の制限なるものは、何等か他の規定にて表してあるのであらう、而して建坪と敷地面積との割合が、工場地區なるものに制限が及むでゐないのは、奈何なる譯であらうか。併し、割合は最大限のみを規定せずして、最小限をも規定せるは至極賞讃すべきである。茫漠たる無用の空地を都市の眞中に置き、都市が平面的に膨大するを徒に妨ぐる事なからしめ、都市機能を發達さすには、斯くの如く最小限度を設くる事が必要である。併し、言葉の使ひ方より云はば、商業、住宅、工場といふよりも、寧ろ、商業、住居、工業といふ風に言葉を揃へる必要がある。

第四十八條に至り、商業地域に於て建築線といふものを認めてゐるが、是は第二節の第三十五條

と聯關して行くべきものであらう。

第五十二條に、商業地區に於ける表家の高の制限が、第十八條の項下に於て述べたと同じく、十二尺、四十八尺、六十尺は『間』の倍數で、二十尺二十五尺は五の倍數で示されてあるやうに取れるが、要するに、統一のないやうな感がある。

第五十五條に於て、今迄の條下には、建物とか、又は、家屋といふ熟語を使つて來たのに、本條に到りては、建築物といふ字句を用ひたのは何んだか寄せ集めの材料を以て來て、唯之を繋き合せたやうな感があり、法文の体裁上宜しくないと思ふ。

第五十七條に、工場地區内には、工場に關係ある住宅の外一般の住家を建築する事を禁じてあるが、地域制限を極めて嚴格に行ふ点より云へば、先づ英斷と謂ふべきである。尙、住家と住宅との使ひ分けを爲してあるのは何んだか可笑い感を催す。

第五十九條に『惡臭、有毒瓦斯云々』といふ事に就て制限しあるが、序に震動とか騷擾とかいふ点をも此の中に付け加ふる必要なきか。

第三章に入りて、第六十條に『建物ヲ建築セントスル者ハ許可ヲ受クヘシ云々』とあり、大連市に於ては特別なる事情あらむかなれど、一般より云はば、許可といふよりも、認可とする方が寧ろ至當と考へられる。

第六十一條第一項第五號に工費豫算を示す事に規定しあるが、工事の精粗の程度及び主任技術者の報酬關係等の爲に其必要あるかも知れないが、一面請負入札に付する關係に於て、工事豫算を示

す事は他面に於て申請者の苦痛となる場合なきか、又、監督官廳として、是非ソレ丈の必要ありや寧ろ之は要求しない方が可からうと思はれる。

仝第二項の圖面の縮尺に就ては、第一號に六分一乃至二百分一、第二號の百分一乃至五十分一とあるが、其乃至といふ字句は、非常に不規則な分數をも含み得る事となるので、規定としては、他の表し方を可とする。

仝第六號に、『工事仕樣書』とあるが、仕樣書なる言葉は建築上の術語であつて、無論工事に關するもので、特に工事の二字を冠するは、重復の嫌なきか。三十三條、六十二條、六十三條等に於ても、單に、仕樣書とあつて、工事仕樣書とはない。

第六十二條第二項第三號に於て、立面積の說明に『正面、背面及側面ノ姿圖ヲ記載スルコト』とあるが、是も用語上に於て稍不充分な感がある。

仝第五號に、申請の部分と在來の部分を區別する爲に圖色のみに限つたのは、少し狹過ぎないであらうか。

第六十四條に、起工月日を屆出とあるが、六十一條第一項第三號に於て、工事着手時期が書いてあるから重復の感がある。

第六十五條、今迄は申請といふ語を使ひ、本條下に出願といふ語を使つてゐるのは什ういふ譯か

第六十六條に、建築人とあり、是は、六十一條、六十四條に於ける申請者と同一であるべきものと見るが、然らざる場合を豫想したのであらうか。尙、七十條の處には、願出とあつて申請なる字

句を用ひてゐない。

第六十九條に、工事の竣成したるときには届出て檢査を受くる事に定規されあるも、使用認可の規定はないやうに見受けられる。此の使用認可を規定する事は最も必要な事項であると思ふ。尙工事の承繼、用途の變更に關する事項を規定し置く必要があらう。

以上各條項に亘りて概評を試みたのであるが、終りに、本規則第十一條の別表に就て、吾人の卑見を加へて措き度い。蓋し、度量衡制度の統一は、近來の喧しい問題であるが、建築に就ては果して奈何にすべきであらうか、建築家として相當に考ふべき必要がある。規則の全部を通じ日本の尺を單位として規定されり、然るに、別表の中には、吋、斤、噸に據つて規定され、即ち英式に據つてゐる。斯の点は、現在の市場の狀況に於て蓋し止むを得ない事で、却つて便利な事ならむも、他の凡てに、日本人を根據とせる立場より云ふならば、尙日本式を施行して寧ろ統一を圖るべきではあるまいか。尤も、是は理論の立場より云ふのであつて、實際に於ける計算上の便宜と習慣とに基くといふならば、英式を採るのも亦止むを得ざる点であらう。

最後に、主任技術者檢定規則を制定したのは最も英斷といふべきで大賛成を表するが、主任技術者の報酬標準を定めた事は最も不穩當な事であつて、恰も代書人の料金や車夫の賃金と同樣に見た傾向がある。建築技術者の報酬なるものは、醫師、辯護士の夫れと寧ろ近爾せるものである。併し其詳細は既に片岡安氏が述べられたから、今更詳しく述ぶるの要もないが、要するに、斯の報酬規定は全然撤廢すべきものである。（畢）

參照條文

大連市建築規則

第二章　構造設備

第十節　通則

第十條　建物ハ煉瓦造、石造、「コンクリート」其ノ他耐火壁構造トス但シ假設物竝埠頭及鐵道線路用地內ニ於ケル建物其ノ他特別ノ事由アルトキハ木造又ハ金屬造ヲ許可スルコトアルベシ

屋根ハ耐火材料ヲ以テ葺葺スベシ但シ假設物ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條　各種材料ヲ構造ノ強度其ノ他ハ別表標準ニ依ルベシ

第十二條　建物ノ基礎ハ上部ノ全重荷ヲ完全ニ支ヘ且凍害ヲ充分ニ避ケ得ル深サト構造トヲ有スルモノタルベシ

第十三條　街路ニ沿ヒ家屋ヲ建築セムトスルトキハ適當ナル假圍ヲ設クベシ其ノ街路ニ面スル部ハ高サ六尺以上ト爲スベシ街路ニ面スル假圍又ハ足代ハ關東長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ街路ニ突出セシムルコトヲ得

第十四條　關東長官ハ必要ト認ムル地域又ハ街路ニ面スル建物ノ高サ及階數竝ニ外壁表面ノ色彩及屋根葺葺材料等ヲ一定セシムルコトアルベシ

第十五條　四階以上ノ家屋ニシテ公衆ノ用ニ供シ又ハ多數家族ノ居住ニ供スルモノハ各階ノ床及各階ニツキ一箇所以上階段ヲ耐火構造トナスベシ

第十六條　學校、病院、會堂、劇場、寄席其ノ他多數人員ヲ收容スル家屋ノ階段室設備ハ左ノ各號ニ據ルベシ

一　階段室ノ周壁ハ厚サ七寸五分以上ノ耐火壁トスルコト

二　階段室ノ牀踊リ場及階子ハ耐火材料ヲ以テ築造スルコト

三　階段室ノ天井ハ「コンクリート」若ハ漆喰天井トスルコト

四　階段ノ數ハ收容人員二百人以上ノ場合ニ在リテハ二箇以上トスルコト

五　階段ノ幅ハ二百人以下ノ使用ニ供スルモノハ三尺五寸以上トシ二百人以上ハ五十人以內ヲ增ス每ニ五寸宛ヲ增加スルコト

六　階子踏面ハ八寸以上蹴上ハ六寸以下トシ一竝ビ中ノ階子ノ踏面、蹴上ハ均一ナル幅、均一ナル高サトスルコト

七　一竝ヒ中ニ於ケル階子ノ數ハ十五級以下三級以上トス

八　階段ハ廻リ段ナキ直線階段トス

九　階段及躍リ場ノ壁ニ接セザル部分ニハ扶欄ヲ設クベシ

前項家屋ノ公衆用ニ供スル出入口及非常口ハ廊下或ハ道路ヘ外開トシ其ノ幅ハ前項第五號ニ準ス

第十七條　高サ七十尺以上ノ建物ニハ適當ナル避雷針ヲ裝置スベシ

第十八條　家屋外壁厚サノ最小限ハ左表ニ依ルベシ但シ鐵筋「コンクリート」造ニ在リテハ許可ノ際之ヲ査定ス

高サ	階壁厚	階壁厚
六十尺迄	一尺二寸	一尺二寸
	一尺一寸	一尺一寸
	一尺一寸	一尺一寸
四十八尺迄	一尺一寸	一尺一寸
	一尺一寸	一尺一寸
	一尺一寸	一尺一寸
三十五尺迄	一尺一寸	一尺一寸
	一尺一寸	一尺一寸
	一尺一寸	一尺一寸
二十尺迄	一尺一寸	一尺一寸
	一尺一寸	一尺一寸
	一尺一寸	一尺一寸

倉庫及之ニ準スベキ家屋ニ在リテハ前項規定以上壁厚ヲ增サシムルコトアルベシ

壁長四十五尺ヲ超ユルモノニ在リテハ四十五尺以内ヲ增ス毎ニ各壁厚ヲ三寸以上增加スベシ

地階ノ壁厚ハ第一階ノ壁厚ヨリ三寸以上增加スベシ

張附石張瓦ノ類ハ之ヲ壁厚ニ算入セズ

第十九條　店舖又ハ住家ニシテ一棟ノ長サ百二十尺以上ノ建物ニ在リテハ長サ百二十尺以内毎ニ防火壁ヲ築造スベシ但シ長屋建物ニ在リテハ二戸毎ニ之ヲ設クベシ

前項ノ防火壁ハ適當ナル厚サヲ有シ屋蓋上ニ二尺以上突出セシメ防火扉ヲ附スルニ非ザレバ通孔ヲ設クルコトヲ得ス

第二十條　住家、店舗其ノ他衆人ノ出入スル家屋ノ各室ニハ綱間天井其ノ他適當ノ換氣孔ヲ設置スベシ

第二十一條　天井及床ニハ適當ナル掃除口ヲ設ケ又ハ之ニ代ルベキ設備ヲ爲スベシ

第二十二條　各階居室ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　室内面積　一坪半以上ト爲スコト

二　天井高　床上八尺以上ト爲スコト但シ屋階ニ在リテハ室内面積ノ二分ノ一以上ヲ床上八尺以上ト爲スコト

三　採光面積　居室ニハ窓ヲ設ケ窓ノ面積ハ室内面積ノ十二分ノ一以上トシ其ノ二分ノ一以上ヲ開閉シ得ベキ裝置ト爲スコト

但シ天窓ヨリ採光スル場合ニハ面積ヲ三十六分ノ一以上ト爲スコト

第二十三條　第一階ノ床下竝地階ニ於テ土壤ニ接觸セル部分ニハ適當ナル防濕法ヲ施スベシ

第二十四條　厨其ノ他飲食物ヲ取扱フ室ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　常ニ水ヲ使用スル場所ハ其ノ地盤又ハ床面ヲ防水材料ヲ以テ築造シ汚水ハ下水管ヲ設ケ流出セシムルコト

二　外部ノ窓ニシテ開閉スルモノハ蠅ノ生育季中ハ成ルベク網張トシ出入口及他室トノ境界ハ自動閉鎖ノ扉ヲ設ケ又ハ蠅竹若クハ硝子製等ノ朦簾ヲ懸垂スルコト

三　鼠族ノ交通棲息ヲ防止シ得ル構造設備タルコト

第二十五條　公共下水ノ設ナキ地域ニ於テハ下水溜ヲ設クベシ下水溜ハ煉瓦ヲ以テ厚サ七寸以上ニ築造シ内外全部ニ防水「モルタル」ヲ塗著スルカ又ハ厚サ三寸以上ノ不滲透質材料ヲ以テ築造シ適當ノ覆蓋ヲ設クベシ

第二十六條　下水溝ハ暗渠トシ防水材料ヲ以テ之ヲ構造シ適當ノ勾配ヲ附シ流シ元ヨリ下水溝ニ通ズル場所ニ鐵製格子蓋又ハ金網ヲ裝置スベシ

第二十七條　厠圊ノ位置、構造設備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　厨房及井戸ト成ルベク隔離シタル場所ニ設クルコト

二　一戸ニ付大小便所各一箇ヲ設クルコト但シ數地又ハ建物ノ關係上大小便所ヲ各別ニ設ケ難キトキ又ハ用水便所ノ裝置ヲ爲ストキハ小便所ヲ省畧スルコトヲ得

三　一戸ニ多數ノ居住者又ハ出入者アルトキハ其ノ人員ニ應シ相當ノ箇數ヲ設クルコト

四　建物又ハ數地ノ關係上各戸ニ厠圊ヲ設ケ難キトキハ數戸共用ノ大小便所ヲ設クルコトヲ得

五　鼠族ノ交通棲息ヲ防止シ得ル構造設備タルコト

六　踏板下ノ周壁ハ厚サ一枚以上ノ煉瓦、石材、「コンクリート」其ノ他滲透質材料ヲ以テ築造スルコト

七　糞尿壺ノ石材「コンクリート」其ノ他ノ不滲透質材料ヲ以テ堅牢ニ築造シ且雨水ノ流入ヲ防止シ得ル構造タルコト

八　抽出裝置ノ便所ニ在リテハ其ノ地盤ノ厚サ三寸以上ノ不滲透質材料ヲ以テ築造スルコト

九　汲取口又ハ差入口ノ扉ハ鐵製若ハ厚板製トシ常ニ完全ニ閉鎖シ得ベク且汲取又ハ差入後容易ニ閉鎖シ得ベキ構造タルコト

十　入口ノ扉ハ上下其ノ他ニ間隙ナク完全ニ閉鎖シ得ヘキ構造トシ成ルヘク自閉鎖裝置ト爲スコト

十一　外部ノ窓ニシテ開閉スルモノハ蠅ノ生育季中ハ成ルヘク網張ト爲スコト

十二　臭氣拔ヲ設クルコト

完全ナル用水便所ニハ第一號第五號乃至第十一號ヲ適用セズ

第二十八條　浴室流シ場ノ構造設備ハ第二十三條第一號ニ準スルモノトス

第二十九條　厩舍ハ住家ト隔離シテ之ヲ建築スベシ

床ハ「アスファールト」又ハ「コンクリート」等ノ防水材料ヲ以テ築造シ完全ナル排水設備ヲ爲スベシ

第三十條　飲用ニ供スル井戸ハ便所又ハ汚水溜ヨリ相當ノ距離ヲ存セシメ井戸側地上露出部分ハ不滲透質材料ヲ以テ地盤ヨリ二尺以上ノ高サニ築造シ其ノ周圍六尺以内ハ地上水ノ滲透ヲ防ク構造ト爲シ且適當ノ蓋ヲ設備スベシ

第三十一條　石炭、薪炭、骸炭及瓦斯等ヲ燃用スル火爐竈ノ類ニハ煙突ヲ設クベシ煙道及煙突ハ木質部ト相當ノ間隔ヲ保ツベシ土管又ハ金屬製ノモノニシテ木質部ニ接觸シ又ハ之ヲ貫通スルトキハ其ノ部分ヲ厚サ三寸以上ノ防火材料ヲ以テ圍繞スベシ

第三十二條　煙突ハ其ノ附近ノ狀況ニ因リ近接建物ニ對シ直接危害ヲ及ボサザル程度迄之ヲ延長スルコトヲ要ス

第三十三條　孤立煙突ヲ築造セムトスルトキハ詳細ナル圖面、仕樣書及附近建物配置圖ヲ提出シ關東長官ノ許可ヲ受クベシ

第三十四條　孤立煙突ハ其ノ種類、目的又ハ土地ノ狀況ニ因リ關東長官ニ於テ特ニ其高サ除煙除害ノ裝置其ノ他特殊ノ事項ヲ指定スルコトアルベシ

第二節　街路ニ面スル建物

第三十五條　建物ハ街路彊界線ヨリ一尺五寸ヲ距テタル線外ニ突出スルコトヲ得ズ

街路ニ面シ前庭ヲ設ケザル家屋ハ前項ノ線ニ面シ建築スベシ

街路ニ面シ前庭ヲ設クルトキハ第一項ノ線ニ接シ檐壁ヲ設クベシ

第三十六條　家屋ノ高サノ最高限ハ前面街路幅員ノ二倍トス但シ片側街ニ於ケル高サハ五等街路以下ノ場合ト雖五十尺迄許可スルコトアルベシ

幅員不同ナル二條ノ街路ノ隅角ニ建築スル家屋ノ高サハ廣キ街路幅員ニ依ル

第三十七條　家屋ノ高サノ最低限度ハ十二尺トス

第三十八條　屋根ノ高サハ三十尺ヲ超過セシムベカラズ

第三十九條　建物ニ接スル歩道下ハ採光用若ハ物置ニ充ツルモノニ限リ地窖ノ築造ヲ許可スルコトアルベシ

第四十條　地窖ノ土留壁ハ石、煉瓦又ハ「コンクリート」ヲ以テ之ヲ造リ地窖上部ハ鐵筋「コンクリート」煉瓦、等等ヲ以テ之ヲ築造スベシ

地窖ノ土留壁ノ最下部ノ厚サハ高サノ四分ノ一以上ト爲スベシ

第四十一條　歩道面ニ設クベキ窖孔ハ組面ノ鐵蓋又ハ鐵枠ニ各面積十平方寸以内ノ厚硝子板ヲ嵌込ミタル蓋ヲ以テ歩道面ト同平面ニ之ヲ蓋フベシ

第四十二條　街路彊界線ヲ去ル一尺五寸ノ線ニ接シ築造セル建物ノ外面突出物ハ左ノ各項ニ依ルベシ

出入口及窓ノ扉ハ路面上九尺以上ニ在ルモノ又ハ扉ノ外側ガ建物ノ外面ヨリ一尺ヲ出テサルモノニ限リ外開ト爲スコトヲ得

出窓、店窓、陳列棚、庇、露臺、蛇腹、樋、踏石、階段等ハ左ノ程度迄建物ノ外面ニ突出セシムルコトヲ得

一　路面上九尺未滿　一尺

二　路面上九尺以上　街路彊界線

三　軒蛇腹　二尺

軒燈、招牌、旗竿、飾時計及取外シ自在ナル日除ノ類ハ路面上九尺以上ニ於テ建物ノ外面ヨリ三尺以内ニ限リ之ヲ突出セシムルコトヲ得

第四十三條　街路又ハ路次ニ面スル家屋ノ屋根、露臺及庇等ニハ適當ノ軒樋及竪樋ヲ設ケ公設下水ヘ流下セシムル裝置ヲ爲スベシ

但シ小庇ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第四十四條　街路ニ面スル建物及附屬物ヲ汚損又ハ褪色ノ儘放置シ若ハ塗色不體裁ト認ムルトキハ之ガ補修又ハ塗換ヲ命スルコトアルベシ

第四十五條　假設煙突、煙突掃除口、便所（用水便所ヲ除ク）厩舍其ノ他之ニ類スルモノハ五等以上ノ街路ニ面シ設置スベカラズ

第四十六條　排水管、排氣管、暖房管、瓦斯管等ハ街路ニ面スル壁面ニ之ヲ露出セシムベカラズ

第三節　各地區ニ於ケル建物

第四十七條　家屋ノ建坪ト敷地面積トノ割合ハ在ノ制限ニ依ルベシ

商業地區	十分ノ四以上十分ノ七以內
住宅地區	十分ノ二以上十分ノ六以內
混合地區	十分ノ三以上十分ノ八以內

第四十八條　商業地區ニ於テハ四等以上ノ街路ニ面スル地區ノ公定建築線ハ街路彊界線ト一尺五寸ヲ距テタル線トス

街路彊界線ト建物トノ間ノ空地歩道敷石ノ設備アル場所ニ在リテハ石材、敷瓦又ハ「コンクリート」敷ト爲スベシ

第四十九條　商業地區以外ノ地區ニ於ケル公定建築線ハ必要ニヨリ之ヲ指定スルコトアルベシ

第五十條　工場地區以外ノ各地區ニ在リテハ四等以上ノ街路ニ面スル家屋ハ總テ二階建以上ト爲スベシ

第五十一條　商業地區ニ於テ街路ニ面シ隣家トノ間ニ空地ヲ存スルトキハ高サ六尺以上ノ檣壁ヲ設クルコトヲ要ス

第五十二條　商業地區ニ於ケル表屋ノ高サハ左ノ制限ニ依ルベシ

大廣場ニ面スルモノ	六十尺以上
西廣場、南廣場、數島廣場、數島遊歩地、一等街路二等街路ニ面スルモノ	四十八尺以上
三等、四等街路及五等街路ノ幅四間以上ノモノ	二十五尺以上
五等街路ノ中幅四間以下ノモノ	二十尺以上
六等街路ニ面スルモノ	十二尺以上

第五十三條　住宅地區ニ於テ宅地面街路面ヨリ高キ場合ハ其ノ高サ三尺以內ニ在リテハ街路面ニ於テ彊界線ニ沿フテ土留壁ヲ築造スベシ高サ三尺以上ニ在リテハ三尺以下ヲ土留壁トシ他ハ一割五分勾配ノ土羽打ト爲スコトヲ得

前項ノ土留壁ハ石造又ハコンクリート造トシ其ノ壁面勾配ハ十分ノ二トス

第五十四條　住宅地區ニ於ケル牆壁ハ木造又ハ生垣ト爲スコトヲ得

第五十五條　建築物ニシテ住居ノ安寧ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ住宅地區ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ

第五十六條　工場其ノ他之ニ準スベキ建築物ニシテ規模大ナルモノ又ハ衛生上有害若ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノハ工場地區內ニ非ザレバ之ヲ建築スルコトヲ得ズ

必要ト認ムルトキハ前項ノ建築物ニシテ著シク衛生上有害又ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノニ付テハ工場地區内ニ於テ其ノ建築ニ付特別ノ地區ヲ指定スルコトアルベシ

第五十七條　工場地區内ニハ住家ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ職工寄宿舍同所又ハ工場管理者ノ住宅ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十八條　工場地内ニ於テハ倉庫、上屋、物置及荷扱場ノ類ハ平家建ニ限リ木造ト爲スコトヲ得但シ屋根ハ耐火材料ヲ以テ葺スベシ

前項ノ木造家屋ハ街路ニ接シテ建築スルコトヲ得ズ

第五十九條　惡臭、有害瓦斯若ハ粉塵ヲ發散シ又ハ石油「ガソリン」酒精、燐寸若ハ煙火等ノ如キ危險物ノ取扱ヲ爲ス工場及倉庫ハ別ニ規定アルモノノ外左ノ制限ニ依ルベシ

一　街路隣地彊界線及他ノ家屋ト三十尺以上ノ間隔ヲ存スルコト

二　完全ナル除害設備ヲ施行スルコト

三　出火ノ虞アルモノニ在テハ耐火構造トシ出入口及窓ニハ防火扉ヲ裝置スルコト

第三章　申請手續竝施行監督

第六十條　建物ヲ建築セントスル者ハ許可ヲ受クベシ設計ノ變更ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

第六十一條　前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左記ノ事項ヲ具備シタル申請書二通ヲ提出スベシ

一　申請者ノ氏名、住所及職業

二　建物ノ敷地町名番地、敷地坪數、建物ノ名稱、種類、使用ノ目的、構造、建坪

三　工事ノ著手及竣成ノ時期

四　敷地所有者ノ氏名

五　工費豫算

前項ノ申請書ニハ各通毎ニ左ノ圖面及書類ヲ添附スベシ

一　敷地測量圖及建物配置圖　縮尺六百分乃至二百分ノ一

二　各階ノ平面圖　縮尺百分ノ一乃至五十分ノ一

三　主要ナル立面圖　縮尺百分ノ一

四　主要ナル斷面圖　縮尺百分ノ一

五　主要ナル部分ノ矩形圖　　縮尺二十分ノ一

六　工事仕樣書

七　敷地カ自己ノ所有ニ屬セザルトキハ承諾書、契約書其ノ他自己ノ使用權原ヲ證スベキ書類

必要アリト認ムルトキハ前項ノ外事業計劃書、詳細圖及構造強度計算書ヲ添附セシムルコトアルベシ

第六十二條　前條ノ圖面竝仕樣書ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　配置圖ニハ道路、隣接土地、隣接建物トノ關係及在來建物トノ關係ヲ明示シ且必要ナル距離ヲ記入スルコト

二　平面圖ニハ各室ノ大サ、壁ノ厚サ、用途、小屋伏、小屋材、床材ノ大サ、間隔、暖爐、機關、昇降機、階段ノ位置、排水管、汚水管、換氣管、煙突等ノ位置及內徑ヲ明記スルコト

三　立面圖ニハ正面、背面及側面ノ姿圖ヲ記載スルコト

四　斷面圖ニハ軒高、各階ノ高サ、室ノ高サ、路面ヨリ度リタル各階ノ高サ及基礎、階段、隣接建物トノ高サノ關係ヲ明示スルコト

五　圖面ニハ申請ニ係ル部分ト在來ノ部分トノ著色ニ依リ區分スルコト

六　圖面ニハ總テ尺度ヲ記入スルコト

七　仕樣書ニハ材料、品質、構造、施行方法其ノ他必要ナル事項ヲ明記スルコト

第六十三條　主任技術者ハ工事ノ設計竝施行上技術ニ關スル一切ノ責ニ任スベシ

圖面仕樣書及構造強度計算書ニハ主任技術者之ニ署名スベシ

主任技術者自ラ工事ヲ監督スルコト能ハザルトキハ工事監督者ヲ定メ屆出ツベシ

第六十四條　申請者ノ工事著手三日以前ニ起工月日ヲ屆出ツベシ

第六十五條　期間內ニ著手又ハ竣成シ難キトキハ期限前ニ事由ヲ具シ延期ノ出願ヲ爲スベシ

第六十六條　建築ノ許可ヲ受ケタル後一箇年以內ニ工事ニ著手セザルカ又ハ一箇年以上工事ヲ中止シタルトキハ關東長官ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メ未成工事ノ完成ヲ命スルコトアルベシ

第六十七條　許可ヲ受ケタル建築工事關係書類ハ常ニ建築現場ニ備ヘ置クベシ建築工事中關東長官ハ隨時吏員ヲ派遣シテ工事ヲ檢查セシメ許可ヲ受ケタル圖面仕樣書ト相違シ若ハ本令ノ主旨ニ違反シタルモノト認メタルトキハ工事ノ改修、撤去又ハ中止ヲ命ズルコトアルベシ

第六十八條　工事監督者ニシテ不適任ト認ムルトキハ關東長官ハ其ノ改任ヲ命スルコトアルベシ

第六十九條　工事竣成シタルトキハ直ニ届出テ檢査ヲ受クベシ

第七十條　本令ニ依ル願、届ハ大連民政署長ヲ經由スベシ

第四章　罰則

第七十一條　本令又ハ本令ニ基キテ爲シタル處分ニ依リ許可ヲ受クベキ場合ニ許可ヲ受ケズシテ工事ヲ施行シタル者又ハ第五條ノ命令ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十二條　本令ニ基キテ爲シタル處分若ハ命令ニ違反シ又ハ故ナク檢査ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ゲタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十三條　前三條ノ規定ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者又ハ清算人無能力者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者其ノ營業ニ關シ前三條ニ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ建築人ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ前三條ニ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ズ

附則

第七十四條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第六十三條ハ大正八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十五條　大連市家屋建築取締假規則ハ之ヲ廢止ス

第七十六條　本令施行ノ際現在スル建物ノ內大連市家屋建築取締假規則ニ基キ許可ヲ得テ建築シタル假建築家屋並同假規則ニ據ラズシテ建築シタル建物ハ必要ト認メタルトキハ期間ヲ定メ改築又ハ取拂ヲ命スルコトアルベシ

第七十七條　第一條ノ隣接地域ハ別ニ之ヲ告示ス

（別　表）

大連建築規則第十一條別表

一　煉瓦造、石造、粗石造建物ノ基礎及壁體用「コンクリート」竝「モルター」調合表

（容積比）

	セメント	石灰	砂	凝元體	
セメントモルター	一	―	四	―	煉瓦造石造及粗石造 普通工事用
石灰入セメントモルター	一	三	七	―	同 同
同	一	二	五	―	濕地工事用
石灰モルター	―	一	二	―	同 軒高十尺以下ナル煉瓦造石造粗石造附屬裏屋竝塀壁ノ類ニ限ル 基礎工事用
セメントコンクリート	一	―	四	九	
石灰入セメントコンクリート	一	三	七	二〇	同

二 鐵筋「コンクリート」用材料調合表（容積比）

セメント	砂	凝元體	
一	二	四	床板梁桁柱ノ場合
一	三	六	壁體ノ場合

三 各種建築材料重量標準表

名稱	積	一立方尺ノ重量（斤）
煉瓦		一一二
花崗石及大理石		一六五
其他ノ石材		一五〇
石炭燼ヲ凝元體トナス「コンクリート」		一一〇
煉瓦屑ヲ凝元體トナス「コンクリート」		一二〇
碎石、砂利ヲ凝元體トナス「コンクリート」		一四〇
小砂利ヲ凝元體トナス鐵筋「コンクリート」		一五〇

四　各種建築材料安全應力表（一平方吋、听）

名稱	應壓力 f_c	應張力 f_c	應剪力	應折力
紅松、エゾ松	八〇〇	八五〇	一〇〇 五五〇	八五〇
白松、トドマツ	七五〇	一三〇〇	一二〇 六〇〇	一〇〇〇
落葉松 唐松	一一〇〇	一二〇〇	三〇〇	一一〇〇
鹽地	九〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一三〇〇
花崗石	一五〇〇	—	—	一五〇〇 三〇〇
凝灰岩、砂岩	五〇〇	—	—	—
コンクリート　セメント一、砂二、砂利四	六〇〇	五〇	五〇	五〇
同　セメント一、砂三、砂利六	五〇〇	—	—	—
煉瓦積「セメント」「モルター」ヲ用ヒタルモノ	三〇〇	—	—	—
同　石灰「モルター」ヲ用ヒタルモノ	七〇	—	—	—
鋼	一六〇〇〇	一六〇〇〇	一〇〇〇〇	一六〇〇〇
鋳鐵	一六〇〇〇	一六〇〇〇	一〇〇〇〇	一六〇〇〇
鑄鐵	一二〇〇〇	一二〇〇〇	八〇〇〇	一二〇〇〇
鑛鐵	一二〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇

五　床ノ構成材料計算用最少荷重表

床ノ種類	一平方尺ノ活荷重(斤)	備考
住家	六五	上記荷重ハ梁ニ對シテハ一割五分大梁ニ對シテハ二割以内ヲ減ズルコトヲ得
事務所學校	一〇〇	
食堂、劇場、其他公衆集合ノ用ニ使用スル室	一二〇	
店舗	一二五	
輕量品倉庫	一五〇	
重量品倉庫	二五〇	

風壓力		
水平風壓力	垂直平面一平方尺ニ付	四十斤以上
孤立煙突	同	四十五斤以上

六 地盤ニ對スル安全荷重限度

地盤ノ種類	一平方尺ノ荷重(噸)
軟質赤土ノ類	○・五
硬質赤土ノ類	二・○
密實ナラザル砂	三・五
密實ナル砂	四・○
砂交リ粘土	一・五
軟質ノ粘土	一・○
硬質ノ粘土	三・○
砂交リノ砂利	四・○

密實ナラザル砂利	三・〇
密實ナル砂利	六・〇
軟岩	五・〇
硬岩	一〇・〇

七　抗壓長材ノ安全荷重算定式

（一）木材ニシテ主ナル支柱間ノ距離其ノ斷面最小徑ノ十二倍ヲ超ユルトキ

$$P=\frac{Afc}{1+\frac{1}{250}\left(\frac{L}{d}\right)^2}$$

P　安全荷重

A　有效斷面積（平方吋）

fc　安全應壓力（平方吋、斤）

I　重ナル支點間ノ距離（吋）

d　斷面ノ最少徑（吋）

（二）鐵材ニシテ主ナル支點間距離斷面ノ最小環動半徑ノ三十倍ヲ超過スルトキ

$$P=\frac{Afc}{1+c\left(\frac{L}{K}\right)^2}$$

K　斷面ノ最小環動半徑（吋）

C　鋼若ハ鍊鐵ニ在リテハ一萬八千分ノ一鑄鐵ニ在リテハ三千二百分ノ一トス但シ兩支點共ニ回轉自在ナルトキハ各其ノ二倍トス

（三）梁材ノ安全彎曲率

S　M　安全彎曲率（吋　听）

$M \frac{L}{fe} S$　fe　te　安全應折力（平方吋、听）

S　斷面率

關東廳令第十八號

大連市建築規則ニ依ル主任技術者檢定規則左ノ通定ム

大正八年六月九日　關東長官　男爵　林　權　助

大連市建築規則ニ依ル主任技術者檢定規則

第一條　左ノ資格ノ一ヲ有スル者ハ檢定委員ノ銓衡ヲ經テ無試驗ニテ第一級主任技術者タルコトヲ得

一　帝國大學工學部建築學科ヲ卒業シタル者

二　高等程度ノ工業學校建築科ヲ卒業シ二年以上實務ニ從事シタル者

三　建築ニ關シ前號同等以上ノ學識經驗アリト認ムル者

第二條　左ノ資格ノ一ヲ有スル者ハ檢定委員ノ銓衡ヲ經テ無試驗ニテ第二級主任技術者タルコトヲ得

一　高等程度ノ工業學校建築科ヲ卒業シタル者

二　中等程度ノ工業學校建築科ヲ卒業シ三年以上實務ニ從事シタル者

第三條　三年以上建築技術ノ實務ニ從事シ且檢定試驗ニ合格シタル者ハ第二級主任技術者タルコトヲ得

前項ノ檢定試驗ハ中等程度ノ工業學校卒業程度ニ依ル

第四條　試驗檢定ハ每年一回之ヲ行ヒ其ノ期日及場所ハ豫メ關東廳廳報ニ之ヲ公告ス但シ關東長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時ニ之ヲ行フコトアルベシ銓衡檢定ハ隨時之ヲ行フ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ主任技術者タルコトヲ得ズ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二　破產者ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セズ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘザル者

第六條　主任技術者タラムトスル者ハ履歷書及市町村長ニ於テ前條各號ニ該當セザルコトヲ證明シタル書面ヲ添ヘ別記第一號樣式ニ依リ申請シ關東長官ノ檢定ヲ受クベシ

第七條　檢定ヲ申請スル者ハ檢定料金五圓ヲ納ムベシ
既納ノ檢定手數料ハ檢定ヲ受ケザル場合ト雖之ヲ還付セズ
第八條　學校病院劇場會堂相當規模ノ工場其ノ他公共的建物ハ第一級主任技術者ニ非ザレバ其ノ工事ヲ擔任スルコトヲ得ズ
第九條　主任技術者ハ大連又ハ其ノ附近ニ住所若ハ事務所ヲ有スルニ非ザレバ其ノ業務ニ從事スルコトヲ得ズ
第十條　主任技術者ハ建築人ニ對シ別表標準以外ノ報酬ヲ要求スルコトヲ得ズ
第十一條　主任技術者建築人ニ對シ不當ノ報酬ヲ要求シ若ハ大連市建築規則ニ違反シ又ハ第五條各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ檢定ヲ取消スコトアルベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）　第一號

建築事業主任技術者檢定申請書

原籍

申請人　氏　　名

生年月日

檢定ノ等級　第（何）級

私儀大連市建築規則ニ依ル主任技術者檢定規則（第一條ニ依リ前記等級ノ銓衡）（第二條ニ依リ前記等級ノ銓衡）（第三條ニ依リ前記等級ノ銓衡）檢定相受度同規則第六條ニ依ル書類相添ヘ此段及申請候也

現住所

年　月　日　　右　氏　　名　㊞

關東長官宛

（別表）

主任技術者報酬標準

一　住宅、商店別莊、旅館、料理店、寄席、倶樂部、劇場、社寺ノ類ハ第一號ニ依リ其ノ報酬內譯ハ左ノ如シ

略設計　　全報酬ノ一割

本設計　同　四割二分
豫算　同　六分
監督　同　四割二分

一　學校、官衙、病院、博物館、圖書館、銀行會社ノ類ハ第二號ニ依リ其ノ報酬內譯ハ左ノ如シ

略設計　全報酬ノ一割
本設計　同　四割三分
豫算　同　五分
監督　同　四割二分

一　倉庫、工場、臨時的建物ノ類ハ第三號ニ依リ其ノ報酬內譯ハ左ノ如シ

略設計　全報酬ノ七分
本設計　同　四割五分
豫算　同　三分
監督　同　四割五分

工費報酬	第一號 工費ニ對スル百分率	第二號 工費ニ對スル百分率	第三號 工費ニ對スル百分率
五千圓	五、六九	五、一二	二、八四
一萬圓	四、八〇	四、三二	二、四〇
二萬圓	四、〇九	三、七〇	二、〇五
三萬圓	三、七六	三、三七	一、八八
四萬圓	三、五四	三、一九	一、七六
五萬圓	三、三七	三、〇四	一、六九
十萬圓	二、九八	二、六八	一、四八

二十萬圓	二、六四	二、三八	一、三二
三十萬圓	二、四七	二、二三	一、二四
四十萬圓	二、三九	二、一五	一、一九
五十萬圓	二、三二	二、〇八	一、一六
百萬圓	二、一一	一、九一	一、〇五
二百萬圓	一、九七	一、七八	〇、九八
三百萬圓	一、八九	一、七〇	〇、九五
五百萬圓	一、八一	一、六三	〇、九一
一千萬圓	一、七三	一、五五	〇、八六

米國の家屋制

米國の都市に於ては稠密超過の弊害まだ甚しからず之れ地價頗る低廉なるの故を以て一方には交通機關の發達が人口の集中を助成せるにも拘はらず、尙は建築物は廣大なる區域に蔓延しつゝあるが爲なり。然れども、東部諸洲の都市にては、此種の家屋建築問題は既に緊急問題と認めらるゝに至れり。而して大都市には建築局なる行政の一機關ありて、諸條令の執行を司り、若し家屋の建築或は改繕に關する申出ありたるときは、該局の建築官及び檢査官は、其れに對して改良圖案を提示し、建築申告者をして此の提案に服從せしむるを要求す。



住宅改造（下）

會員　葛野壯一郎

（七）

改造の第一歩は、吾々の住宅から先づ疊を取除く事で有ります。即ち舊來の疊の上で飲食談話睡眠する風習を一掃して、腰掛椅子卓子による歐米風に改造する事で有ります。更らに換言すれば飲食衣服建物調度に就て、現在吾々多數者が非常な苦痛として餘儀なくされて居る二重我は二重の生活から脫却する事で有ります。凡ての階級を通じて何人も、其不便と不經濟を口にしながら容易に遁れる事の出來なかつた難關を、此絶好の時期に會して思切つて頓悟脫出する事で有ります。立派な疊敷の客室の外に更らに洋風の客室を設け、是れに附屬する玄關便所椅子卓子飾棚其他敷物裝飾品の二重設備は勿論として、衣服食器食糧品調理具迄凡て二樣三樣の準備を整へ、さなきだに過渡時代の混亂を極めた吾々の生活の上に、一層の繁雜混亂を重ねて居る吾々現在日本人の生活程異樣なものは、恐らくは世界未曾有のものでは有るまいか。明治年間の五十年を苦しい不都合だとコボしながら、それでも無事此重混復亂に耐へて來たのは未だ〳〵吾々の生活が世界的では無くて日本的に、至極無事安穩のもので有つたといふ事が明らかに知らるゝので有ります。併し太平は何時までもつゞかない、吾々は今や日本人といふ名門の上に、更らに世界人としての名聲をうけた代償として、同時に生活に對する世界的脅威も

亦世界なみに引受けなければならぬ破目となつたので有ります。成金やら富豪抔には脅威が何で有らうと勿論問題にはなるまいが、中産以下殊に多數の俸給生活者の如き、今日充分是れに對して備へる處がなかつたならば、近き將來に於ける、多數吾が日本人の生活は實に悲慘に終らなければならぬので有ります。此爲に吾々は先ず重復混亂生活の改造に着手し、其第一歩として住宅の世界化……即ち先ず先祖代々親しんで來た疊と、袂で奇麗に手を切る事が急務中の急務で有ります。

（八）

疊に對する執着の最強いのは言迄も無く老人と婦人で有ります。單に疊に限らず何れの場合にしても、進歩の障害となるものは老人と婦人の力が重きを爲す事に有る樣で有ります。と言つたからとて私は決して老人や婦人を尊重しないものでは無いが、元來が保守的消極的思想習慣に支配せらるゝ部類で有るから、住宅改造の如き積極的事業に在つては、氣運を促進するよりは却つて支障し、改新よりは保舊に傾き易い點に於て、此際特に老人と婦人の熟考を煩し度いので有ります。從來にも主人の意向で其住宅の世界的改造が屢々計畫せられたにも拘はらず其れが常に老人と婦人の抗議のために、頗る姑息な間に合せ物に終つた例は頗る多い。是れは必ずしも婦人や老人が惡いと云ふのでは無くて其智識思想習慣が男子と併行して行かない點に有る事は勿論で有りますが、併し斯の如く老人と婦人と若い男子との間に思想習慣の大きな距離の有る事を認めなければならぬ樣な我日本の現代社會は、最不幸なるもの一つで有らねばならぬので有ります。殊に我婦人の衣服や住居に對する觀念が、舊習を守るといふ事の外に一歩も踏み出す事の出來得ない現狀に至つては、其原因の如何を論ぜず、差當り緊急重要にして而も裏口迄差迫つて居る我住宅改造運動にとつては、非常なる難關となる可きもので、如何にして是を突破す可きかゝ、充分考察を要する事

項とならねばならぬので有ります。永い間疊の上でならされて、衣服調度一切の持物から日常座臥の動作まで、凡て疊と離す可からざる因縁を結んで來た老人や婦人から、突然而も全部吾々の家庭に於ける疊を取除くといふ事は、事實堪え難き事で有るかも知れないが、併し吾々は其等の苦痛をも忍んで思切つて其改造の斷行をしなければならぬ程に、吾々の生活は窮迫して來て居るので有ります。老人も婦人も今は躊躇す可き時では無い。大勢の示すところに向つて前進し、唯々としてよく時代に適應するだけの策を廻らすより外は無いので有ります。

（九）

疊に對する執着を單に老人婦人の問題の如く述べたが、必ずしも老人と婦人に限らず男子の間にも相當の執着心は存じて居る。いくら寂れた片田舍でも、鄉土の懷しさは又格別のものが有るが如く、左樣に吾人の疊に對する觀念は公平を缺いで居るので有ります。生理上からしても衛生上からしても、經濟上からしても體裁からしても座習の損益は、損多くして益すくない事が容易に認められるゝにも拘らず、矢張疊から思切つて離れる事の出來得ないのは、多數男子の是に對する執着力が其重大な因をなして來た事をも認めなければならぬので有ります。殊に外部に活動する多數の男子が、洋服を着用し洋館の內で椅子に倚つて日々事務に從事して、さて家庭に歸れば再び和服に改めざる可からざる樣な不便を忍びてまでも、尙疊を主張する程其愛着心の强いといふ一事に觀ても、疊の廢止は異常の理解と努力を要するので有ります。併し同一疊の上で坐臥飮食をするといつた原始的生活狀態が、現代の高い文明生活からは如何にヒイキ眼に觀ても認容せらる可きものでは無い事が知られるゝならば、吾々は最早一日も疊に戀々として居る可きでは無い、殊に一面に於て物價の世界的暴騰に伴ふ、經濟的脅威が一日々々と急迫する此場合に於ては猶更の事で有るので有ります。建築費の比較的安價な時代には、和

洋両様の室を準備するといふ事は、必ずしも困難な仕事では無つたといつても、其れすら特種の階級に限られたので有るから、況んや今日の様な三倍或は其以上までも工費の騰貴して居る時代に、到底何人にも普く滿足を與へ得る様な二元組織の住宅は不可能で有る、是非是を一元組織に改造して建築以外衣食の方面にまで革新の實を擧る事が必要で有ります。住宅改造は少數の問題では無くて多數の問題で有ります。特種階級の問題では無くて、一般に共通の問題で有ります。其實行の結果が何人にも行渡る様な極めて普遍的のもので是非有らねばならぬと信するので有ります。

（十）

疊廢止を急速に且つ確實に實行せんが爲めに私は疊殊に今後新築せらる可き建築に使用せらるゝ疊に對して、特に課稅する事の可を思ふ者で有ります。疊に稅金を課するといふ様な事を言ふは、如何にも突飛で且つ亂暴だと云ふ批難が必ず有る可きだと信ずる次第で有りますが、併しチョン髷を命令を以て、無理にも切らせなければならなかつた事を思へば、今後の住宅建築に在つては寧ろ贅澤品に屬す可き疊に對して且つは國民的生活向上の根底支障となる上に於ても、新規疊敷に對する課稅は必ずしも不合理では有るまいと考へるので有ります。既に疊敷となつて居つて、其れからたゝ疊のみを取除く事の出來ない様な在來の住居に對して、假に疊稅を課したといふ様な事で有れば、素より其は非常な壓迫に相違ないけれども、疊を全然取除く事を以て基礎的約束とする改造住宅に對し、物數奇に或は贅澤に使用されたる疊に對して、或は又大勢に逆行して何處迄も舊慣固執にとらはれたる舊式住宅防止策として、便宜斯の如き稅目を設くる事は、決して多數者の不幸では無く、今や吾々の求めて未だ得られない新安定の地點に到達する、唯一の捷徑では有るまいかと考ふるからで有ります。勿論斯麼突飛なる手段を講じないで、疊廢止が實行せらるゝならば非

常に結構には相違ない、けれども、國民生活の根底に深く滲潤したる習俗は、机上の議論だけでは容易に解決さるゝものでは無い、何等か必ず其改造を促進せしむるだけの一面に拘束が有る事は、急速に且つ確實に實行の氣運を促す點に於て、時に有効なることは明らかである、多少な異論や批難が有つても、其結果に於て其れが非常に善良で有るといふ事に對して思案する必要は無い、社會の先達時代の嚮導者たらん者は是非是れ位の勇氣が無ければ、到底眼さましき改造の實は擧げ得らる可きもので無いので有ります。

（十一）

吾人の住居から疊を全廢するといふ事は、床天井壁窓出入口の構造に多大の變化改造を餘儀なくする事は勿論で有ります。併し疊を廢するといふ事が直ちに、在來の吾が住宅を所謂洋風建築に改造するといふ意味とはならない、疊に換ゆるに椅子を使用するといふ事に支障の無い限り、其樣式の如きは居住者の趣味によつて、箇々如何樣にも決定せらる可きもので有るのみならず、費用の上にも密接の關係が有る事で有るから、是を爰に限定する樣な事は出來る筈のものでは無い、要は華を捨てゝ實を取るを原則とするより外は無いので有ります。使用の材料の如きも、最早今日では以前の樣に贅澤に木材を使用する事が出來ない、限り有る工費殊に切つめた豫算で以つて、素地の美くしい木理を賞玩する樣な雜作普請は不可能で有る、何と云つても經濟上の壓迫から、自ら木材にしても非常に劣等な、塗料なしには其儘置く事の出來ない種類の物を使用するか、或は木材以外混凝土とか、石煉瓦とか、地方的に手近で手輕に得らるゝ材料を、壁体の重な材料として用ゆる樣になるのは當然で有ります。殊に疊廢止の結果は、從來の如く室なり家全体なりを間といふ單位で押へて行く樣な不便が無くなり、其結果としては混凝土や石煉瓦の如き耐久的材料をも、最自由に且つ有効に家の各部分に利用する事が出來

るのみならず、窓や出入口の如きも在來の二間とか一間とかいふ規格から離れて、頗る自由な大少必要に應じて經濟的且つ衛生的のものに、設計する事が出來るので有ります。其出來上つたものが、縱し什麼外觀を呈するとしても、世界人としての趣味と品位を損じない限りは、素より深く問ふ程の事は無いので有ります。近年米國殊に西部地方で最流行するバンガロー風が吾等の趣味に適するからといつて、是非それで無ければならぬ樣な摸寫的愚を何處にも繰返す必要は無いので有ります。何處迄も吾々は吾々の住居を建設するので有ります。日本人として同時に世界人として、現代の文化生活に適合する樣な形式威容を整へさへすればよろしい、吾々が最困難とする疊全廢が支障なく滿足に成就せらるゝならば、吾々は其樣式如何の如きは深く問ふ必要は無いので有ります。

（十二）

疊の全廢に就て差當り不便として起る可き問題は、是が爲めに特に寢室を設くる必要を生ずる事で有ります。疊の上ならば今迄食事や談話をして居つた室を、すぐ寢室に早替りさせる事が出來る、現に吾々多數の住居は、此寢に流通自在の寢室を有ち、唯一の安靜所として暮し來つて居るので有ります。成程是れは便利で有るに相違無い、併しただ便利で有るからと云つて、其れが皆滿足す可きものでは無い、特に寢室を有たぬといふことは、既に內外の識者が屢々言つて居るが如く、衛生上また風規上決して宜い結果をもたらすものでは無い。完全な且つ靜かな安心して眠る事の出來る寢室を有つといふ事は、家殊に住居として最必要な資格で有ります。在來の樣な、特に寢室らしい寢室を用意して居らないといふ事は、決して自慢にはならない、現代或は將來の高い居住慣習からは、是非とも要求せらる可き筈の事で有るので有ります此意味に於て疊の廢止が、特に寢室の設備を要する事は、不便には非ずして寧ろ利便として特筆す可き條項で有ります。階下或は階上、其何

れを選ばず、簡單にして靜かな衛生的に完備したる寢室を設ける事は、曇廢止と共に改造の最主なる要目たる可きもので有ります。寢室を外にして室を兼用するといふ事は、必ずしも曇を廢したからとて不便な譯では無い、寧ろ其れ以上便利に例令ば台所と食堂と、食堂と居間客室とか、客室と書齋とか思つた樣に兼接して、出來るだけ僅少の室數で凡ての利便を兼ねる事が近代的一般住宅の要儀で有るので有ります。上下水道電燈瓦斯蒸氣溫湯等、必要の設備を遺憾無く完備する事は、給水排水採光採溫食物調理等、近代文化的生活を遺憾なく成就するためには、是非とも必要な事で有ります。水洗の便所の始末すら容易につける事の出來ない樣な現今の狀態では、是亦如何とも出來ない次第で、住宅改造の運動は其邊まで深く徹底したもので有らねばならぬ事は更めて論ずる迄も無い事實で有ります。（完）

共同の生活と共同の遊戲

現代の民主政治の弱點は、其産業制度に在るのではなく、慰安方法に在るのである實際、人は皆合同して協同勞作の價値を實證してゐる。然し、奈何にして共同し如何にして遊戲すべきかと云ふ事を知らない。否、曾ては誰も知つてゐたのであるが、中世以後斷絕した儘現代人はまだそれを再發見してゐないのである。亞米利加に於けるが如き大なる産業地に在つては、より大なる民俗的慰安が必要であるといふことも知らない。曾に産業地のみならず、邊鄙な農業地に於ても其必要の逼迫せることは異らない。——それが近代生活に於ける實際的價値であらればならぬ。



都市計畫に關する法制

（畢）

内務省都市計畫課長　池田宏

（既出）

（一）都市發達の原因
（二）都市人口集積の弊と都市計畫運動
（三）都市發展の趨勢と其對應策の基礎觀念
（四）都市計畫法と市街地建築物法
（五）都市計畫法の要項
（1）都市計畫區域の決定
（イ）市域の編入
（ロ）組合の强制
（2）地域制度
（3）地域利用開發の計畫
（4）衛生上の計畫
（5）都市計畫の決定機關
（6）事業の執行
（7）事業の財源

（8）事業用地の獲得

用地の獲得に關する方法は我國に在りては土地收用法の規定する所なり、然るに東京市區改正條例以來市區改正事業の爲には特別なる制度を布き特に市區改正事業の促進を期せるものあり（東京市區改正條令、土地建物處分規則）此の制度は執行に便なるの點に於て長所ありと雖も其の實質に於て今日の法律觀念（R. gefühl）に適せざるものあると共に其の形式に於て手續上の不備あり、一般に都市計畫法の一部として採用し難きものあり、さればとて之を廢して土地收用に關する一般法の規定に依らしむるは必ずしも當らず、何となれば我國現行收用法の母法は十九世紀の初半に制

定せる歐洲諸國の立法即都市が今日の如く發展を遂げざりし時代の立法に係り、謂はゞ農業國立法なるが故に都市の立法として其の儘執行するに適せざるものあり、依て新法は收用の手續收用の效果に於て大體土地收用法の規定に依ることゝし以て市區改正に伴ふ特別收用法の形式及實質上に於て有する缺點を補正したるも二三の點に於て土地收用法に對する例外を規定し、以て都市事業用地の收用法たるに適せしめたり

（イ）**手續上の特例**　土地收用法に依るときは收用の手續として先以て事業認定に關する內閣の決定を得るを必要條件とす（第二條）假令收用し得べき事業に該當するも（第二條）又假令其の法令に依り主務官廳の特許又は許可を受けたるものと雖も必ず此の手續を履行するに非ざれば收用の手續を採るを得ず（第一條）然るに起業者が內閣の認定を受けむとする場合には起業地內に國有地、社寺境內地、名所舊蹟及古墳墓其の他現に公用に供する土地あるときは其の土地に關する調書及圖面を申請書に添付せざるべからざるを以て（施行令第三條）都市に在りては殊に其の調査に頗る多大の日子を要するのみならず其の間建築物其の他工作物の工事其の他土地の形質變更又は土地に關する權利の設定變更等都市社會上の必要に基き種々なる事實上及法律上の關係錯綜を極め、爲に收用手續上の事務銳敏を缺き、執行をして困難に陷いらしめ或は設計の變更を餘儀なくするに至るの虞あり、斯くの如きは公益事業の執行を目的とする收用法の精神に非ざるを以て本法は機宜の措置を講じ都市計畫事業に對する內閣の認可（第三條）を以て收用法上の內閣の認定と看做し、此等の煩瑣なる手續を履行することなくして直に收用の手續に入るを得べからしめたり（第一九條）是都市計畫の施設は都市の交通保安衛生經濟等に關する永久に公共の安寧を維持し又は福利を增進するの重要施設なる以上は（都第一條）其の收用法に所謂公共の利益と爲るべき事業（土第一條）たるは疑なきのみならず、此の事業たる、行政廳の執行するを原則とするが故に、（都五條一項）實質上收用法が土地を收用することを得

る事業として列記したる事業の一に該當すべき（土三條）に依り其の事業及其の計畫に付、一旦內閣の認可を受けしめたる以上は其の公共の利益と爲るべき事業たること確認せられたるものと謂ふべきが故に更に收用法上の認定手續を强制するの必要なかるべければなり。

（ロ）**收用審査上の特例**　收用法に依る土地の收用に關する協議調はざる場合又は其の協議を爲すこと能はざる場合には起業者は收用審査會の裁決を求むべきものにして（土二二條第二項）收用審査會は收用すべき土地の區域、損失の補償及收用の時期の三點に關し收用の裁決を爲すべきものなるも（土三五條第一項）收用法に依る事業の如く收用區域及收用時期が原則として起業者の意思に依り協議せらるゝものに在りては其の適否に付爭あるときは公の機關をして裁決せしむるの必要あるとは雖も都市計畫事業の如く事業計畫及事業の執行を要する年度が內閣の認可を受け主務大臣の決定を經たるものにして（都三條）行政廳に之が執行を命せらるゝものなる以上（都第五條第一項）は其の事業用地の區域及收用時期の如きは既に公の機關に依る決定上の準據を得たる物と謂はざる可らず故に本法は此の二點に付ては收用審査會の裁決を求むるを得ず、損失の補償に關する協議に對してのみ收用審査會の裁決を求むること收用法の原則の如からしめたり（都二〇條）

（ハ）**收用の目的に關する特例**　收用法に在りては收用の目的を土地に限りたるも（一條一項）水の使用に關する權利其の他土地に關する所有權以外の權利又は土地に屬する土石砂礫の收用に付ても土地收用法の規定を準用し得べからしめたり（七條八條）然るに都市生活に在りては建築物亦衛生又は保安上の目的より特に收用の目的たらしむるの必要あるを以て本法は之に備へたることは曩に（三）不良地區整理計畫の下に於て述べたるが如し（都一七條）而して其の收用手續及補償の問題等收用法上の關係に於て起る事項の適用に付ては工作物を土地と看做し土地の收用に關する規定を工作物の收用に關し適用することゝせり（一八條二項）

（ニ）**收用することを得る事業の特例**　收用法に在りては收用することを得る事業を列擧して明文を以て公共の利益と爲るべき事業の範圍を限定せるも(二條)本法は苟も都市計畫の施設として都市計畫委員會の議を經て主務大臣の決定せる事業(三條)にして內閣の認可を受けたるものなるに於ては汎く土地を收用することを得せしめむとするの點に於て、收用法の一大例外たり、(一六條第一項)抑都市計畫の施設たる第一條に於て其の性質は第一次に限定せられ其の內容たる事業は第二次に都市計畫委員會の議と主務大臣の決定及內閣の認可に依りて限定せらるゝも(第三條)尙甚汎きに失するの嫌なきに非らず、斯の如きは公益事業に對する利益の保障上遺憾の點なしとせざるが故に本法は其の收用し得べき事業の範圍は之を勅令を以て明定し其の他の事業に對しては收用を認めざるの主義を採れり(一六條第一項)

然るに其の勅令を以て指定すべき施設なるべきも都市計畫上特に重要なるが故に本法自ら明文を以て收用することを得る事業の一なることを規定したるもの一あり、道路、廣場等收用することを得る事業として勅令を以て指定する施設に關する都市計畫事業の爲必要なる土地附近の地にして都市計畫事業としての建築敷地造成に必要なるものゝ收用に關する規定即是なり、(一六條第二項)是地域收用又は地帶收用（Expropriation par Zone, Zonenenteignung）若は超過收用、(Excess Condemnation)と稱するものにして歐米諸國に於て都市計畫の必要上永く旣に實施する所に係り（紐育の採用せるは一八一二年に始まり、英國には一八四五年、佛國には一八五〇年、伊國には一八六五年、白國には一八六七年に至り各此の制度の採用を見るに至れり(Swan p. 53)倫敦が不良地區の整理事業を企てたるが如き、維納が城砦を整理して道路公園を開設すると共に適當なる住宅地を造成するが如き、ホッスマンが巴里の市區改正を行ひたるが如き、アチケスガフランクフルトの工業地區を創設し其の他市區の改良事業を企てたるが如き、皆地帶收用の事例なり、瑞西ロザンヌ市の事例に付ては拙稿京法誌一三卷一一號參照、其の他本稿二都市人口集積の弊と都市計畫運動)其の都市計畫に資せるもの少からざるを以て近時米國諸州市の益競て採用する所なり（Massachusetts 1904, 1912, Ohio 1904, Pennsylvania 1907, Connecticut 1907, Oregon 1913, Virginia 1905, Maryland 1908, New York City 1915, Cashman, ibid pp. 218-239 ニ有益ナル解說一覽表アリ）其の財政上の用に至りては旣に(七)(八)の項に述べたる

が故に茲に贅せず、其の都市計畫上の必要に至りては道路、廣場、公園、運河、港灣等の臨境土地を分合して區劃の整理を遂げ之を各其の事業の目的に相應する適當なる建築敷地を造成し及其の開發利用を促進せむとするに在り、又以て一般收用法の規定に依る收用殘地の不整形不規律なるに依り、都市計畫事業の施設に臨接せる市街地の利用を妨げ都市の發展を阻害し市街の美觀を殺くが如きこと無きを期するに在り、亦以て都市計畫の施設を執行し易からしめ其の效果を維持せむとするに在り(Cashman, ibid. Mac-tsain pp.13 ff.-Pesl Städtische Grandu Boden S. 218 fg)

地帶收用の收用區域に付ては外國法は種々規定する所ありと雖も我國法は地帶收用亦一の都市計畫事業と見たるが故に其の區域は都市計畫事業として自ら決定する所あるべき(三條)に依り此の點に關しては何等規定するの必要なく唯其の何人が如何なる事業施設の爲如何にして收用すべきかに付き勅令を以て定むる事とせり、(一六條第二項)

(9)都市の土地買收政策

最後に述ぶべきは都市の土地買收政策の問題なり、此の政策は都市の發展の勢に鑑み其の將來の必要に應ずる爲夙に獨逸諸市の勸奬措かざる所に係り、現に市域より大なる面積の土地を市の內外に市有するものあり、同國政府亦此の政策の實行に付ては其の方法を盡すの概あり、(Howe, Modern City p. 226—Dawson, Municipal Life & Government is Germany pp. 126—Thissen—Trimborn a. a. C. S. 89fg, Gemünd. Bodenfrage in Boden politik, insbes S. 230 fg; Derselbe, Die Grundlagen zur Fesserung der städtischen Wohnungsverhöltniss) 其の都市發展に應ずる都市計畫及其の事業の執行に資し、住宅問題の解決地價の調節其の他社會經濟上の政策に合し又兼ねて都市の財政を助くるの效果少からざるを見る、若し夫れ前揭都市計畫事業として土地の收用を許すものゝ一として勅令を以て指定するに依りて健全にして社會經濟の政策に必要なる土地亦本法に依り收用するを得べからしむるに於ては效果の著しきものあるを信ず須らく勅令案起草の場合に注意すべきなり、(丁)



都市政策と防疫（下）

大阪市囑托　向井章

□傳染病と商工業

傳染病に對する防疫的方法としては、大略これを三に區別することが出來る。即ち

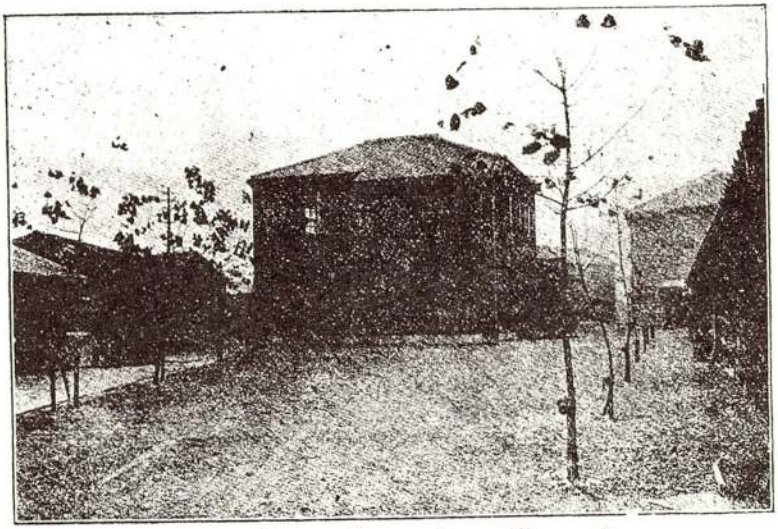
一、對外的豫防
二、對內的豫防
三、病毒の制壓

對外的豫防とは流行地より病毒の侵入せんとするものを防止する方法であつて、これは海港檢疫、汽車檢疫等何れも國家の仕事となつて居るが、若しその方法にして宜しきを得ぬときは我大阪市の如く交通の頻繁な地にあつては、常に病毒の侵入を受けねばならぬことゝなり、さりとて其方法が餘りに極端となつたならば、一般商工業及通商貿易の上に甚大な影響を受けて多大なる損害を招く事となるので、極端にいへば對外的豫防にあつては其目的の完全を期するためには大阪の商工業を全滅せしむるも辭せざるの覺悟を要すべく、然らずんば寧ろ袖手してその侵入に放任して居ねばならぬ事となるので實際に於ては「事情の許す限り」といふ中庸主義を採る以外に手段はない。今試みに明治三十八年秋より三十九年春へかけて流行したペストが如何に大阪の商工業に影響したかを觀察しやう。

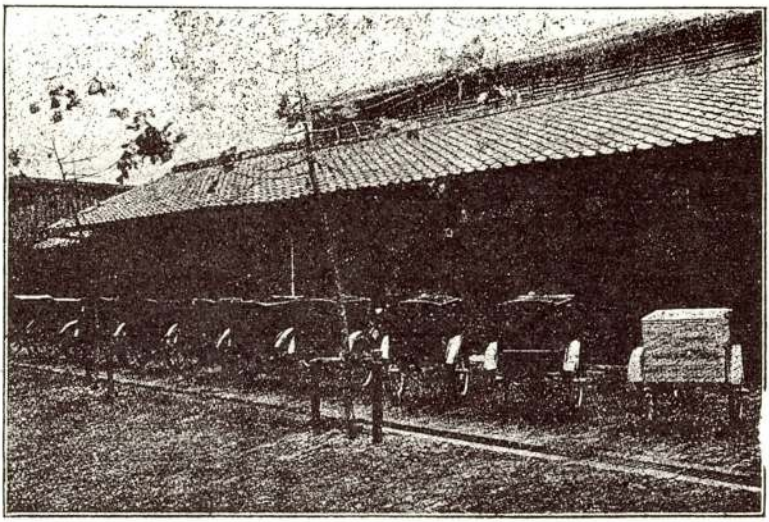
當時大阪商業會議所では明治三十八年十一月より翌三十九年三月迄の間を以てペスト流行の影響時期と看做して調査を遂げたのであるが、その報告によるとペスト豫防上家屋倉庫其他に

除鼠的清潔方法を施行し、或は病毒の汚染し易い商品に對しては輸出入其他消毒上に關する取締法を發布し、又患者發生地附近は交通遮斷、隔離抔を施す等のために直接間接に生産及商取引或は輸送上に影響を及ぼし、就中府令第六十八號によつて取締りたる落綿、襤褸、古布麻袋古着、紙屑、古皮革等は最も甚しく影響を受けたものでその損害額は約四拾四萬一千餘圓に達し更に右物品に對する消毒費三萬四千三百拾六圓を加ふるときは其の金額實に四拾七萬五千三百拾六圓に達する。次に海外貿易にあつては米國が惡疫流行地よりの輸入品に對して大に警戒を加へ、一時同國への輸出品中或種類のものは阪神地方より積出貨物の輸入を禁止し、又は府縣廳若くは神戸港駐在米國領事廳檢疫醫の証明を要する等その手續に於て當業者を苦めたことは一通りでなかつた。

尙當時要した豫防費は國庫費二拾三萬九百五拾七圓、府費六萬六千二百五拾三圓、大阪市支出額五拾八萬五拾八圓合計金八拾七萬七千二百



大阪市消毒所



大阪市の防疫施設　（其一）

六拾八圓の巨額を算し、國庫費及府費の或程度が郡部に向つて使用されたる以外は全部大阪市の防消費として消費されたものである。

□大阪市の防疫機關

純理論としては對外的豫防によつて絶對に病毒の侵入を防ぎ得る譯であるが、實際に於ては到底それのみを以て萬全を期することは出來ぬので、是非とも對内的豫防の必要が生じて來る

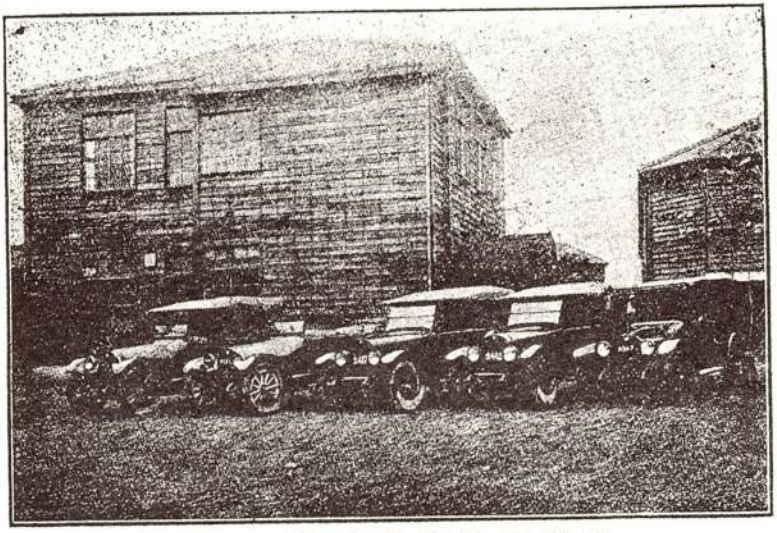
これは單にペスト、虎列刺の如く他の流行地から病毒の齎來するものゝみでなく、腸窒扶斯赤痢の如き我風土に定着して發生蔓延する疾病に向つても必要缺ぐべからざるもので、上下水道の完成、清潔方法の持續的施行、除鼠、驅蠅裝置の如きが之れに屬し、機に臨んで豫防注射を嚴行するが如きも又對内的豫防の一である。而も若し不幸にして患者の發生を見たならば、極力その病毒を制壓してその蔓延を防止する必要があるので、法律命令を以て定められたる消毒、隔離所の如きは實にこの目的を達成せんと

するために外ならぬのである。

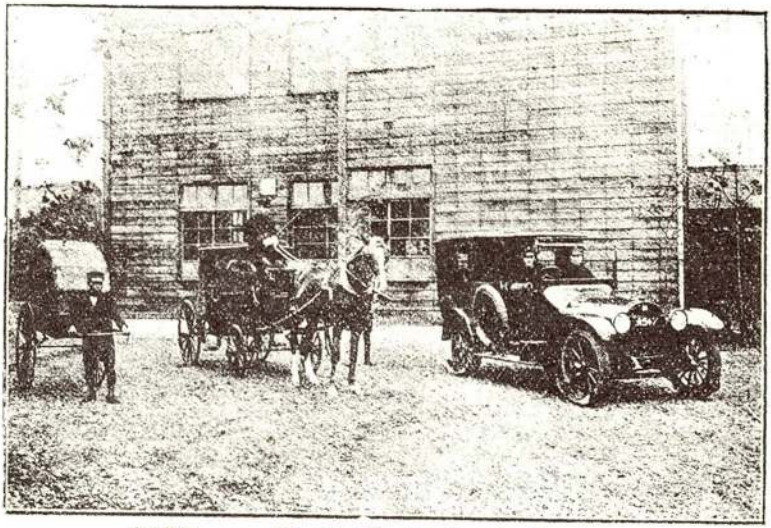
今大阪市に於ける防疫機關を見るに、市内西區池山町に消毒所を有し、患死者輸送及消毒用として自動車六臺、馬車八臺、二輪車七十七輛三輪車拾五輛を有し、傳　病患死者の發生通知を受るや、時を遷さず現場に出張して患者は自動車によつて市立桃山病院に、死者は馬車によつて火葬場に送り、同時に家屋諸器具の消毒を行ひ、隔離を要する傳染病なるときは附近の河川を利用してこれを鼠島なる市立消毒隔離所へ輸送收容することゝなつて居る。而してこれに要する人員は平常は左の通りであるが、傳染病流行時にあつては別に必要の臨時員を雇傭することとなつて居る。

防疫係從業員

職名		隔離所從業員	
書記	三名	書記	一名
技手	一名	機關手	一名
醫員	二名	人夫	三名
防疫事務員	四名	計	五名
雇	八名		



大阪市の防疫施設　（其三）



大阪市の防疫施設　（其二）

馭者　三名　運轉手　三名
馬丁　四名　鼠切斷人夫　二名
鼠運搬人夫　一名　鼠取集人夫十七名
夜警　一名
計　九拾八名

勿論此等の人々は患死者の發見といふ事には全く關係がなく、發生通知を受けた後に於て活動すべきものであつて、それまでには醫師の届出、檢疫醫の死体檢案、警察官の檢病的戸口調査といふが如き仕事があり、それ等の手によつて先づ患死者が發見されるのである。

偖此等の機關を有せる大阪市が防疫費として果して幾干の支出をなしつゝあるかを調べて見やう。

自明治四十一年至大正八年　各年度傳染病豫防費

年度別	經常費	臨時部	合計	摘要
明治四十一年	一三、三二一	一九八、一四三	三一一、六四四	臨時部ハ主トシテペスト豫防費
明治四十二年	二一、四四七	九六、七九九	一〇八、二三六	同ス
明治四十三年	三三、五九二	九三、七二〇	一二七、三三二	同本年八月ペスト終熄

明治四十四年	二〇、五〇四	八七、三九四	一〇七、八九八
大正　元年	二五、五三一	五一、〇四六	七六、五七九
大正　二年	二四、九五六	三四、三三一	五九、四八八
大正　三年	二〇、三七六	二九、一九二	四九、五六八
大正　四年	四六、九九七	七五四	四七、七五一
大正　五年	五三、〇五三	一二、八七五	一六四、九二八
大正　六年	七六、四六六	七〇、八六二	一四七、三三八
大正　七年	九五、四〇二	四九、〇八八	一四四、四九〇

臨時部ハ主トシテ鼠買收費ナリ
同
同
鼠買收費ヲ經常部ニ編入ス
臨時部中九八、七九五圓ハペスト及コレラ豫防費三、〇八〇圓ハ馬車制度創設費
臨時部中三九、五五五圓ハペスト豫防費二、三七圓ハ消毒所建築費
臨時部中三六、八三圓ハペスト豫防費三、四五五圓ハ消毒所建築費

□嗚呼大阪

大阪市における陸上の防疫的施設は未だ以て完全と稱するには定らぬが、而も着々改善されつゝあるにも拘らず、尚且つ毎年法定傳染病のために多數の人命を奪はれ、又これがために多額の費用を要しつゝあるは、一に個人衛生思想の幼稚なるにも因るが、而も他の一面に於ては交通機關たる河川の下水化せることも重大なる要因をなして居るので、私は我大阪市民が此等の傳染病から免れるためには、是非とも衛生思想の普及と同時にこの河川の下水化せるものに就て適當な處置を講ずる必要があらうと思ふので、如何に陸上に於ける防疫機關が完備し、總ての建築物に防鼠裝置が出來たとしても、この下水化せる河川に對して徹底的な方法が設けられざる限り、我等市民は恐らくは傳染病毒の襲來から免れることは出來まいと思はれるのである。

如今都市改良、都市政策、社會政策等種々なる名稱の下に盛んに都市問題が研究されつゝあるにも拘らず、兎もすれば社會衛生上最も重要にして一日も閑却すべからざる大阪市の河川處分に就ては何等論議建策の聞くなきは私の窃かに怪訝とし遺憾とする所なので、茲に大阪市に於ける防疫的方面を略説して先輩諸氏の高見を伺はんとした次第である。

（參照）

大阪市消毒所豫防事務取扱順序

第一條　傳染病豫防法第三條及第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ其通報ヲ受理シタルトキハ係主任ハ直ニ出動スベキ作業班ヲ編成シ及機關ノ種類ヲ指示スベシ

但届出ノ分ニ對シテハ直ニ所轄警察署ヘ通報シ屍躰ナルトキハ所管區役所ヘ火葬認許證ヲ請求スベシ

第二條　作業班ノ編成區分左ノ如シ

防疫事務員(消毒手)	一名
自動車運轉手及助手	各一名
馭者及馬丁	若干名
消毒作業夫	若干名

前項ノ定員ハ作業ノ種類ニ應ジ隨時增減スベシ

第三條　豫防作業ニ使用スベキ防疫主要機關ノ種別左ノ如シ

(イ)自動車　患者輸送用トス
(ロ)消毒馬車　消毒作業用トス
(ハ)屍体馬車　屍体運搬用トス
(ニ)輸送馬車　患者輻輳ノ場合ニ於ケル自動車ノ助補トス
(ホ)二輪車　同斷
(ヘ)三輪車　簡單ナル跡消毒又ハ關係消毒用トス

第四條　出動ヲ命ゼラレタル防疫事務員ハ消毒作業夫ヲ指揮シテ作業ニ必要ナル器具材料及ビ藥品ヲ準備シ消毒作業車ニ積載セシメ自ラ患家ニ先着シ第五條ノ事項ヲ調査シ作業ノ順序ヲ定メ患者送院狀ヲ作成スベシ

運轉手ハ患者輸送用自動車、馭者ハ消毒用馬車(屍体馬車)ヲ操縱シ安全ナル近路ヲ擇ビ患家ニ到着スベシ

但服務中ハ別ニ定メタル自動車運轉手勤務心得及馬匹歩度合注意書ヲ遵守スルハ勿論自己ノ操縱スル自動車又ハ馬車ヨリ離ルベカラズ

第五條　防疫事務員ノ調査スベキ要項概ネ左ノ如シ

(イ)病名及病症ノ輕重
(ロ)患者ノ氏名、性別、年齢、職業及戸主又ハ其續柄

（ハ）患者ノ本籍、現住所、發病地及發見ノ場所
（ニ）發病、初診、診斷ノ日時及初感再感ノ別
（ホ）届出醫師及立會警察官吏ノ氏名
（ヘ）傳染ノ系統及誘因ト認メラルヽ事項
（ト）病室及其以前ニ患者ノ起臥シタル若クハ往來シタル室
（チ）便所ノ數患者ノ使用シタル便所及便器、痰壺ノ所在並ニ其内容ノ處置方
（リ）患者ニ使用シタル襦袢類ノ處置方及汚物ヲ洗滌又ハ投棄シタル場所
（ヌ）患者ノ着用セル蒲團夜着及其他使用シタル物品ノ處置方
（ル）患者ニ供シタル飲食物殘餘ノ有無及其貯藏場所
（ヲ）飲料及雜用水の種類並ニ專用共用ノ別
（ワ）家族同居人及看護ニ從事シタル者ノ老幼男女並ニ通學兒童ノ氏名、校名

前項ノ調査事項ハ其病類ニ應ジ適宜取捨スベシ

第六條　患者輸送自動車患家ニ到着シタルトキハ防疫事務員ハ消毒作業夫ヲ指揮シテ患者ヲ車内ニ移スベシ

第七條　運轉手ハ患者ヲ傳染病院ニ輸送シ送院狀ヲ添ヘ之レガ引渡シヲナシ收容證ヲ受取リ歸所ノ上別紙樣式ノ運轉報告書ヲ提出スベシ（別紙省略）

第八條　患者ノ取扱ヒハ凡テ靜穩ニ且親切叮嚀ヲ旨トスルハ勿論主治醫又ハ看護人ヨリ注意シタル事項ハ取扱上特ニ留意スベシ

第九條　防疫事務員ハ消毒作業夫ヲ補助トシ自ラ患家ノ消毒ヲナスベシ其方法程度ハ凡テ別紙消毒應用心得ニ準據シテ之ヲ行ヒ家屋及家具類ノ消毒ハ藥物消毒トシ食器類ハ家人ヲシテ規定ノ時間煮沸セシメ襤褸等ノ無價物ハ之ヲ燒却セシメ蒸汽消毒ニ適スト認メタル物品ハ消毒嚢ニ收メ外皮ヲ藥物ニテ消毒シ歸所ノ後蒸汽消毒ニ付スベシ（別紙

省略）

第拾條　消毒從事中ハ左記各號ヲ遵守スベシ

（イ）從事者ノ動作ハ靜ニ緻密ニ且敏捷ナルベシ

（ロ）家人ニ對シテハ叮嚀親切ヲ旨トシ粗暴ニ渉ル動作ナキハ勿論常ニ言語ヲ愼ムベシ

（ハ）家具及物品ノ取扱ヲ叮嚀ニシ室内ハ塵芥ノ飛揚セザル樣注意スベシ

（ニ）從事中ハ喫煙スベカラズ又濫リニ消毒區域外ニ出ヅルヲ禁ズ

（ホ）自己ノ身体ヲ消毒セズシテ消毒濟ノ場所ヘ立入ルベカラズ

（ヘ）作業中ハ豫防衣（病類ニ應ジ帽及呼吸器等）ヲ着シ作業ヲ終リタルトキハ之ヲ脫シ器具類ノ清掃及手足ノ消毒ヲナスベシ

第拾一條　患者ノ家族、同居人、雇人其他患者ニ接觸シタル者ハ手足ヲ藥液ニテ擦拭シ頭髮ハ加里石鹼ヲ以テ洗滌セシムベシ

第拾二條　自宅治療ノ場合ニ於ケル消毒ハ前數條ノ例ニ準ス但病室ノ消毒ハ患者轉歸ノ後之ヲ行ヒ治癒者ニハ全身浴ヲ行ハシムルカ又ハクレゾール水、昇汞水又ハ加里石鹼液ヲ以テ全身ヲ擦拭セシムベシ

第拾三條　屍体ハ納棺前其顏面ニ布ヲ被ヒタル後被服ニ藥液ヲ撒布スルカ又ハ藥液ニ浸シタル布ヲ以テ被包シ病類ニ應ジ鼻腔口腔及肛門ニ藥液ニ浸シタル脫脂綿ノ類ヲ塡充スベシ屍体ノ納棺ヲ終リタルトキハ防疫事務員ハ消毒作業夫ヲシテ靜カニ柩ヲ屍体馬車内ニ移スト同時ニ火葬認許證ヲ馭者ニ交付スベシ

第拾四條　屍体馬車操縱ノ馭者ハ柩ヲ葬儀所ニ送致シ火葬認許證ヲ添ヘ之レガ引渡シヲナシ歸所スベシ

第拾五條　消毒馬車ハ消毒作業終了後作業員及器具材料等ヲ積載シ歸所スベシ

第拾六條　防疫事務員ハ歸所ノ後別紙樣式ノ作業復命書ヲ提出スベシ（別紙樣式省略）

第拾七條　ペスト豫防ノタメニスル除鼠殺蚤的清潔方法、同消毒方法、痘瘡豫防ノタメニスル臨時種痘施行方法及傳染病豫防法第八條ニヨル交通遮斷及隔離ニ係スル事項ハ別ニ定ムル所ニヨル



社會思想の象徴と建築様式

▲唯心主義的思想
▲唯物主義的思想
▲新理想主義的思想
▲而して奈何に推移すべき?

江村郊邨

わたくしは、建築學と術の上に於てはまつたくの素人でありますから、建築様式を建築學的に論ずるのは勿論不能な事であります、されど、幸にも、社會思想問題に就ては多少とも頁を繙くて覧た事があります、斯の與へられた處の極めて貧弱な智識を前提と成し、近來建築歴史の少し許りを覧ました時、端しなくも想到致しました事は、社會思想と建築様式との關係でありまして、或程度迄之を表現し在ることを多少具体的に覚りました、さうして、其將來をも忖度し得べきではないかといふ事を學びました。或方々には「今頃ソンナ事を!」とわたくしの腦髄の奈何にも幾哩の後に蠢動してゐる事を嗤はれるでありましようが、わたくしは、嗤はれながらも、わたくしとしては、後れ馳せながら、夫れ丈け幾歩か前進した事となるのでありますから、大膽にも此處に書いてみたのであります、どうぞ是正して被下ば一層亦わたくしの進歩する事となるのであります。

▲輓近に於ける社會問題若くは社會的問題なるものは、往昔の如く單に憐愍又は同情の觀念に出發せる倫理的な問題とせずして、國家又は社會の當然解決すべき一種の權義問題、即ち法的均等主義を經濟生活の範圍にも及ぼさんとする欲求上の問題である。是は、云ふまでもなく社會的思想の一進展であつて、如今社會問題の紛糾、即ち、主として、所謂有産者及無産者斯の二階級の爭闘問題が現代に於ける社會問題なる事實に懐はゝ、吾人は、端しなく佛國革命當時の思潮を想起せざるを得ない。

▲今此處に第十八世紀に於ける佛蘭西革命當時の思潮を事新しく詮索するのではないが、史家の所謂第三階級が當時の支配階級たる貴族及僧

倨に反抗して政治的均等の權利を要求し、云ひ換ゆれば、政治的の桎梏鐵鎖より吾れを解放せよとの叫びは、概して當時第三階級に該る處の如今の無資産階級殊に無資産勞働者が、經濟的支配階級たる資本者階級に抗爭して、吾れを經濟的桎梏より、其繋がれたる經濟的鐵鎖より解放せよとの叫びと、時代を異にし其中心を等ふするのではあるまいか。

▲殊に、佛蘭西革命の根底を成したる思想は、第十六世紀頃より醸成し來りし所謂權利哲學の思潮であつて、斯の思潮が政治的に結び付き、其思潮に基く實際運動が起つて、革命を成就したることはスタイン氏も述べてゐる。斯の權利哲學は、スタイン氏の云ふ處に據れば、新權利と舊權利とを對立させて、進歩は何處までも正當なりとせねばならぬ、此の新權利を認むれば舊權利に對して戰ふのは道德的に可能であるといふ結論を得る、斯の思想より出發して、凡ての歴史的權利上に優越せる凡ての絶對的權利に關する研究であると云ふような意味を述べてゐる。

▲何人も、佛蘭西革命を說く者は、彼のルソーの民約論を云ふが、ルソーの民約說も畢竟斯の權利哲學に出發してゐる。わたくしは、今佛蘭西革命當時の思想を是非するのではない、唯、遠く第十六世紀頃から漸く胚胎し來れる處の權利覺醒の思想が佛蘭西革命の潮流を潜つて、現代に於ける社會思想に進展し來りし事實を攻究せむとするに外ならぬ。而して、わたくしは其思想の一象徵を建築樣式の遷轉の上に稽へてみたい。

▲佛蘭西革命の旋風圈を越へたる第十八世紀末より第十九世紀の中葉は、史家の所謂文物復興（ルネーサンス）期で、思想界の一面に於ても、實に、前述の如く、權利の革成、自由思想の復興であつた。斯の時代に、建築樣式上の所謂ルネーサンスが生ぜると共に、ゴシック建築の如きも、實に其復興の一つであつた事を、建築史家は吾人に敎へてゐる。併し、斯の復古的精神は、要するに、時代規範の逆轉、即ち、戰國史家の所謂亂麻の

如き時代を收拾して、秩序ある昔に回轉せしめむとする思想に外ならざるが故に、其處には嚴格なる意味に於ける進歩なるものがない、謂はゞ、社會進歩の毀はれた基礎を再び築いた迄で再言すれば、社會進歩の單位が再び定まつたまでいゝある。されば、建築史家は、斯の復古派が唯只管に復古といふ捕はれた精神に偏寄して、徒らに古代建築の樣式と因襲的な設計に、自ら進展の沃地に對して超ゆべからざる垣を結んでゐたような意味な事を述べてゐる。

▲實に、斯の時代に於ける社會思想としても、無闇に復古的自由といふ事にのみ捕はれ、其處に新しき理想に進む前地を看出すなく、回顧的又は低回的に昔時の黄金時代を懐ふのときであつた。而して、此の十九世紀は、一面に於て、理想主義とも名くべき純唯心主義の絶頂に達せんとするときであつて、斯の場合、建築樣式上の純唯心主義又は理想主義とも名くべき社會思想の反射は、實に、彼の自然派 Naturalist in Baukunst であつた。建築史家は、斯の自然派を說明して、襲習的覇束より脱却し、直接に、自然の示せる美を把捉し、之に據りて得たる智識を應用して、構造上に恒に新しき創意を加へむとするに在りとの意味な說明を爲してゐる。

▲即ち、彼れ自然派は、傳習的何等の約束にも學術的何等の規範にも超越して、其即する處は恒に『自然』である。唯『自然』の與ふる天來（インスピレーション）の與鳴が即ち彼れの據るべき規格であり、彼れの恃むべき典章である、約り、寔に自由奔逸なるものであつた。飜つて、斯の時代に於ける社會思想としての唯心主義は、前述の如く當時の社會人心を浸してゐたのであるが、當時の唯心主義は、わたくしが純唯心主義と名くる如く、社會や凡ての物質を超越して、唯一向に只管に神に向つて——精神的生活にのみ向つて進まむとする時代思想を有するときであつた。

▲わたくしは、現代の餘りに物質生活に則して精神生活の荒廢愈々激しからんとする事實に懐ふて、件の唯心主義的思想の旺盛なる寔に憧憬に禁へない次第ではあるが、孰も、兩極端な遺

憾を觀るに至りては、以下述べんとする處の新理想主義即ち理想的唯心主義とも名くべき思想に贊向せざるを得ないのである。而して、建築樣式としての斯の時代思想を反映せる自然派の亦以て必ずしも祝福すべきものならざるを識るであらう。

▲而して、第十九世紀の中葉より末葉に掛け、更に一の社會思想を生じたるは、實に、彼の唯物主義である。而も、一時佛蘭西派の極端なる唯物主義的思想の高潮されたる時代さへあつたわたくしは、斯の時代思想の建築樣式上に反映したるものを、建築史家の所謂構造派 Constructive Schaol とする。斯の派は、ルチーサンスの如き歷史的又は古典的樣式を現代に復興せしめて、傳習的樣式に則せんとするのでなく又自然派（ナチユラリスト）の如く單に自然界にのみ則して地上の約束を無視せんとする處の、わたくしの前に所謂純唯心主義派でなく、唯、科學的智識にのみ偏倚し、加ふるに、自己の想像をのみ重んじて、自由な表現を得んとするの派である。

▲されば斯の派はわたくしをして云はしむれば藝術の眞核たるべき『自己表現』といふ上に就ては其處に何等の制扼を加へられず、又徒に規格の虜とならずして、寔に其表現の自由と眞諦を得るならむも、要するにわたくしは其處に一とつの大缺陷がありはせないかと想ふ。大缺陷とは、一にも二にも科學的法則に捕へられ、而も自己想像なる寔に可變的な非平準的な自己といふものが恒に其中心と成りて、自然派（ナチユラリスト）の長所である處の『自然』——即ち自然の偉象より把握する處の天來の共鳴（インスピレーション）を重要視せない傾向がありはせないかと想ふ。

▲是を社會思想で謂ふならば、實に、彼の『唯物主義的思想』に該りはせまいか、宜べ、構造派の勃興し來りし第十九世紀中葉以後は、社會思想に於ても、自然科學の著しき發達と產業的一大進展等の結果よりして、唯物主義的の思想が猛威を逞ふした時代である。唯物主義的の思想は云ふ迄もなく、唯科學萬能の思想と其軌を等ふしてゐる。即ち、只管に人智を重んじ人力

のみ恃みて、宇宙大自然なるものを忘れてゐる云ひ換ゆれば、自己表現の中心を自己と宇宙との靈妙との契合に求めずして、唯、技巧にのみ之を求めんとしてゐる。わたくしは、所謂構造派なるものが全然其時代思想たる唯物主義に該當するとは云はないけれども、先づ大体に於て斯の時代思想を表現してゐる事は爭ひなき事ではあるまいかと想ふ。

▲而して、今や、社會思想として、我日本にこそ未だ機械的社會觀に據る社會主義者の説や、マールクス唯物史觀を文字通りに解せんとする人達や、其他幾多の思想が混沌として、寡識なるわたくし達は霧中に彷徨するの感あるが、歐米に於ける現狀としては斯る唯物的社會思想に慊焉たらずして、既に、新たなる一つの社會思想が起り、今や各種の方面に浸潤しつゝある、其内容に於ては必ずしも單一ならざるべきも、斯の思想は、恰も、前述の如く、吾人の所謂純唯心主義が却つて唯物主義の發達を煽ほてるが如く、實に唯物主義の缺陷を覺ると共に、亦斯主義の弊に惱める結果産れたるものであつて、勿論唯物にあらず去りとて復古的に唯心主義にもあらず、學者は『新理想主義』なる包括的名稱を附してゐるが、這は主としてカントの倫理主義に還る處の『新カント主義』なるものである。

▲而して、是許でない、マールクス主義も其影響に因りて『新マールクス主義』の唱へ出され、其他、エドワード・カーペンター氏の如き、現代の文明狀態を以て一種の精神的疾患に罹れるものと做し、斯くて、我等の進むべき文明の將來は、約り、自然に皈り、自然的に考へ、自然的に生活せなければならぬと説いてゐる。要するに氏は現在の唯物主義を離れて自然即ち精神的に還れと云ふのである、去りとて、吾人の所謂純唯心主義の如く、現在の生活を呪ふて只一向に精神的にのみ進めと云ふのではない、自然に則すると共に亦精神の純一を期し、全體は各自の爲に、各自は全體の爲に生存するに至らんことを期するのである。又、エルシー・ジー・ペンチー氏の如きも、社會主義（コレクチヴィズム）の餘り唯物的なる

を批難して、社會に於ける創造的實力にして又事物の根元たるものは精神である、現象は物質世界に於ける精神の表顯に外ならぬ、故に、社會問題に對する推理を唯單純に事實として知らるゝ現象の上にのみ限るに於ては、我等の推理は人生の最も重大なる要素を閑却することとなるを免れぬであらうと。即ち、氏も亦勿論唯物主義を呪ふと共に、唯心主義にのみ寄傾することを非としてゐる。

▲又、英人ジエームス・ハルデーン・スミス氏は邦譯の『經濟的道德主義』"Economic morslism: an Essay on Constructive Economics" に於て、從來の物質的にのみ偏向せる經濟組織を排して倫理主義的に改造すべきことを高潮し、社會は斯の名著を迎ふるに響應してゐる。又、故キウリアム・スマアト敎授は社會主義者の如く現在の經濟組織其ものを根本より改造するよりも、現時の經濟組織は之を其儘に維持して、寧ろ、其中に住せる人々の心を改造し、經濟則道德なりと云ふが如き社會を實現せんことを說いてゐる。即ち、氏は、必ずしも現在の唯物主義を呪ふのではない、去りとて、唯心的傾向を非とするのではない、氏は。物に則すると共に靈に則せんとするのであり、斯くて、理想的な社會を現出し得ると做してゐる、即ち、這も亦新理想主義の一皷音と聽くべきであらう。其他、第十九世紀後半に於ける英國思想界の三明星、エッケルトの所謂『專ら論理的に自制克己を警告したりしジョン・スチユアート・ミル、享樂生活を激烈に否認したりしトマス・カアライル、美に醉へる溫き心の自然の友たり將た人類の友たりしジョン・ラスキン』等亦以て、新理想主義の皷吹者と觀ることが出來得ると同時に、之等の思想が現代の思想を釀成せる一とつの淵源とも觀得られる。

▲わたくしは、社會思想が建築樣式の表現に於て象徵することを述べた、而して、斯くの如く現代の思想は正に新理想主義の上に築かれつゝある事を說いた、然らば、建築樣式は果して奈何に之を象徵するであらうか。或は、舊思想廢

れて新思想の未だ完全に建設されない過渡期として見逃すべきであらうか。否々、斯の思想は既に建築様式の上にも漸く其反映の鮮かならんとし、其機運の磅礴たらむとしてゐる者がある丌は先にはセセッションSecessionの新生であり今は主として亜米利加に於けるゴジック Gothic の復興であり即ち建築上に於ける新理想主義ともいふべきである。セセッション派は、科學的智識と自己の想像力とに恃むことは、彼の構造派と等しきも之に加ふるに、構造派の如く自然を蔑視せず却つて之に則する處重きも、去りとて、自然派の如く科學を輕視するのでもない惟れ、當に、現代の社會思想たらんとする。所謂新理想主義ではあるまいか。而して、ゴジックの復興に到りては、新思想の内容を有するルチーサンスとも觀得られる。わたくしは、現代のゴジックが果して何處まで現代思想即ち新理想主義を象徴するや 淺識之を詳にせざるも、斯くの如く現に時代思想の表現が建築様式の上に象徴さるゝことの、或程度まで眞理なるを否み能はない限りは、是より將來奈何に推移して建築様式が社會思想を説明するか、蓋し最も興味ある處の問題である。

建築の變遷

建築の變遷發達は、基督教時代以前の分は廣く三大期に分たれる。即此時期に於て、埃及人、希臘人及羅馬人なる三民族によりて引續き實際に行はれたのである。其次に暗黒時代となり更にゴシック時代なる新藝術が起つた。——それよりルネーサンス時代が續起した。——之等建築は何れも民族一時代の特有なる天才の示した優美完全及前後を聯絡する言説に伴ひ起つたもので、時としては時代の著く懸隔し居るに拘はらず、之等がお互に合理的に且つ必然的に繼續して起つたとも見做るのである。



朝鮮營林廠所管の森林一班

會員　谷　民　藏（畢）

△營林廠沿革概要
△所管の面積
△管内主要樹種
△伐木及造材
△運材及流筏
△貯木
△造材規定

一、板材　幅四寸以上六寸未滿にして厚一寸未滿及幅六寸以上にして厚一寸二分以下のもの。

二、木摺　幅二寸以下（普通一寸五分）厚三分以下（普三分）のもの。

三、小割材　幅三寸九分以下斷面四平方寸以下（木摺を除く）のもの。

四、挽材　前各號以外のもの。

第二條　製材の品位は瑕疵の多少其の所在、部分、木材本來の性質外見等に依り上、中、並の三種に區別す、但し木摺及小割材中の横は通例仕譯せず全部並として取扱ふ。

第三條　瑕疵とは生節、死節、抜け節、腐れ、燒け、鳶瑕、虫喰、割れ、脂壺、入皮瘤、陽疵、曲り、寸足らず、忌むべき變色等にて一見著明なるものを謂ふ。

第四條　幅一尺長一間の板材に付大様仕譯標準を定むること左の如し。

一、上　一面に付直徑六分の生節四箇に相當する瑕疵以内のもの、但し一面には中の瑕疵あるを妨げず。

二、中　一面に付直徑一寸二分の生節十箇に相當する瑕疵以内のものにして上を除きたるもの。但し一面には並の瑕疵あるを妨げず。

三、並　中以上の瑕疵あるも板材として使用し得べきもの。

第五條　四寸角長さ二間の挽材に付き大様仕譯標準を定むること左の如し。

一、上　一本に付直徑五分の生節二十箇に相當する瑕疵以内のもの。

二、中　一本に付直徑一寸の生節四十箇に相當する瑕疵以内のものにして上を除きたるもの。

第六條　小割材及第四條、第五條の標準寸法以外のものに對しては其の大小、長短に應じ仕譯標準を參酌し瑕疵の程度を定むるものとす。

第七條　小割材及挽材に屬すると雖も厚さ二寸未滿にして幅其の三倍を超ゆるものは特に板材の仕譯標準に依る。

第八條　仕譯標準は前各條の如く定むと雖も木材の用途に依り適宜斟酌を加ふることあるべく又勞費の節約上嚴正を期し難き事情あるべきに付近似の錯誤は認容するものとす。

即ち營林廠の經營する事業の一般は概要記述せる處のものなり、然れども更に特筆大書するの要あるものは鴨綠江對岸なる支那安東縣以北なり日支合辦なる採木公司の經營する事業は其内容を窺知する事を得ざるは甚だ遺憾とする所なるも今聞く處に依れば大倉組の製材所を筆頭として唐津製材所の外大工場六ケ處小工場十一ケ處を有す、之れ等各工場に日々製材する木材は之れ又正確なる數字を得ざるも路傍傳ふる處に依れば、大夏七八月の流筏季節に於ては鴨綠江安奉鐵橋附近三四里は筏上を道路として一般交通を拓いて居ると云ふが今一ケ年中流筏期間内

に取扱ふ木材は安東縣のみにて約六千臺にて一臺の筏は平均二百五十連にて其價格は一千五百圓内外なり、然らば其累計實に九百萬圓の巨額に上り我營林廠の三倍以上の材積を有すべし。併し茲に確固たる標準を採り難きは鴨綠江、豆滿江沿岸地方は廣汎なる地域を受け旱魃洪水の罹災は年々歲々である、殊に大正二三年度は旱魃洪水工場移轉、歐洲戰亂等の影響を受け著しく減少したるも大正五、六年に至り漸く歐洲戰亂より惹て需要の激增を見る、然るに大正六年度に於ては三十七八萬尺締筏出の豫定なるも亦降雨少なく旱魃の難に遭遇して、竟に十一萬尺締の停滯を見る、斯の如くにして需給の調節困難となり、本年の初春に於ては材料拂底の聲高く材價は竟に稀有の暴騰を示すもの也。然らば本年度は昨年停滯せる十一萬と本年度に三十七八萬を合して四十六七萬尺締の出材豫定あるを聞く。果して然らば本年度に於ける材料の潤澤は自然價格の低廉を意味するものにして一大活況を呈すべき歟。

尙ほ該森林の伐木事業は今後益々各種機關の完成を告げ、逐年四十萬尺締の伐木を流下し貯木場の擴張を圖り、植伐更新の實を擧げ將來之れが能率を更に十倍するの計畫なりと聞く。

即ち鴨綠江兩流域の伐木事業は斯の如くして擴大し將來の販路開拓は云ふ迄もなく支那大陸を得意とするものなり。現時伐木の形態は支那寸檢に則り造木するものなれば今參考に迄で其一二種を左に記錄すべし。

長級	延寸	正長	
一連	、五尺	八尺五	十一本を一筏とす
二連	二、五	一八 五	五本半を一筏とす

單價は一寸角長さ一連を幾分何步（何錢）と云ふ又一筏（我尺締に似たり）何程と云ふ取引は一般（両）（テール）を以て標準するものである。

尙ほ細丸太は便宜上日本標準尺を示す事あり。

長級	延寸尺	正長尺	
二間	二、七八	一四、七八	更にメグリ外一尺あり
二間（小丸太）	五、八	一七、八	末口二寸五分 元口三寸六七分

三間(同)四、八　二二、八　同　上
四間(同)四、八　二八、八　末口二寸五六分
元口四寸五六分

丸太材は長さ二連、三連もの多く其主なるものは營林廠の主産材に等しく紅松、杉松、落葉松類にして尙ほ之に次ぐものは塩地(水曲柳)、楡(楸)柳(柳木及柏木)、白楊等其主なる産物なり、而して紅松、杉松は品質並に價格共我北海道材に類似するを以て北海道材の未だ豊富なる今日俄に之れを移入する必要を認めざるも小屋組、床梁、橋梁等にて長きを要し而かも強靭にして比較的價格低廉なる落葉松を赤松代用品として内地へ移入する時は蓋し有益の事と信ずべし材木專業者は勿論建築家に於ても注目に價するものあるべし尙ほ之等に關連する船車の運賃關稅等を要するも猶は遙に有利なる計算となるものである。

保健の効用ある樹木

濠洲にカンガールを産して、外の大陸にそれを産しない如く、外の大陸には杉、樅、櫻、などの類を産するのに、濠洲には全くそれがない。歐羅巴、亞細亞、亞弗利加、亞米利加の諸大陸は、動物も植物も多少似たところがあるにも拘はらず、濠洲では全く樣子が變つてゐる。それは、濠洲が永らく他の大陸と分離してゐた爲に起つた現象である。濠洲に産するユカカリの樹は、全く濠洲の特産で、他の大陸には之を産しない。其種類は百五六十種もある。我日本にも輸入されてゐるが、是は揮發油、含嗽藥、呼吸器病の特効藥、石鹸を作る外多量の水を吸收蒸發せしむるので保健上常に有効である。



京都古建築觀【十五】

特別賛助員　伊藤清造

二十四　吉田神社

概說

京都の東北神樂岡の中腹に在る。貞觀年中に於て中納言藤原山蔭が初めて造營したので、奈良の春日神社と同樣に、藤原氏が非常に尊崇してゐた處の社であつて、祭神は、武甕槌命、齋主命、天津兒屋根命、姫大神の四柱である。

定胤鄕記に、奈良では、春日社を氏神、興福寺を氏寺とし、京都では、吉田社を氏神、法成寺を氏寺としてゐるのであつて、社頭の興廢は驩て、藤氏榮枯の處を知ることが出來得ると云つたと記してゐるが、以て、斯の一般を識ることが出來得る。恁麼風で、藤原氏の全盛であつた時分のことは、隨分立派なものであつたであらうと想はれる。

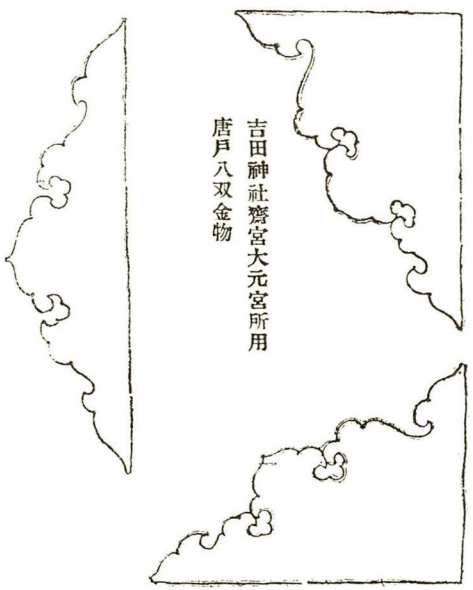
齋宮大元宮

是は、吉田神社の齋場所であるが、吉田神社最古の建築物であつて、慶長六年に於ける建立であるから、桃山時代の神社建築として、且つは我邦神社建築史上の異數の例として、却々貴重すべきものである。扨てこそ明治三十五年に特別保護建造物に編入され、同四十三年三月には全く修繕も出來上り、今は舊觀を備へてゐる

我邦の神社建築は、古くは大社造りや、唯一神明造りを初め、住吉造り抔もあり、弘仁時代には、春日造りや、流造りの形式を生じ、藤原末期になつてから日吉造りや八幡造りが出來、

桃山時代になつてから權現造り等も出來て、佛教建築傳來以後は、神社建築の形式も却々多忙なものとなり、尙詳しく觀察するならば、北野神社の八棟造り、平野神社の四棟造りから、吉備津本殿、錦織神社本殿、建水分神社本殿等から、八阪神社末社蛭子神社等、或は流れ造りを二つ連絡し、或は流れ造りと春日造りと連結し或は唐破風、向拜を附け抔して、種々異つた形式を生じてゐるけれ共、我大元宮建築程奇怪な形式を備へてゐるものは莫い。神佛混合の迷信や陰陽學の妄想から生じた處の異數な建築形式として、我建築史上に特記されてゐる。

斯の大元宮の形式は、平面が八角形であつて廻椽を有し、勾欄を設けてゐるが、上に唯一神明造りの屋根を載せ、棟の中心には露盤寶珠を載せて居り、前方に向拜を有し、後方には『唐破風』の出張りを有つてゐる。繁割二軒棰に母肘木を用ひて居り、屋葢は茅葺である。唐戸の八双金物は桃山式の毛彫りを有つてゐる。其金物の輪廓も德川中世以來のものとは形式を異にしてゐる。



吉田神社齋宮大元宮所用
唐戸八双金物

吾人は、不幸にして、未だ其內部を拜觀するの機會に接してゐない故、內部に就いて多くを論ずるの材料を有つてゐないが、聞知する處に據れば、天井は鏡天井であつて、八角二重の石壇を設け、其中央には柱を建ち、其柱は上に貫通して露盤までいつてゐるといふ。裝飾は極めて簡單であつて、外部は全部丹塗りである。

二十五　往生極樂院

概說

山城國愛宕郡大原村三千院の中に在る。昔は華山天皇の勅願に依つて、惠心僧都の建立したものである。而して、其僧都の母なる安養尼が住むでゐたと傳へられてゐる。華山天皇は、永觀二年十月十日に（西紀九八四年）御即位に爲り翌年四月二十七日改元になつて、寛和元年となつたのであるが、往生極樂院は此の年に造られたのである。天皇は翌寛和二年六月二十三日位を一條天皇に讓られて花山に御入りに成りて法皇と申上げたので、御在位足かけ十三年である斯の短い御在位中に御造りになつた極樂院の本堂は、吾人に何ものを敎へて居るであらうか。

本堂

寛和元年建立の儘に存じてゐると信じられてゐる。明治三十年に特別保護建造物に指定され同三十二年七月には早くも修繕を了つてゐるのである。

單層入母屋妻入に柿葺となつてゐる。三間四面桁行五間七寸、梁間四間二尺七寸の小建築であつて、廂椽の巾三尺に、前に一間の向拜を附けてゐる。向拜は勿論德川期に添加したものと想はれる。柱は面を取つた角柱であつて、肘木に依つて、二軒疎割垂を支承してゐる。內陣は方一間を圍柱で仕切つてゐるが、別に外陣との境を設けず、所謂阿彌陀堂建築の特徵を有し、平等院鳳凰堂や法界寺阿彌陀堂抔と趣きを同うしてゐる。內陣の柱間眞口十六尺余に巾十尺余である。外部は榛地の儘で別に裝飾もないけれども、內部は所々に彩色を用ひて裝飾してゐる外陣は化粧屋根裏であつて、外陣と內陣との柱は、擧肛梁を渡し、化粧垂には、極彩色で相寶華を描いてゐるけれ共、剝落した箇所が多く、三十二年の修繕の際に白木と取替へられた部分も少くない。內陣は有名なる舟底天井である。此の舟底天井は、所謂裏千家茶室三坪の間にある舟底天井とは少し趣を異にしてゐる。天井には、雲に天人の繪があると寺僧は語つてゐたけ

れ共、吾人は余り暗い爲に見にことが出來得なかつた。

正面の蔀戸をじて來る弱い光線が、底深い天井に暗い蔭影を與へ、金色に輝いた阿彌陀尊像に照つたとき、跪座合掌した昔を思ふて、前代の人たるの懷ひがするのである。

奈良から京都に移された文化が、次第次第に醇化されて、藤原美術の大を成した一方には、人心は漸く華美に走つて、あの厚化粧の上に厚化粧した鳳凰堂を作り、想像してさへ煩に耐へられないような八重九重塔を建つたのであるけれども、皆權勢を恃むだ藤原氏の仕事であつた交野の春に日の暮るゝをも忘れ、嵐の山の秋に夜の明るを知らなかつた藤氏が、何か目先の異つた事をしようとしたときに、其勢力と横暴とを以てしては、斯の位の事は寧ろ彼等として飽き足らなかつたかも知れない。承平や天慶の亂で、所謂お家爭ひのような事を爲して、自己の權謀術策に吸々として、上は朝廷を下は國民を省せなかつた事を懷ふたとき、あの同じ藤原時代に、一方には鳳凰堂を始め、法界寺、醍醐寺六勝寺、等の宏大な伽藍を營まれ、宮殿に摸したような法成寺が出來、一方には、一天萬乘の至尊の威信をして尙且つ極樂寺本堂の如きさゝやかな伽藍が出來たのみであつた。藤氏奈何に專横を極め權勢を利して天下の文化を混亂せしめたとて、滿つれば缺ぐる望月は道長の缺げたるときの無しと思ふ名月と等しいものであつた段鑑遠からず平氏は亡び源氏も北氏も足利氏も織田や豊家も相亞いで亡び、歷史は恒に同じ轍を逆轉してゐるのである。あの長い大原の道を吾人は恁麼事を考へつゝ歩いたのである。

平安城

平安遷都の今一つの理由は、其要害の備に適し、山水の美に富めるとの二であらう。抑、平安の地は、東に鴨川を帶び、西は桂川に臨み、東、西、北の三面は、山を以て繞らし、特に東北、西北の二隅には比叡、愛宕の兩峯に對立して隅櫓の狀をなし、南の方を開けて巨椋池に達するの處、寔に天子南面の相にかなふのみならず、所謂山河襟帶自然の城をなすの好地である。



名流の住宅觀

住居に就て私は斯麼理想を有つてゐる

貴族院議員　伯爵　大木遠吉

私は明治二十五年頃に、父と共に、森有禮氏が刺客に逢うたあの文部大臣の官邸に住んでゐた事があるが、西洋風は實に住心地の良くないもので、其時日本人は、生じつかな西洋建よりは、矢張り日本建の家に住むに限ると泌々思つた。あんな貧弱な小つぽけな邸であるのに、費用が馬鹿ノ〳〵しく掛る、それでゐて、何處へ行つても鼻先がつかへるやうで、延々した心地には成れない。どちらにしても同じ樣なものではあるが、それ以來、私は西洋家屋が餘り好きでなく、事務室とか應接室とかの外は、一切日本室にしてゐる。

日本式にしても、二階建や三階建は忌やで、今自分の家なども二階はあるが、殆んど使用しないでゐる、こんな地價の高い時に平家建の廣々した住宅は贅澤であるんだが、矢張り、此方が一番宜しい、都市の中央は、商業地とか、事務地とかにして置いて、住宅は成るべく郊外へ持つて來て、青々した草木の中に、充分の餘裕を持つた間取りの平家建が私の理想だ。

私は客室とか玄關とか云ふ事よりは、自分の居間が、一番大切だと思ふから、南と東の開いた椽側を居間の前につけ、家族が居乍らにして日常直ちに庭園に接して居るやうにしてゐる、家族の座敷とか居室とかを南向きにすると、妙に玄關が北向きになつて仕舞ひ、從つて玄關に接近してゐる應接室なども、餘り光線の豊かでない處が出來て終ふが、それは先づ仕方のない

事で、一日の中の少時間より使用せぬ斯んな室よりは四六時中、自分達のゐる室を、すべて完全に、住心地よく、衛生的で延々としてあるやうにして置かなくては不可ないと思ふ。

庭園も、住宅には必用なものゝ一つで、無暗矢鱈に廣くはなくてもそれ相當には必ず欲しいものである、餘り切り詰めた住宅は、衛生上から考へても宜しくないが、都市の中央に住んでゐる富豪などが、土一升金一升といふ處で、素的な庭園などを構へる事は沙汰の限りで、庭園稅なども、あながち無理でないかも知れぬ。庭園と云つても、築山をしたり石燈籠や立派な亭などを拵へて多額の金をかける必要はない、これは風致を保つある程度に止めて置いて、木や草花などを多くせねばならぬ、私の處では先づ常盤木六七分と云ふ形だが、これを座敷からの遠景に植ゑ込み、その背景の前に、四季折り〳〵の草花を植ゑてゐる。

それからこれは少々落ちた話だが、多くの人は住宅に於て、非常に便所を閑却してゐる傾がある、私はどうも便所の暗いのや狹いのや、勿論汚いのは大嫌ひで、人によつては、便所は暗い方が良いなどゝ云つてゐるが、私は二疊半許りも敷かれる坪で東からの光線を直射させるやうに大きな窓をつけてある、狹つ苦しいのは不可ない事は、敢て便所許りではないが、殊に便所に於て然りだ。

も一つは所謂前庭で、門内へ入つて玄關迄植込をしたり庭を造つたりして、一道中あるやうな邸宅も少なくない、これもあらずもがなで、有れば結構かも知れないが、無くともよろしい私としては、玄關をすつと通り迄出して、後庭をうんと廣くした方が好ましい。

人に依つては、頻りに玄關の構ゐを大きくし善美を盡くしてゐる者があるが、あれは客を迎へると云ふ上からある或度迄は必要であるが、必ずしも堂々たるを要しないと思ふ。

最后に私は……或はこれは專門家の云ふべきことであるかも知れないが……どうも日本の住宅は、南を南をと云つて南から暖かい日を受ける事許り工夫して、北を開くといふ事を餘り注意しない、北が開いてゐないと夏になつて暑くて堪らない、風通しといふやうな意味から云つても、南を開くと共に、北側にも相當な注意を拂ふ事が肝心であると思つてゐる。

談　文責記者



〔桂冠〕

感想

（議院設計圖案三等當選者）　竹内新七

私の製作が偶然にも議院建築懸賞圖案當選の中に入りました、其れに就て設計案の寫眞をと云ふ御言葉でしたが、手元にはゴチャ〳〵のスケッチが一枚あります計りですから甚だ御氣の毒の至りですが御意には隨ひ兼ねるのであります。只茲に其の感想を述べるだけで御許しが願ひたいと思ひます。

今回の應募圖案は一般に御承知の通りプランは大体與へられて居たので只エレベーションの問題が主な目標になつて居たと云ふ事は爭はれない樣に思はれます、それ故に總ての應募者の圖案は平素から心の中に沈潜して居たエレベーションの表現に對する抑へ難い愛着の象徴であると見べきものと思ひます、私の製作も要するに貧しい私の小主觀の影が朧げ乍ら紙面を通じて浮び出でたに過ぎないので、私は寧ろそれが恥かしい氣のする次第であります。

近代生活の壓迫に心身を虐使する人々は一度寒い北國の冬の樣な事務的生活から脫れて甘い夢の名殘の香を嗅いで見度い樣な氣持になる事が誰れでも有りますよ。殊に、美の憧憬者としては微かな自個の存在を認めるために暖い春の樣な慰藉の雨を困憊した靈魂に注ぎたいと痛切に感ずる事がありますよ。私もそうした心持が

抑へ切れなかつた、其の慾求に驅られて不圖あのデザインに就て思ふ存分の製作をして見度いと思ひました、かうした出來心からあの圖案に手をつけ初めましたのでして、勿論あの結果に就ては始めから大した期待もなかつたし、自分のそうした、心持が一般にどれ丈理解せられるかも全く豫想さへもして居なかつたのであります。要するに私に取つては始めからそれは問題でなかつたのであります。只私の貧弱な腦裡に釀された讃美榮華の熱情に對して審査員並に世の人から幾分でも共鳴せられたとすれば私は心から嬉しいと思ふのであります。

懷疑矛盾の時潮に動搖しつゝある現代人としては止むを得ない抑へ難い趨勢であるかも知れませんが、他動的な總てを模倣術氣に滿ちた堅くるしい凡人道德に囚はれた日本現代の虛飾家僞善者に面接すると、鮮い血の躍動して止まない純な若い人々には常に厭き足らない情熱が溢れ、云ひ知れぬ憎惡の念さへ强烈に反抗的氣分を唆り、そして覺めたる自我を活さむ爲め自由解放を絶叫し悶ねつゝ其の醜い舊制度を咀ひ頑冥な舊習慣を打ち破らんと靑春多感の情が白熱的に燃ねて來るものと思ひます。私も夫れに似た反抗的氣分があつて、その熱情に驅られて自我解放の努力に努めた事は確かでありました、けれども固陋な社會の冷酒に醉はされ過ぎた私には、學生の製作に見る樣な純眞な、淸韻の嫋々たる熱情の漲りの無い樣に思はれて、それが云ひ知れぬ哀愁の寂しさを滲々感じるのであります。

兎に角私のあの製作は私自身に取つては極めて意味深いものでありますが、他人に對しては何らの關りもないかも知れません、それ故如何なる批評が爲されても又私には何等の影響も傳へません、只春の夢に醉ふ樣な心持ちと陋舊な習慣に對する反抗的氣分とに依つて釀された私の感情の發露を議院建築に姿を假りて表現したまでの事であります。それが當選した事を寧ろ不思議に思ひ、そして公衆の前にさらけ出された貧しい自分を靜かに見つめて居るとつく〳〵恥かしくなつて來ます。（小雨する夜に）

▲武者修業として應募しました

（議院設計圖案二等當選者）　吉木久吉

愴卒の際稿を求められたることとて、私としては充分な腹案もなく、去りとて、其依囑に背くも心なき業ざと、自ら揣らずも、茲に私の感想の一端を語ることとした、技術上の事は、却つて自畫自賛の誤解を招き、殊に、曩日大阪時事新報紙上私の眞意に非ることを書かれて非常に迷惑したやうな事もあるから、今は之を省くこととした。

先づ私が這回應募致しました動機より申しまするど、一言にして竭さば、建築家といふ立場と、私としては一種の武者修業といふ考からに外なりませぬ。從つて、有体に申しますれば、勿論私の作物に就ては大なる矜持と希望を有つては居りましたけれど、去りとて、眞實くの處當選すると否とは第二義第三義といふ様な考でありました。斯くて、取り掛つて見すると平面圖は與へられた線圖を主としてやるより外はない、如何にも與へられました處のプランは良く出來て居りました、けれども、實は、先方の平面圖は代へて欲しかつた様であります。

忌憚なく申しますれば、部分の坪數要求と總体の坪數要求との制限からして餘り平面圖を手を入れる餘地がなく、且つ敷地の關係も矢張線圖の如き平面圖でする外なきかと思ひました。私は、部分丈けを變へましたのみで、其要求されました各室の坪數は、最少限度で不足のある部室が一室も出來なかつたのは、偶然ながら寔に愉快に禁へませむでした。又、各仕切りが格

好良く出來ましたのは嬉しく思ひました。是は何人も困難された處と思ひます、現に、其多くの應募案を覽ましても隨分部室割に苦心された事が歷ざ歷ざ現はれてゐるやうに見受けました

次に、意匠でムいますが、是は、私としては唯、氣持ちの良いものを作り度いと云ふ迄で、樣式としての一種の規格とも見るべき彼のルヲーサンスとか、ゴシックとか何式とかいふ事は私の考への裡に重きを置かなかつたのでありまして、唯、樣式として多くの人が觀ても氣持ちの良いと云ふ事にのみ注意致しました。再言致しますならば、例へばルヲーサンスなら夫れ一点張りといふやうな事は、私の欲せなかつた處であります。即ち、何れの式が混合しても全体が調和の整ひ氣持ちの良いといふ事を中心と致しました。何の式にせなければならぬといふとはない、只管、氣持ちの良いといふ、強いて名けますれば、快感式?とでもいふやうな考から出發したのでありました。蓋しです、前にも樣式奈何が隨分喧しかつたのですが、何式にしても、約り、圖面上に現さなくば判らないのであります。吾々と致しましても、樣式を新規に編み出すことは勿論出來得ない事でありますから、多くの人が觀て氣持ちの良いものにしたいといふ意思で進むだまでの事でムいます。

次に、私の當選致しました事は、其設計案の價値奈何は別問題と致し、將來實施されます處の設計に對しまして、多少の參考となりますれば、寔に光榮な事と存じて居ります。實際に於て私としても、私の設計が滿足なものとは思ふて居りませぬ。又、物價の騰貴と豫算制限の關係抔もありますから、設計案の何の点が取り入れられるかといふことは勿論考へても居りませぬが、唯、實施案に少しでも役立たば幸ひの事と思ふて居ります。

是は餘事でありますけれども、由來、懸賞募集といふ事に就て始終思ひ出します事は、一体懸賞なるものは、腕を磨くに於て最良な方法であらうといふ感想であります。其應募するとなりますれば、部分的に働いてゐる人とは異ひま

して、什うしても其凡てに渉つて調査も爲し研究も致しませねばなりませぬから、修業には大層良い事だと思ふて居ります。私も、從來建築上の懸賞に應じました事が三四回ありましたが眞實くの處、前申述べました樣に武者修業でありますから、縱しむば落選致しましたとて決して落膽すべきでないと思ふて居ります。唯、今回は、非常に努力を要しまして、少人數では非常に苦痛であつたのであります。應募案の凡てを覽ましても、非常に心苦された事が歷々と判つて居ります。茲に於て私の希望致し度き事は將來懸賞募集に於ては、成るべく少人數即ち一二人の助手を使ふて濟む位な範圍で出來るように致して貰ひ度いのであります。大仕掛けでなくば、手も足も出ないといふようでは、折角な英才なり靈腕を有つてゐるような人でも、斯ういふ事情で應募出來得ないことになりまして、夫れでは、眞に公募の趣旨が充たされないかと存じます。今回のを覽ましても、皆さん方々の圖案に亦非常に苦心された事が現はれて居りまして、寔に氣の毒に思ふて居ります。殊に大概私達のように、平常夫れ〳〵一定の而も可成り忙しい職業を有つてゐる人が多いのでムいますから、扨て應募となりますると、自己の職業に對する相當な努力を捧げた上に、余暇に於て尙應募案の作成に努力を拂はねばならぬのでありますから、成る可く之等の事情を參酌して、より良いものを遺憾なく弘く獲るように致し度いものであります。

述べたい事は種々ありますけれども、愴卒考へを纏めたのでありますから、是だけにして唯私のほんの感想を申述べたに過ぎませぬ

桃喬

振り上げた我手詠めつ
秋の蠅



女流の生活觀

◉今更新舊の思想の相違がしみ〳〵感じられます

石井八重子

ふとした機會から長年續けて來た獨身生活を括てゝ、家庭の人となつて見ますと、今更のやうに、日本の家庭の複雜なことを深く感じます永年の習慣とは云ひながら、來る日も來る日も家庭内の繁雜な雜務に追はれて、一生を何の意義もなしに、夢のやうに過すといふことは、斯うして生を受けて居ながら、餘りに生きがひのない事ではないかと思ひます。

近頃、生活の改造といふやうなことをよく申します。如何にも今のやうな有樣では、生活を改造する必要は大いにあると思ひます。殊に大阪のやうに保守的な習慣を主んじることなどは、全く無意味だと思ひます。が、又一方から申しますと、そこには、利害に拘はらず、捨て難い或るきづなが有つて、さう何も彼も新らしいことづくめでは味のない場合もあると云つたやうな調子で、今の場合は、私共女の身にとりまして、最もやりにくい時代であらうかと思ひます私は家庭の人となつて未だ間もありませんが、新舊の思想の相違といふことに就きましては、可成いろいろな事を經驗いたしました。其一二を申しますと、先づ買物に就いてゝございます大阪に限らず、日本至る處、御用聞きといふものがありまして、日本の家庭では此御用聞きに依て其日其日の生活を爲て居るやうな觀があります。此御用聞きが來なければ、御飯の支度も

出來ず、着物もきられないといふ有樣で、私共の生活は、まるで此御用聞きに左右されて居るやうなものです。これでは餘り意氣地のないことだと思ひまして、無經驗な私の若い考へから買物は凡て自身で買ひに行くことにして、自分では一かどよいつもりで、テクテク市場へ買物に出かけた事があります。家に坐つて居て廻つて來る商人から買ふのと違つて、種類も多く價ひも安く、來ただけのことはあると思つて喜んで買物をして歸りますと、老人達から直ちに故障が出ました。そんなことをしては見つともないといふ人もあり、家にとつては大切な主婦が些細な日用の買物位に、長い時間を要して、家庭の用事に差支を生じるのは宜しくないといふやうなことを申されて見ますと、それにも一理があります。でまア、結局老人のいふことに從つてこれは中止と致しました。又子供の敎育に就きましても、斯うした方がよいと自分では思つても、それと反對な說を、經驗の深い人々から申出られますと、やはりそれに從はなければなりません。凡てが此樣になつて參ります。これは、今の日本の家庭ではどこにもある例であらうと思ひます。此兩者の長處を採つて、私共の家庭生活を、よい上にもよく改造して行くのが、私共女に、時代の與へた仕事であらうと思ひます。さうしますには、老人のいふことだから、昔風のことだからと云つてさういふ人達のいふ事柄を一笑に附して仕舞はないで、兎に角老人のいふこともよく聽いて其眞實を理解することが必要だと思ひます。永年經て來た事にはそれだけの根強い根底があつて、さう容易にそれを取去ることは出來ません。さうして昔の事も、今の事も、よく理解をした上に、時代に適應したやうに改造をして行くのが、賢いやり方ではあるまいかと思ひます。

考へて見ますと、精神的にも、物質的にも隨分複雜になつたものだと思ひます。斯うした複雜ななかを、どういふ風にして、最も賢く切り拔けて行くかといふことが、私共の考へなければならないことだらうと思ひます。家の用事が

忙しい、子供の教育で一寸の餘裕もないと云つて、何の慰安も求めず、修養もせずに過すやうな生活は送り度くないと思ひます。忙しいなかにも、自分の趣味として好む道には進み度いものです。殊に特殊の才能を有つて居る人は尚更其才能を寶の持ち腐れに終るやうなことにせず如何にかして其才能を發揮して自分も樂しみ、他の人々の爲めにも盡したらよいと思ひます。私は、お細工ものとか、絞染めなどに大層趣味を持ちまして、さういふことに關しては、可成深い研究も致したつもりでありますが、一旦斯うして家庭の人となつて見ますと　そんな慰み事をして居る餘裕が、殆んどありません。と云つて『どうも仕方がない』とあきらめては居られません。さういふ中からも、どうかして餘裕を作り出して、自分が中心から要求して居ることを多少なりとも爲て參り度いと思ひます。家庭の主婦としての仕事は、それは澤山ありますが併しさうした雜務にばかり頃倒して單に一家庭の主婦としてばかり終るよりは、一個の人間として、人らしい仕事も爲度いと思つて居ります私には幸ひに好きな道の持ち合はせがありまして、其品は、時にとつては、人樣にお教へすることも出來るのですから、さういふ機會は是非作つて、其實行は致し度いと思つて居ります。

年中家の中にばかりくすぶつて、料理、裁縫洗濯、掃除などにばかりあくせくして居る主婦の生活は、寔に單調でございます。そんな中に何か一つ趣味がありましたら、そこに潤ひ生じませうし、慰安もありませうと思ひます。そしてそれが、趣味と實益とを兼ねたものでありましたなら一層喜ばしいと思ひます。斯う申しますと我田引水めきますが、絞染めとか、お細工物などは、女の趣味としては、ふさはしいものだと思ひます。少しの練習で、割合に上達も早く、大した時間や金錢も要しないで、廢物の利用が出來たり、思ひ設けぬ美しい袢纏や袖などが出來たりしますと、やはり、女らしい喜びを感じます。此節のやうに、呉服物がお高くなりますと、女のお子達の多いお宅などでは、人知

れぬお苦心もお有になるだらうと思ひます。さういふ時に、此絞染の心得がありますと、意外な樂しみと利益とを得ることが出來まする。洗ひざらしのモスが立派な長襦袢になつたり、かけ古しの袢衿が新らしくなつたりしますと、自分の勞働をして得たものゝ樂しみを、深く味ふことが出來ます。

忙しくて困る、物價が高くなつて困る、意見が合はなくて困ると云つて、不平をこぼし居ても一日は過ぎなければなりません。無爲に過すも一日、有爲に過すも一日は、やはり一日でございます。

住宅の改良より先づ生活の改造

武藤山治氏夫人　武藤千世子

朝から小糠雨が降つて火桶のなづかしいやうな日でした。こんな日に、靜な部室でしんみりと語り暮したならと思つて、ふと住吉に夫人をお訪ねしました。住吉は資本家階級の人々の邸宅が多くある土地に似合はず、道路の惡いことはどうした譯でせう。人造石や化粧煉瓦で見上ぐるばかりに築き上げた邸宅を見る毎に、斯うした事に費やす費用の何分の一かを出し合つたなら、道普請位は、左して難事でもあるまいにと思はずには居られません。俗惡な、コケ威し的な邸が多い中に、大した垣も圍らさず、脫俗した人の風流住ひと云つた風の家、それが日本の資本家を代用して晴の舞臺にのり出した武藤山治氏のお邸であるといふことが、一寸面白いと思ひました。鏡のやうな廊下を通ふて、何れは古い歷史を有する昔の名人の手になつた逸物

であらうと思はれる、襖がすうと開くと、夫人のおたしなみと見ゐ、得も云はれぬ好い匂ひが鼻をうつのでした、障子の桟一つにも、洗練された趣味の現れを感じるのでした。たとへば深山の奥に、何年となく年を經た大木があつて、自然の恩惠に依つて枝ぶり美事に茂つた其大木を、凡ての慾を括て一意專心藝術に志して居る名工が、身も魂も打ち込んで作り上げた作品と云つたやうな氣分を此家から私は與へられました。（婦人記者）

住宅の改造といふ事も必要ではありますが、それより先きに、私共の生活の改造をする必要がありはしないかと思ひます。凡ての点が二重生活をしなければならない今の生活は、餘りに複雜でございます。斯うし度い、彼うしたいと思ふばかりでは、いつ迄たつても改造の實が擧りませんさう思つたら直ぐ實行にかゝることが急務であらうと思ひます。さうして行くには、目の前の小さいことから始て、次ぎ次ぎと進んで行くのがよいと思ひます。私共が毎日手をかけて居ることで、いつも不便を感じることがありましたなら、それをどう云ふ風にしたなら便利がよいかを考へて、それが出來ることであつたなら、直ぐ其のよい方法をとるやうにし度いと思ひます。

私は、箪笥に就いて考へました。從來のやうな箪笥では、いくつも重ねて着物をいれて置かなければなりませんから、出し入れに大變不便でございます。澤山重ねて置きますと、下になつた物は裾が薄くなつたり、出し入れの度毎に皺が出來たりして、其爲めに傷みやすいといふ不利もあります。それを妨ぐ爲めに私が工夫をしたのでございますが、割合に調寶でございます。それは、引き出しを薄くして、夏物でしたら、四五枚位はいるやうにして、引出しの外に其中にいれてある品物を書いた紙を張つて置きます。其儘では体裁が惡いと思ひまして、前に向いた方に外から蓋をして鍵を下して置くやうに致しました。斯うしますと外から見たばかりでは何であるか判りません。中を明けると、ど

こには何があるといふことは、張つてある紙に依つて直ぐ判ります。用心の点から申しましても宜しうございます。

も一つは、平素私の坐右に置いて使ふ簞笥でございます。書類とか、巻紙封筒のやうなものを、机の上に置きますと散ばつて仕方がないので工夫を致しました。此簞笥は、高さ二尺位、奥行一尺五寸位で、小さいのやら大きいのやらとり混ぜ澤山の引き出しを作ります。紙類化粧品類、ハンケチのやうなものまでそれぞれ處をきめていれて置きます。これは場所もとらずよく片付いて非常に便利を感じて居ります。……此住吉の宅は、すつかり日本式にしてありますが、舞子の方の家は、和洋に別けてございます兩方に住んで見ますと、やはり長年の習慣は恐しいもので、洋風の方に多くの不便利を發見いたします。應接、食事、書見と云つたやうな場合には、洋風でも別に苦痛を感じません、心安い方をお招きして心置きなく雑談をする時には西洋間に致しますと、主客共に心からくつろいで、面白くお話をするやうになります。殊に大勢の場合などには、日本坐敷ですと、『貴女がお先きへとか』何とか申して、席順がなかなか定まりませんが、西洋間はそんな事は自由でありますし、部室に置く装飾品なども、何でも好きなやうに列べられますし、それを手にとつて觀賞することも大層氣安く出來ます。只、針仕事や截ち物を致します時には、どうしても疊の上でなければ出來ません。疊をやめて椅子卓子の生活をするには、私共の衣食からして變へて行かなければならないと思ひますが、それはなかなか出來さうもありません。殿方は、仕事の都合上、實用に迫られて洋服着用の實行をして居りますが、私共婦人は、いくら忙しくなつたと申しましても、未だそれ程必要に迫られないと見ゐまして、婦人も洋服着用と迄は參りません。これも殿方と同樣に、絶對必要に迫られましたなら、其時には老若一時に洋服を着用するかも知れません。さうなりましたら、住宅を全然洋風にしても不便は感じません。さうなりま

すと生活も簡易になつてどんなに樂でせう。疊の上といふものは、何となく不衛生な感じが致します。歩く處にちかに食器を置くことなど、餘り氣持ちのよいものではありません。私は此欠点を妨ぐ爲めに、日本室にも卓子代用の卓を置くことにして居ります。お茶、お菓子、莨草入なども此卓の上に置きますと、きれいでもあり、お互に卓を圍んでといふことが親しみを增すやうに思ひます。頂くものもコーヒーや西洋菓子も多いのですから、それにふさはしい器物を置くのも趣きのあることでございます。

手輕に爲度いと思ふ一方から、餘計な器物が出來たり、食物の種類が多くなつたりして尙々複雜になる傾きがあります。今となつては、どちらか一方に決めるといふ譯にも參りません。日本式もほんとうの日本式には簡易生活のお手本と云つてもよいところがありまするそれは茶の湯の道でございます。茶の湯は、狹いところできまりよく物事をとり運ぶことなど、なかなか巧妙に出來て居りますし、茶室の作り方なども手輕く住むやうに出來て居ります。此道を深く研究してそれに當世風の新しい点を加味したならば、必ずやよい結果が得られることゝ思ひます。

▪▪ 河風寒し磯千鳥

星月夜のおぼつかなき頃は、磯の千鳥の多くあつまり居て啼くは、心も消ゆべくて悲し。たゞ人の別墅なる處に、水の滿へもいと淺くて、晝は來馴れ遊ぶらん。戸などかいやりたる音に驚きて、忽ち二三聲の澄み行くは其あとも遙に見遣られて、河風寒しと思出たるは、待たるゝ人もなくて、何にかはせむ。



調査

□大阪市接續町村下水道調査綱要（五）

大阪府發表

榎並町

榎並町は大阪市東北端鯰江町の北に位し古市村を西北に周らし城北村と北境に隣す人口約五千關目、野江、内代の三大字よりなる等しく京街道上にあり（關目は純農村に付之を除く）内代野江は相連絡して現今一部落をなす但し野江の一部關目に接する小字と鯰江町蒲生西端に連る小字選角とは各々遠く離れて人家の集合をなす以上通じて戸數約千人口之に四倍強當町の大部を占むるものなり農家約三分の一他は市内其他の會社工場に通勤せる職員の住宅なり水路は九箇井路及大井路の並流するものを主とす

（前號迄既出）

▲總說
▲各說
(イ)豐崎町
(ロ)中津町
(ハ)鷺洲町
(ニ)鶴橋町
(ホ)中本町
(ヘ)城東村

各說

九箇井路は守口町に於て淀川より分れ仝廢川地及森小路を經て當町に入るや京街道に沿ひ以下市郡界をなしつゝ蒲生橋北詰に達し西折して暫時鯰江川と並流の後ち市に入りて仝川に合す井路の幅約二間兩岸齊調汚濁せず流勢其宜しきを得特に內代野江を貫通する箇所は石造の護岸工事完全にして小河川の態樣をなす只各季若干時期水量の減少と汚水の疏通を見るは下流の堰を開くが爲なるべし關目に於て野江井路を合し野江東端に於て中村荒生兩井路を併合す

次に大井路とは純然たる灌漑用水にして關目に起り當町の田地を能く潤すものなり蒲生に入り樋上橋に於て鯰江川に注ぐ

兩者を連絡するもの二あり一は野江駐在所前に樋を以て分れたる幅一間半（目下縮少して一間となれる部分多し）の井路にして他は來迎寺前より更に分るゝ通稱新井路流井路なり前者は野江の東端を京阪電車線路の西側を北流し東折して終に大井路に合するも灌漑の目的を達する爲野江神社西南方に大なる二箇の貯水池に連絡せしことありしと云へ共現今宅地となりて只一箇の小なる蓮池を殘す

該井路の野江を流るゝ約二百四十間なり後者はもと小字牛廻の北邊に於て九ケ井路の水流を得て南下せしものなりしも疏通意の如くならざる結果新に來迎寺より直接南下する新井路により連絡せしめて牛廻北邊の一部を埋沒したり而して其下流は遠く町境界に達して東折し大井路に入る

兩字の下水道と目すべきものは上述の如しと雖疏通宜しき爲め汚泥停滯し不潔不通の狀をなすものなし蓋し戶數に比して水路充分なると汚水を多量に排出する諸工場のなきとに因るのみならず家用の餘水を水田に流入せしむるもの汚水を貯めて肥料となすものあるに因るならん家の下水溝は特に傾斜を附したるもの溝幅を大ならしめたるもの多くして時に稍や不潔なるものなき能はざるも溝底の修覆と疏通を圖れば更に佳良なるものとならん

然れ共本町の東南角小字巽角は汚水を中井路に

排出す當該井路の不潔程度は鯰江町の調査に際し記述せし所なるを以て贅せず

要するに野江及内代は水路の構造疏通共に良好なるものに屬す

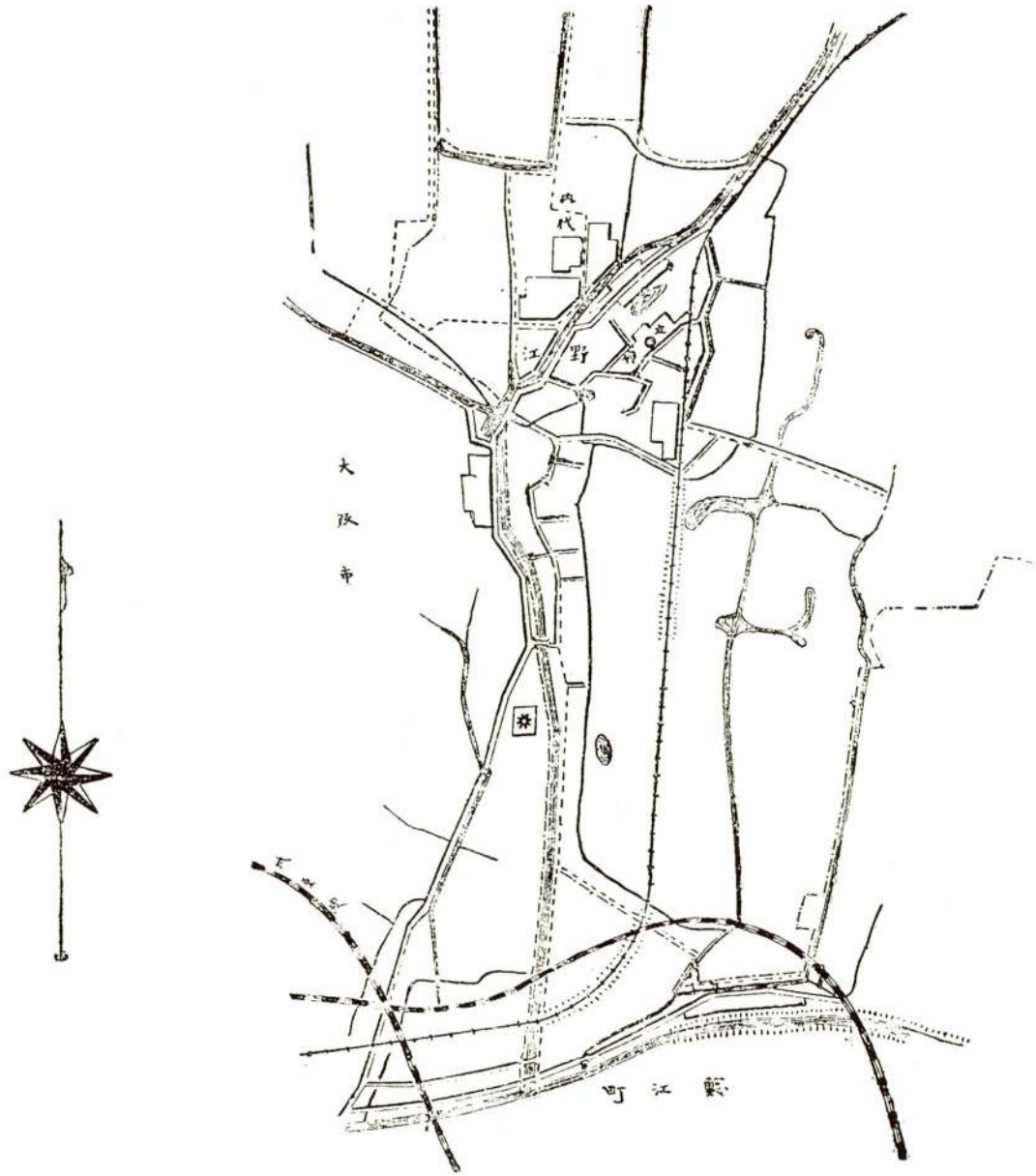
榎並町既往五ヶ年間人口及死亡率調査表

町村名	人口死亡別	明治四十四年	大正元年	仝二年	仝三年	仝四年	計	人口千ニ對スル死亡率
榎並町	人口	二、五六九	四、三〇二	四、三六九	四、四八六	四、七二七	二一、四五三	二四・二四
	死亡	六九	八七	一〇四	一〇四	一五〇	五一八	

榎並町既往五ヶ年間人口及傳染病患者率調査表

町村名	人口患者別	明治四十四年	大正元年	仝二年	仝三年	仝四年	計	人口千ニ對スル患者率
榎並町	人口	二、五六九	四、三〇二	四、三六九	四、四八六	四、七二七	二一、四五三	一・三二
	患者	七	九	四	一	七	二八	

東成郡榎並町

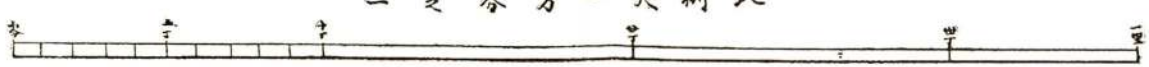


大阪市接續町村下水道略圖

凡例

○	町村役場		河川及池沼		國縣道	道路
X	警察署		下水道		里道	
文	學校		鐵橋		小路	
☼	工場		橋		鐵道	鐵道
卐	神祠		田		軌道	軌道
卍	寺院		畓地		接續	境界
	堤防之岸		濕潤地		郡	
	墓地		草地		町村	

比例尺一万分之一



榎並町既往五ヶ年間傳染病患者死亡及人口調査表

年次	赤痢 患者	赤痢 死亡	コレラ 患者	コレラ 死亡	腸チフス 患者	腸チフス 死亡	パラチフス 患者	パラチフス 死亡	ジフテリア 患者	ジフテリア 死亡	患者數	死亡數	人口	前年ニ對スル人口増加率	人口千人ニ對スル患者率	人口千人ニ對スル死亡率	人口百人ニ對スル死亡率
明治四十四年	一	一	一	一	五	一	一	一	二	一	七	一	三、五六九		一・九六二	〇・二八〇	一四・二八
大正元年	一	一	一	一	三	一	一	一	五	一	九	三	四、三〇二	二五・〇二	二・〇九〇	〇・六九七	三三・三三
仝二年	一	一	一	一	一	一	一	一	三	一	四	一	四、三六九	一五・八	一・〇九二	〇・二三八	三五・〇〇
仝三年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四、四八六	三六・七	〇・二三三	一	一
仝四年	一	一	一	一	五	三	一	一	一	一	七	五	四、七二七	五三・七	一・四八〇	一・〇五八	七一・四〇
計	二	二	一	一	一三	五	一	一	一三	三	二八	一〇	二一、四五三	一	一・〇三五	〇・四六六	三五・七一

（以下は次號へ）



時報

□道路關係法令決定

豫て道路會議總會に於て審議中なりし「街路構造令」外數件は左記の通り可決せり。

◉道路構造令

第一條　國道の有效幅員は四間以上となすべし山地其他特殊の箇所に限り其幅員を三尺以内縮小する事を得

第二條　府縣道の有效幅員は三間以上となすべし山地其他特殊の箇所に限り其幅員を三尺以内縮小する事を得

第三條　主要なる郡道及び市道の有效幅員は三間以上となすべし山地其他特殊の箇所に限り其幅員を一間以内縮小する事を得

第四條　主要なる町村道の有效幅員は二間以上となすべし山地其他特殊の箇所に限り其幅員を三尺以内縮小する事を得

第五條　前各條第二項の規定に依り前各條第一項に規定する最小幅員を縮小する時は相當距離毎に待避所を設くべし

第六條　國道の勾配は三分の一、府縣道の勾配は二十五分の一より急なる事を得ず已むを得ざる特殊の箇所に於ては前項勾配を十五分の一迄山地にして已むを得ざる箇所に於ては長さ四十間以内に限り十分の一迄となす事を得道路の勾配が變移する箇所に於ては相當の從斷曲線を設くべし阪道長き時は相當の距離毎に五十分の一より緩なる勾配を有する區間を設くべし

第七條　國道及び府縣道の屈曲部中心線の半徑は三十間以上となすべし但し特殊の箇所に於て六間迄縮小する事を得人家連檐又は連檐すべき箇所の屈曲部に於ける凸角は相當之を支除し前項の規定に依らざる事を得半徑二十間以下の曲線は背向直接を避け兩曲線間に相當の直線を設くべし

第八條　國道及び府縣道の車道の路面の構造は車輪の輪帶幅一寸に付百貫の荷重に堪ふる標準となすべし前車道を區別せざる箇所に於ては交通の狀勢に依り道路幅員の一部限り前項に規定する構造に依らざる事を得

第九條　國道及び府縣道の側溝の深さ及び底幅は一尺以上となすべし

第十條　國道及び府縣道の路端の高さは特殊の箇所を除くの外水流水面の最高水位より一尺以上となすべし

第十一條　國道及び府縣道の隧道の有效幅員は三間以上となすべし但し接續道路の有效幅員の二尺を加へたる幅員迄縮小する事を得隧道内の高さは路面より十五尺以上となすべし但し特殊の箇

所に限り之を十三尺迄縮小する事を得

第十二條　國道及び府縣道の橋梁の有効幅員は橋長四間未滿の場合は其道路の有効幅員と同一となし橋長四間以上の場合は三間以上とすべし但接續道路の有効幅員迄縮小する事を得

第十三條　國道及び府縣道の橋梁の構造は左に掲ぐるもの、通過に堪ふる構造のものとなすべし

橋面一平方尺につき十二貫に相當する群衆

但徑間に應じ相當輕減する事を得國道は二千百貫の車輛十二米噸の輾壓機

府縣道にありては千七百貫の車輛但し主要なる區間に於ては國道に準ずべし

第十四條　第十一條第二項の規定は國道及び府縣道中上部橫構を有する橋梁に之を準用す道路が橋下を通過する場合につき亦同じ

第十五條　前九條中府縣道に關する規定は主要なる郡道市道及び町村道に關し之を準用す

第十六條　本令中府縣道に關する規定は地方費道に、郡道又は市道に關する規定は主要なる準地方費道又は區道に關し之を適用す但し地方費道の有効幅員は山地其他特殊の箇所に限り第二條第一項に規定する幅員を一間以内縮小する事を得

第十七條　北海道に於ける橋梁の有効幅員は橋長四間以上の木橋に限り國道にありては十五尺迄、地方費道又は主要なる準地方費道、區道町村道にありては十尺迄之を縮小する事を得

第十八條　交通の狀勢に依り監督官廳の認可を得て各條の規定に依らざる事を得

第十九條　街路の構造に就て特別の定めをなす事を得

附則　本令は道路法施行の日より之を施行す

街路構造令

第一條　本令に於て街路と稱するは地方長官の指定する市内及市に準ずべき地域内に於ける道路をいふ

第二條　本令に於て廣路と稱するは二十四間以上、一等大路と稱するは十二間以上、二等大路と稱するは六間以上、一等小路と稱するは四間以上、二等小路と稱するは一間半以上の幅員を有する街路をいふ

第三條　街路は車道及び歩道に區別すべし但し一等小路及び二等小路にありては之を區別せざる事を得街路の狀況に依り遊歩道を設けたる時は之を歩道に兼用する事を得廣路には必要ある時は高速車道又は自轉車道を設くべし一等大路につき亦同じ

第四條　街路の側歩道の幅員は特殊の箇所を除くの他各々其街路の幅員の六分の一を下る事を得ず

第五條　車路の勾配は特殊の箇所を除くの外三十分の一より急なる事を得ず

第六條　街路の屈曲部に曲線を設くる時は特殊の箇所を除くの外其中心線の關係は五十間以上となすべし

第七條　主要なる街路の路面は第三條の規定する區別に從ひ適當なる材料を以て之を舖裝すべし

第八條　車道は舖裝の種類に應じ路面の排水に支障なき限度に於て緩なる橫斷勾配を附すべし側歩道は特殊の箇所を除くの外車道に向ひ相當の橫斷勾配を附すべし

第九條　歩道は車道より相當之を高くし車道側の境界には緣石を設くべし車道兩側には街渠を設くべし特殊の箇所においては前二項の規定に依らざることを得

第十條　街路の交會屈曲其他の箇所にして交通上必要なる場合においては廣場を設くべし

第十一條　交通上必要なる箇所の街角は相當之を變除すべし街角における歩道の外側には相當の曲線を設くべし十字街及び丁字其他の箇所にして交通上必要なる場合においては安全地帶又は聯絡地下道を設くべし

第十二條　橋詰における街路の幅員は必要に應じ相當之を擴大すべし

第十三條　遊歩道には並樹を植栽すべし交通上支障なき場合においては歩道につき亦同じ街路の狀況に依り遊歩道及び歩道の舖裝の一部縮小し之を植樹帶樹苑花苑又は芝生と爲すことを得廣場につき亦同じ廣路及び一等大路には必要ある時は植樹帶を設くべし

第十四條　隧道の有効幅員は六間以上と爲すべし但し接續街路の幅員まで之を縮小することを得

第十五條　橋梁の有効幅員は橋長三十間以上のものに在りては二等大路以上は街道の幅員の三分の二以上、一等小路は四間以上と爲し其他のものに在りては街路の幅員と同一と爲すべし

第十六條　主要なる橋梁は不燃質耐久材料を以て之を築造すべし

第十七條　橋梁の構造は左に掲ぐるもの、通過に耐ふる構造を爲すべし

橋面一平方尺につき十五貫に相當する群衆

但し徑間に應じ相當輕減することを得

三千貫の車輪及び十五米噸の輾壓機

第十八條　交通の狀勢に依り監督官廳の認可を得て前各條の規定に依らざることを得

附則　本令は道路法施行の日より之を施行す

◉國道の改善に關する件

改修の順序

一、全國交通の大幹線たる國道中先づ重要大都市を聯絡するものを改修すること

二、重要大都市の內外を聯絡する國道は大幹線にあらずと雖も前記重要大都市と聯絡する國道と相竢ちて之を改修すること

三、軍事上其他の事由に依り特に急を要する國道の改修は前二項に準すること

四、全國國道の橋梁の架設及び險路の改修は前三項に拘らず成るべく急速に遂行すること

五、漸次其他の國道を改修すること

國庫補助の順序及び補助歩合

一、國庫補助の順序は改修の順序に從ふ

二、補助歩合は工費二分の一を以て原則とし特別の事由ある場合に依り四分の三迄補助すること

但し特に工費の負擔をなすものある場合には內務大臣其補助の歩合を斟酌すること

改修の幅員

一、重要大都市內及び其境界より約五里以內は幅員六間以上とし適宜交通の現狀及び將來に照し路幅を決定し其他大都市を聯絡するものは幅員五間以上とし實際の狀況に依り其路幅を決定すること

二、其他の國道は大體に於て幅員四間とすること

三、主として軍事の目的を有する國道は其必要に應じ前二項に拘らず其路幅を決定すること

改修の財源

一、國道の改修（特別の事由ある場合に於ける府縣道の改修を含む）に對し國庫より每年度平均約七百萬圓を支出すること

二、國庫財政上の狀況に依り租稅收入を以て前記の支出を辨じ難き場合は公債を起して之を遂行すること

三、不用官有地を道路改修費を負擔する公共團體に下附して國庫補助に代ふるの途を開くこと

四、地方の財源として道路に關係ある特別稅を認むること

五、地方稅制限に關する法律第五條第三號を改正し道路改修のため費用を要する場合に於て制限外課稅を認むること

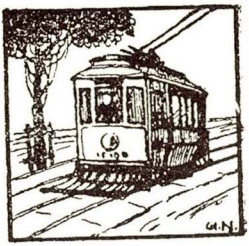
六、地方財政の狀況に依り租稅收入を以て國道改修費を辨じ難き場合は地方債の發行を認むること

七、前記地方債に對し成るべく低利資金を供給すること

八、低利資金の供給にて十分地方債に應じ能はざる場合は當該公共團體の小額債券の發行を認むること

改修の期間

三十年を適當と認む



會報

會誌

△本誌も、後一號で第三輯となる譯でありますが、別項所載の通り、更に本誌の一進展を劃すべく第三輯より改題することゝなりました。是と共に、發行日も、從來二十五日でありましたのを一日發行の事に改變致しました。是は全く時代の進運に伴ふ爲に外なりませぬ、即ち、一層社會的に本誌の使命否當協會の使命を果すべく時代の進潮に順應したのでムいます。

△前項の通り發行日を繰り上げますのと内容の一層充實を期する爲來る十二月號は休刊致しまして、其代り大正九年一月一日に第三輯第一號を發行致すことゝなりました。豫め御承知置を願ひます。

△被檄に誌上の活動範圍も一層擴がり、社會的に接觸することのより緊密となりましたから、會員各位に於ても、尚充分に本誌を、御利用被下いますよう切に希ふて置きます。

圖書

（交換）

建築雜誌	第三三輯第三九三號（建築學會）
建築世界	第十三卷 第一一號（建築世界社）
住宅	第四卷 第一一號（住宅改良會）
鐵道協會雜誌	第二十卷 第一一號（鐵道協會）
工業之友	第一五一號（工手學校）
工業之大日本	第十六卷 第一一號（工業之大日本社）
鐵と鋼	第五輯 第一一號（日本鋼鐵協會）
建築新報	第一卷 第七號（建築新報社）
通俗衛生	第二五五號（大阪衛生會）
電氣協會雜誌	第三七五號（電氣協會）

木材新聞（其　社）
建築業協會々報（其　會）
建築評論　第一卷　第七號
（建築評論社）
ガーデン　第四號
（關西園藝協會）
藏前建築　第五號
（東京高工建築科）
木材新聞　ペイント商報

會誌

口第二十八回例會

日時　大正八年十月二十日午後五時半——九時

場所　大阪商品陳列所樓上

出席者　生野、伊藤(正)、今林、池田(寅)、大倉、小笠原、岡村、鷲尾、片岡、葛野、片山、呼子、吉木、竹中、竹平、谷本、谷、宗、內藤(太)、波江、村野、安井、矢島、藤井、小林(悉)、樺藤、安立、安部、青田、佐藤(四)、佐藤(彰)、岸、木村、宮本、光安、島本、設樂、日高、森、瀨戸(文)、須川、江村(編補)、山崎(書)

記事

一、宗主記より、座長指名推薦を主記に一任され度との提議あり、滿場異議なし、仍て、宗主記は青田氏を座長に指名す——拍手起る

次で、青田氏座長として挨拶あり、宗主記より、理事にして各部に於ける委員長の辭任に付更に左の通り新委員長の就任ありたる旨を報告す

第一部　內藤太郎氏
第二部　佐藤彰美氏
第三部　小笠原銅氏
第四部　池田寅氏
（第五部　葛野壯一郎氏は從來通り
（第六部は自然消滅）
（第七部　瀨戸文吾氏は從來通り）

一、更に、議院設計應募懸賞圖案を十月二十五、六日兩日東京市教育博物館に陳列公表するに付觀覽方臨時建築局より案內ありたる旨を報告す

一、報告を畢りて、入會希望者平島米吉君外四君に對する詮衡に移り、例に依りて各履歷書を朗讀し、擧手の方法にて藉りて採決せしが孰も入會を諾するこゝなれり、即ち別項所載の如し。

一、豫て理事會に於て評決せし十一月中に秋季大會を催す件を附議せしが、會員中海外渡航者の送別會を兼ねて擧行するの提案と共に可決、其日取り及方法等は理事者に一任することゝなれり

一、波江氏外數氏より、這回應募せる議院設計圖案を大阪に於て展觀すべきよう其筋に請求され度旨の緊急動議あり採決の結果之を可決す。

仍て、理事者は其後當該主務廳に交渉せし處、當局の容るゝ處とならざりき。其理由は、實設計の都合上目々該圖案を要するとの事なりき。

一、次で、『市街地建築物法案』を附議し、片岡理事長より、本案に就て大要の說明あり、各自質問をなし意見を交換せり。尙、此際第一部委員會を至急に開催され度希望あり、片岡理事長より省令案を提出するに付成るべく多く有志者の出席あり度との希望あり。

一、池田氏外四氏より、役員改選期と會計年度の終りを等ふせしむる爲、本年

十二月に於て役員の半數を改選され度との動議あり、採決の結果可決。

□秋季大會

日時　大正八年十月二十七日午後五時半——十時

場所　大阪ホテル

出席者　左記の諸君にして、實に九十三名を數ふ、但、送別會を缺れたること＼て正賓として須賀豐次郎君及び波江悌夫君の出席ありし外、豫て招待し置きたる、本田君其他の諸君は種々の事故にて出席なかりしは寔に遺憾なりき。

片岡安　辻井太郎
伴武雄　花田孝次郎
齋藤又吉　伊藤正文
辰己吉之助　安井武雄
置塩章　森正藏
安部萬助　平島末吉
中川辰藏　川島甚兵衛
樋口辰太郎　熊取谷熊次郎
村井季四郎　錢高久吉
光安梶之助　山脇友三郎
三木來三　高橋榮治
小川安一郎　糸崎周一
金子巴　能村知二
大林賢四郎　吉井長七
田中譲　有山福重郎
島田艮馨　井上國助
須賀藤五郎　野村一郎
瀬戸文吾　仁科員一
三宅重二郎　田中綱
杉原茂　小西兼吉
足立彌一郎　青田忠時
小松勇　田中勇
白杉氏代　小倉保治
大原忠隆　德政金吾
呼子正　松尾和助
八尾德太郎　岡村德一郎
森篤次郎　葛野壯一郎
木子七郎　日高胖
小笠原鈿　新海正綱
佐藤彰美　山本辰五郎
池田勘藏　池田實
渡邊節　西田儀太郎
山本鑑之進　橋本料左衛門
今林彦太郎　山本潔
谷民藏　松本禹象
設樂貞雄　東松孝時
原田俊雄　木村梅次郎
森山伊望　田代守次
福永佐和吉　吉木久吉
萩原貞　松井貴太郎
駒井喜兵衛　池谷仙太郎
佐伯興之吉　木村音衛門
土居原龜之助　佐藤節勇
原科準平　片山萬治
谷本多喜次　飯田忠三郎
江村郊郁　橋本勉
小谷信藏

午後六時食堂を開き、デザートコースに入るや、片岡理事長の挨拶と送別の辭あり、其他二三の送別辭ありて、波江氏及須賀君の之に對する答辭あり、了つて後、席をベランダに移し、各自殿に歡談を交はして時の移ふをも知らざるもの＼如く、實に近來の盛會にてありき。

□理事會（新舊各部委員長會を兼ぬ）

日時　大正八年十一月六日午後五時——九時半

場所　大阪倶樂部

出席者

池田、小笠原、片岡、葛野、宗、内藤、波江、舟橋、佐藤(彰)、設樂、日高、瀨戸(文)、江村(編補)

記事

一、左記の諸件を決議す

(イ)次期會計年度より會費年額を變更して左の通り增額する事

會員二十圓　地方會員十圓

特別賛助員十圓　普通賛助員五圓

(ロ)細則を變更し選擧方法の連記式を單記式とする事

(ハ)細則第十二條及第十五條を削除する事

(ニ)入會希望者に對する詮衡は理事會の權限に屬せしめ、例會には其結果を報告するに止むる事

以上次回の例會に附議することに決す

一、更に、雜誌に關して左の決議を爲せり

(イ)本年十二月號を休刊し、一月號より發行日を毎月一日に改むる事

(ロ)雜誌を改題する事(例會に附議)

一、右(ロ)に關して、其題號を詮選せしが、實に十餘種に亘れり、仍て、採點の結果と共に例會に提案することゝなれり。

一、將來は、會員中より成るべく例會毎に講演を爲す事に決す。

一、事務所の借入れに就て候補場所を見出せしも、多少の條件存するを以て一先づ交渉の事に決せり

一、右會費增額に伴ひ、雜誌の廣告料金を十一月號より左の通り增額に決せり

建築事務所案內　一割(從前の通り)　五圓

全請負業者　一割(同)十圓

□第七部委員會(第十五回)

日時　大正八年十一月　三　日午後六時——九時

場所　大阪商品陳列所樓上

出席者　增田、瀨戸(文)、佐藤(彰)、谷、新海、熊澤、小笠原、小林、青田、池谷、大原、山脇、小谷(書)

記事

一、木材の既決品位に就て、更に再詮衡せり。

□第一部委員會

日時　大正八年十一月十一日午後六時——九時

場所　中央電氣倶樂部

出席者　前田、八尾、葛野、野村、池田、置塩、柳下、波江、江村(編補)

記事

一、葛野委員長より、從來委員會の經過を報告し、家相術と現社會の關係等に就て各自意見を交換し、結局、相當なるプランを拵へ之を三名の家相家に鑑定せしめて、其意見の根柢を得ることに決す。尙、各員は家相中心說を蒐集して、次回の委員會に提出する事、次回を十二月八日となす事等を取決め近來頗る振へる會合にてありき。

一、「市街地建築物法施行規則案」に就きて第一章終迄討議せり。

□第五部委員會

日時　大正八年十一月十二日午後五時——九時半

場所　中央電氣倶樂部

出席者　片岡、內藤、置塩、光安、淺井、森山、村野、

記事

會員消息

□外　遊

豫て報告せる如く、本田登、須賀豐次郎藤井厚二、波江悌夫、長谷部鋭吉、の諸君は、夫れ々々報告せる日取りに於て、外遊の途に就かれたり。

□新入會

左記の諸君は、別項所載の通り、例會の決議に依り會員として入會せられたり。

平島米吉、萩原惇正、武田經一、前田武正、島田巽馨

□逝　去

會員山本治兵衛君は、十月十五日突然病に罹り、臥床一週日、同月廿四日を以て終に逝去されたり、本會は直ちに吊辭を贈りて、深厚なる哀悼の意を表せり。

□住所移轉

左記の通り住所の移轉ありたり。

（特別賛）伊藤清造　東京市麹町區帝國ホテル新築事務所

（會　員）杠　眞雄　岐阜縣稻葉郡加納町下加納字水野

金華紡織會社工場建築敷地内大林組出張所

（普　賛）北川官一　大連市南滿州鐵道技術部建築課

（　同　）瀬上友吉　横濱市平沼町横濱電線製造會社内大林組出張所

（會　員）内藤益二　東京市牛込區神樂阪町二丁目一二番館方

（普　賛）設樂貞一　兵庫縣武庫郡須磨町西須磨上池下三番ノ二

（　同　）馬場善一　福岡縣門司市港町二松田建築事務所

（同）吉本新之助　東京市麹町區中六番町二七

（同）清水半次郎　東京市麻布區新網町二丁目二二

（普　賛）清水隼人　泉南郡田尻村吉見紡織會社

編輯だより

▼議院設計當選圖案は各等とも手に入りましたので本號に全部掲げる筈でゐましたが、何分全部で五十葉許になりますので、本號には一二等當選圖案丈けを載せ三等一席及二席は次號に廻す事と致しました▲會報にもあるように、本誌は十二月號を休刊して爾來毎月一日發行の事となりました就ては、目下一月號に全力を注ひで居ります三色版以下の口繪は、既に得易からないものを手に入れましたから、一月號は殊に有益なる資料となる事と存じます▲記事も亦一新致します積りで目下夫れ〳〵蒐集中であります、斯くして、本誌の使命に最善を竭すべく努力して居りますから、折角御共鳴を希ひ度く存じます。

役員及職員

理事長　片岡安藏（主記）
理事　宗村兵一郎（編輯）
松本禹象（編輯）
日高舟橋喜胖（編輯）（主計）
編輯補　波江悌夫
設樂貞雄
佐藤四郎
書記　江村郊
小谷信藏
山崎萬壽夫

會員	一七〇	會員（地方）	四九
名譽贊助員	六四	終身贊助員	三九
特別贊助員	九	普通贊助員	二四三
合計	五七四		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金參拾錢	貳錢
	十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表貳拾五圓	

大正八年十一月二十日印刷
大正八年十一月廿五日發行　（每月壹回　廿五日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）

發行兼編輯人　伊藤幸太郎
兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地

印刷所　大阪活版所
大阪市東區今橋一丁目十一番地

發行所　日本建築協會
電話本局二二四一番
振替口座大阪三九、九七五

ベルン市外地建築條例

（下）



ベルン市外地建築條例

ベルン市民組合ノ決議左ノ如シ

千八百三十九年三月七日附ベルン市建築條令第一編及第二編ハ建築警察廳及建築警察事務取扱並ニ工事設計ニ關スル必要準備ヲ規定セルモノナルヲ以テ該規定ハベルン住民組合管區全体(市及市外地)ニ向テ適用スベキモノトス

建築條令第三編ニ代ヘテ市外地ニ施行スベキ條項左ノ如シ

第一章　公ノ通路及建設物並ニ隣家所有物ニ關スル規定

通路ニ沿ヘル一般ノ建築線路距離

第一條　新築ノ建物及其各部ハ公ノ街路地又ハ道路ノ境界ヨリ三六〇米以上ノ接近ヲナス(ヲ得ズ千八百三十四年三月二十一日附市街警察規則第六條參照)

左ノ場合ニ於ケル通行用ノ公ノ街路、地又ハ道路ニ付キテモ第一項ノ規定ヲ準用ス

1　道路又ハ地ガ市民組合ノ保存ニ係ルトキ

2　道路又ハ地ガ府民組合ニ屬スル中

3　個人ガ公ノ通行ノ爲メ道路又ハ地ノ開キタルトキ

時別建築線

第　條　第一條規定ニ反シタル場合ニアリテハ組合廳ハ第一條ニ記載シタル街路又ハ道路ガ私有ナラザル限リ(前條第二項(3)各地又ハ數ケ所ニ沿ヒテ特別建築線ヲ標示シ其線外ニハ建物又ハ其各部ノ新築ヲ許サヾルノ權ヲ有ス

組合廳ガナシタル特別建築線指定ニ關スル抗告ハ千八百五十二年十二月六日付組合規定第五十六條乃至第五十九條ニ依リ府廳及參事會ニ向テナスベキモノトス

許可スベキ建物ノ突出部分

第三條　次ニ揭ゲタルモノハ建築線又ハ道路線距離ヨリ突出スルヲ得

1　水樋側石ノ突出部戸及窓框

2　〇、四〇米以下ノ戸外階級

3　一、二〇米以下ノ屋根突出部

4　一、五〇米以下ノ四壁ヲ出窓及屋根ナキ出窓隣家ノ承諾ヲ經ズシテ出窓ヲ隣家ノ境界線ニ向ヲ一、五〇米以

上接近セシムルコトヲ得ズ又之等突出部ガ街路ノルクトゾイルニ達スル場合ニアリテハ其最下部ハ人道面ヨリ三、六〇米以上街路面ヨリ五米ノ高サヲ有モザルベカラズ

道路線距離ヲ犯シ又ハ建築地線前ニ突出スベキ昇降器ヲ建物外壁ニ取付クルコトヲ得ズ

便所下水及ビ戸外ノ導管

第四條 第一條ニ掲ゲタル街路、地又ハ道路ノ境界線ヨリ十二米以下ノ距離ニアリテハ之ニ面シテ便所便水管、下水下水管煙突蒸氣管又ハ煙筒ヲ建物ノ外圍ニ設クルヲ得ズ

屋根窓

第五條 隣家ノ承諾ナクシテ其境界線ヨリ一、五〇以下ノ距離ニ於テ屋根窓ヲ設クルヲ得ズ

現在セル建物及其各部ノ維持

第六條 前數條ノ規定ニ反シテ設備セル現在ノ建物又ハ其各部ハ之ヲ其儘維持スルヲ得然レトモ擴張又ハ高築スルコトヲ得ズ

所有者ガ前數條ノ規定ニ從フ能ハザル特別ノ事情アル場合ニ於テハ組合聽ハ必要ノ程度ニ於テ之ガ免除ヲナスベシ

隔壁

第七條 隣家ノ承諾ヲ經テ其境界線ニ接シ(第十八條)築設シタル建物ニアリテハ隣地ニ面スル側ニ於テ屋上面ニ達スル石造ノ隔壁ヲ設クベシ。同一者ノ所有ニ接ル連接建物ガ住居ヲ有シ且各建物ガ互ニ分離シ獨立建物ト見做スコトヲ得ル場合ニアリテハ其間ニ又前項ノ隔壁ヲ設クベキモノトス

或所有者ノ境界線ニ接シ又ハ其上ニ立テル隔壁ニ隣家ノ承諾ナクシテ其所有地ニ面シ孔口ヲ開クヲ得ズ但隣家ハ何時ニテモ右ノ承諾ヲ取消スコトヲ得ベシ現ニ孔口アルモノハ隣者第一回ノ請求ヲ以テ常ニ之ヲ開鎖スベシ正式書面ニ依テ得タル要役權及ビ以前已ニ得タル要役權ニシテ建築警察ノ關知セザルモノハ民法第四百四十九條及第四百五十條ノ規定ニ從テ之ヲ保留ス

隔壁ノ厚サ

第八條 隔壁ノ厚サハ屋根層ニアリテハ〇、三〇米以上各下階毎ニ〇、〇七五米ヲ加フ但側石及上甲宜キアリテハ其厚サ〇、六〇米以上ナルヲ要ス。然レドモ組合聽ハ隔壁ガ特別堅牢ノ設備ヲ有スルガ爲メ厚サノ薄キニ拘ハラズ必要ノ強度及安全ノ狀態ヲ呈スル場合ニアリテハ第一項ノ厚サヲ減ジテ許可スルコトヲ得

隔壁共有權ノ買收

第九條 隔壁ガ隣家ノ境界線ニ接スル場合ニアリテハ隣家ハ其共有權ヲ買收スルノ權アリ而シテ壁ノ持主ハ其申込ニ應ズルノ義務ヲ有ス買收金額ノ確定並ニ共同隔壁ノ權利關係ニ付キテハ千八百三十九年三月七日付ベルン市建築條令第五十六條及第五十七條ノ規定準用ス

共有隔壁ノ使用

第十條 各共有權者ハ共有隔壁ニ於テ木梁ヲ積込ニハ〇、一五米以下鐵梁ニアリテハ其壁ノ厚サノ半マデ入込ムヲ得何等他ノ方法ヲ以テ壁ヲ弱ムルヲ得ズ

森林又ハ水流ニ近キ建物

第十一條　森林又ハ水流ノ附近ニ設クベキ建物ニアリテハ其地點ヨリノ距離並ニ其構造ニ付キ相當規定又條令上ノ規定ニ從フ（千八百十年一月二十四日付家屋建築認可令第四條並ニ千八百五十七年四月三日付水流保存及修築法第九條參照）

圍　障

第十二條　圍障ハ地上二、八〇米以上ノ高サニ設クルヲ得ズ

圍障兩側ノ地上水平面ガ等シカラザル場合ニアリテハ高方ノ水平面ヨリ二、八〇米起算ス

或土地所有者ガ其隣地持主ノ協力ヲ待ズシテ圍障ヲ設クル場合ニアリテハ專ラ自己ノ所有地上ニ築設スベキモノニシテ其支柱貫柱及屋根勾配モ亦自己ノ地ニ面セシムベシ

右ノ種類ノ屋根ハ公有地ニアリテハ〇、五米以下ノ突出ヲ許ス

公有並木及植込物

第十三條　公共並木又ハ公ノ植込物ハ個人ガ其所有地上ニナシタル行爲ニ依テ損傷スルヲ許サズ殊ニ個人ハ公共並木又ハ其他公ノ植込物ニ屬スル樹木ノ中心ヨリ二米五十以下ノ距離ニアリテ樹木ノ現數又ハ生長ヲ害スベキ設計又ハ設備ヲナスヲ得ズ

又隣接セル土地所有者ハ自己ノ費用ヲ以テ並木又ハ其他公ノ栽植物保護ノ準備ヲナスベシ但自己所有地ニ於テナシ又ハナシタル行爲ノ結果其準備ヲ必要トセザル場合ニアリテハ此限リニ非ズ

密集家屋新築ノ場合ニアリテハ組合總ハ公ノ栽植物又ハ並木ノ取拂ヒヲ許可スルヲ得

公ノ並木又ハ栽植物ノ枝ガ建物ナキ私有地ノ空地內ニ垂ルヽヲ其枝ガ地上四米五十ノ高サマデ剪伐サレアルトキハ地主ハ之ニ對シテ苦情ナキヲ要ス

踏　地

第十四條　地主ガ第一條ニ揭ゲタル街路地又ハ道路ト其所有地ノ連絡ノ爲メ設クベキ路地公ノ建設物又ハ栽植物ヲ之ガ爲メニ傷害シ又ハ第一條ニ揭ゲタル街路、地又道路ノ排水ヲ阻止セザル樣築設スベキモノトス

溝　渠

第十五條　私有建物又ハ私有地ノ溝渠ハ之ニ依テ公ノ通行又ハ隣家ニ損害又ハ迷惑ヲ及ボサヾル樣布設スベキモノトス（千八百七十五年十月二十五日附ベルン組合暗渠條令第三十一條第一項及第三十五條第二項參照）

然シナガラ本條ニ於テ民法ノ關係條文（民法第三百八十條參照）並ニ其他ノ法律及條令上ノ規定ノ準用ヲ妨ゲズ（千八百三十四年三月二十一日市街警察令第四條及千八百六十九年五月五日附市區取擴條令第十二條參照）

第一條ニ揭ゲタル街路、地又ハ道路ノ排水ヲ人爲的、阻止スルヲ禁止ス

第二編　建物構造規定

室　名

第十六條　人ノ日夜滯在ニ供スル圍壁アル場室ヲ住室ト見做シ人ノ作業用ニ供スル場室ヲ凡テ作業室ト見做ス

建築地

第十七條　住室又ハ作業室ヲ有スル建物ノ建築地ハ乾燥セルヲ要ス穴庫底モ亦

乾燥シ居ラザルベカラズ而シテ接觸地ノ濕氣ハ之ヲ斷絕スベシ組合廳ハ建築地ノ狀況ニ從ヒ工事認可ニ付キ特別條件ヲ付スルノ權ヲ有ス

連接建築ヲナサヾル建物間ノ距離

第十八條 建物ノ外壁ニ住室又ハ作業室ノ窓アルトキハ之ヲ正面ト見做シ又廊下、階段、便所等ノ窓ノミアルトキハ之ヲ副前面ト見做ス

戸又ハ窓ヲ有セザル前面ハ隔壁ト見做スコトヲ得

正面ノ前ニアリテハ十米以內ノ距離副前面ノ前ニアリテハ五米以內ノ距離ニ於テ建築スルヲ得ズ

建物ガ隣接セサル場合ニアリテハ隔壁ニアリテモ亦五米ノ距離ヲ必要トス正面ガ內庭ニ向ヘル場合ニアリテハ庭ハ何レノ方面ニ於テモ五米以上ノ內法ヲ有スルヲ要ス

本條ハ同一人ノ所有ニ係ル建物並ニ數人共有ノ建物ニアリテモ之ヲ適用ス

已ニ現在セル建物ニアリテハ右規定ノ條文ニ從ヒ距離ヲ取擴グベキ條件ヲ有セズトスルモ正面ハ隣家ノ境界線ヨリ五米突以內ニ接近セシムルコトヲ得ズ

副前面ハ勿論隔壁モ亦隣家ノ承諾ヲ得ズ境界線ニ接シ又ハ其上ニ築設スルヲ得ザル場合ニアリテハ其線ヨリ二米以上ノ距離ヲ保ツベキモノトス

建物ガ火災又ハ其他災害ニテ壞滅シタルトキハ罹災後二ケ年間ハ其建物ガ尙存立セルモノトシテ本條ヲ適用スベシ

高サ及廣サ五米突以下ノ小建物ニアリテハ本條規定ヲ適用セズ

前面ノ高サ

第十九條 組合廳ノ特別認可ナクシテ建物前面ノ高サヲ地上一六、五〇米以上ニ築設スルヲ得ズ又現在ノ前面ニアリテモ右高サ以上ニ改ムルコトヲ得ズ

如何ナル建物ニアリテモ地階ノ上ニ四階以上ノ住室ヲ設クベカラズ

側壁

第二十條 建物ノ前面ハ側石アルヲ要ス側石ガ硬石造ニアラザル場合ニアリテハ濕氣絕緣層ヲ使用スベシ

本條ノ規定ハ高サ及幅共五米以下ノ小建物ニハ之ヲ適用セズ

外壁ノ厚サ

第二十一條 建物ノ前面ハ少クトモ左ノ厚サヲ有スベキモノトス

1 土中室ノ上部ニアル四階以下ノ建物（地階ヲ包括ス）ニアリテハ

	1 方石造リ	2 煉瓦造リ	3 碎石造リ
屋根室及屋根直下階	〇、三五米	〇、二六米	〇、四五米
上部ヨリ第二階目	〇、四二米	〇、三一米	〇、五〇米
上部ヨリ第三階目	〇、五〇米	〇、三七米	〇、五〇米
地階	〇、六〇米	〇、四五米	〇、六〇米

2 上、中室ノ上部四階ノ建物（地階ヲ含ム）ニアリテハ

	1 方石造リ	2 煉瓦造リ	3 碎石造リ
屋根及其直下階	〇、三五米	〇、二六米	〇、四五米
上部ヨリ第二階目	〇、三五米	〇、二六米	〇、四五米

上部ヨリ第三階目　〇、四二米
上部ヨリ第四階目　〇、三五米
地　階　〇、二〇米

土、中室ハ地階室ノ壁ニ比シ切石又ハ
碎石造ニ於テ〇、一〇米煉瓦造ニテ〇
一四米ダケ厚ク築設スベシ
木材ト煉瓦混合壁ハ概シテ〇、一五米
以上ノ厚サヲ有セザルベカラズ
組合廳ハ法外ノ場合ニアリテハ各工事
部分ニ對シ特別規定ヲナスノ權ヲ有ス
之ト同樣ニ本條規定ノモノヨリ厚味ノ
減ジ居ル場合ニアリテモ堅牢ナラシム
ベキ設備アリテ必要ノ强度ヲ有スルモ
ノニアリテハ之ヲ許可スルヲ得

木造ト外壁

第二十二條　建物ノ木造周壁(木造外壁)
ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ許可ス
1 建物ガ他ノ建物ヨリ十米以上離レ居
ルトキ
2 建物ガ焚火場ヲ有スルトキ
3 住室ヲ有スル建物ノ部分ガ木造圍壁
ノ部分ヨリ耐火壁ヲ以テ區劃セラレ
タルトキ
外部ヲ板張トナシタル木材煉瓦壁混合

〇、四二米　〇、三五米
〇、四二米　〇、三五米
〇、五六米　〇、二〇米

石又ハ粘土造ノ外壁ハ本規定ニ於テ之
ヲ禁ズルコトナシ

外　壁

第二十三條　建物ノ圍壁又ハ壁ノ北方ニ
向ヘル部分ヲ除キ眩惑セシムベキ色ヲ
以テ之ヲ塗ルコトヲ得ズ

通風及採光

第二十四條　各住室又ハ作業室(厨房ヲ
含ム)ハ外部ヨリ充分ニ空氣及日光ヲ
受ケザルベカラズ
住室及作業室ニアリテハ少クトモ一箇
ノ窓及適當ノ二重窓ヲ設ケ四季ヲ通ジ
テ開放スベシ
住室又ハ作業室ノ高サハ內法ニテ地階
ニアリテハ二、七〇米以上、上階ニ於テ
ハ二、五〇米以上ヲ有セザルベカラズ
土、中室ニ於ケル住室又ハ作業室ニア
リテモ右ノ高サヲ必要ナリトス又屋根
下室ニアリテハ少クトモ場室ノ大部分
ヲ此高サトナスベシ

火爐ノ設備ナキ又ハ其設備ヲナス能ハ
ザル場室ハ住室トシテ之ヲ使用スルコ
ヲ得ズ

周圍ノ地盤ヨリノ距離

第二十九條　周圍ノ地盤ヨリ高カラザル
建物ノ部分ニアリテハ乾燥(第十七條)
日光及空氣(第二十四條)及高サ(第二
十四條)ノ規定條件以外ニ尙次ノ要件
アリ
1 住室ニアリテハ少クトモ縱長面ニ於
テ(之ハ北方ニ向ヲ得ズ)地上〇、三
〇米高キヲ要ス而シテ周圍ノ地盤ガ之
ヨリ高キトキハ空地ヲ置キテ之ト區劃
スベシ
2 作業室ニアリテハ少クトモ縱長面ニ
於テ其室內ノ上部三分一ハ周圍ノ地盤
ヨリ高キヲ要ス

住室ノ乾燥

第二十六條　適當ニ乾燥シ居ラザル住室
ハ之ヲ使用シ又ハ賃貸スルヲ禁ズ

屋　根

第二十七條　屋根ハ耐火材料ヲ以テ之ヲ
葺クベシ一時的使用ノ爲メニ建築セル

輕易式家屋並ニ他ノ建物ヨリ二十米以上ノ距離ヲ有スル家屋ニアリテハ組合ノ聽ハ本規定ヲ適用セザルコトヲ得

階段

第二十八條　地階上部ニ住室トナセル二箇以上ノ階アルトキハ其最上階ニ達スベキ一箇以上ノ耐火材料製階段及其連絡廊下及其圍壁ヲ設クルヲ要ス

製造場劇場等

第二十九條　組合聽ハ製造所、劇場、病院及其他多數ノ群衆ヲ收容スベキ建物ニ對シテハ特ニ保安規定ヲ設クルコトヲ得

第三編　竈及煙突ニ關スル規定

竈ノ材料

第三十條　竈ハ凡テ石又ハ鐵（鑄鐵又ハ鍛鐵）製ニシテ其戸又ハ引戸ハ常ニ鐵製トナスベシ

防火壁

第三十一條　塀又ハ壁ニ取付ケ又ハ塀若クハ壁ヨリ〇、五〇米以内ノ距離ニテ建設セル凡テノ竈ニハ塀又ハ壁ニ對シテ特別ノ背壁（防火壁）ヲ設クベシ此壁ハ〇、三〇米以上ノ厚サヲ有シ石造ニテ石灰モルタルヲ以テ十分ニ接合セシモノニシテ煉突ニ達スベキモノトス

然レドモ已ニ現存セル石壁ニシテ前記條件ヲ具備シ且木製部ヲ有セザル場合ニアリテハ之ヲ以テ防火壁トナスコトヲ得

營業上多分ノ火ヲ屢々使用スベキ竈ニアリテハ此他ニ橫棟瓦積裏壁ヲ設クルヲ要ス蒸汽罐及之ト同種ノ裝置ノ內壁ハ裏壁ト見做スヲ得

竈附近ノ床

第三十二條　竈及堅牢ナル灰受下部並ニ之等ノ周圍三十珊米ノ床ハ石又ハ金屬ヲ以テ造ルベシ又木造床ノ場合ニアリテハ石又ハ金屬ヲ以テ之ヲ蔽フベシ

開放式竈（カミーン）ヲ直接ニ床上ニ据エントセバ少クトモ厚サ〇、一〇米以上ハ石板臺ヲ用ユルヲ要ス

或桁ガ開放式竈又ハ煙突ニ對シテ橫置セラルヽ場合ニアリテハ竈口又ハ煙突ノ壁ヨリ適當ノ距離ニ於テ橫架スベシ

竈下及其周圍〇、三〇米ノ床ハ或ハ之ヲ迫持トナスカ或ハ厚サ〇、一〇米ノ石板ヲ用ヒ接合ハ上面ヲ〇、〇五ダケ削リ合ヒ壁ニ積込ムベシ

營業用焚火場並ニ料理沸煮又ハ乾燥竈ニ關スル特別規定

第三十三條　營業用竈場又ハ料理沸煮若クハ乾燥用竈ヲ有スル室ノ床ハ其焚火場ヨリ三米ノ間ヲ耐火材料ニテ造リ而シテ焚火場ヨリ六米以內ノ天井ニアリテハ石脊又ハ石灰ヲ充分ニ塗ルベキモノトス府聽ハ天井ガ非常ニ高ク火災ノ憂ヒナキ場合ニアリテハ組合聽ノ申請ニ依リ本規定ヲ除外スルコトヲ得

耐火床上ニハ木製板ヲ用ユルコトヲ得但竈ノ周圍〇、三〇米以內ニアリテハ常ニ之ヲ用ユルコトヲ得ズ

火見爐ノ下部

第三十四條　カミーンノ下部火焚口ハ其內側面ヨリ下シタル垂線ガ常ニ火受板ヨリ突出シ而シテ焚口上ヘ楣ハ尙ホ防火壁上ニアル樣構造スベキモノトス

煙突及煙筒

第三十五條　竈ニハ凡テ煤煙排出ノ爲メ煙突又ハ鐵管ヲ備フベシ

正面ガ第一條ニ掲ゲタル街路、地又ハ道路ニ面スル場合ニアリテハ正面又ハ其孔口ヲ通ジテ煙筒ヲ外部ニ導クコトヲ得ズ

營業上屢々多分ノ火ヲ使用スル場合ニアリテハ其煙突ハ獨立セル主排出口ナラザルベカラズ詳言セバ其竈ニ專屬セザルベカラズ

煙突ノ壁ノ厚サ

第三十六條　烟突ハ厚サ〇、一〇米ノ煉瓦横積ヨリ成ル四壁ヲ有スルヲ要ス又營業上屢々多分ノ火ヲ使用スル場合ニアリテハ厚〇、一二米ノ壁瓦ニテ之ヲ造ルベシ但煙突ガ第三十條規定ノ防火壁ニ定造セラレタルモノナルトキハ防火壁ノ側面ニハ煉瓦又壁瓦造ノ壁ヲ設クルヲ要セズ

煙突内法ノ廣サ

第三十七條　煙突又ハ煙筒ノ内法ノ廣サハ屢々多分ノ火ヲ使用スル營業用ノモノニアリテハ組合廳ノ認可ヲ經ズシテ〇、三〇米乃至〇、五〇米以下トナスコトヲ得ズ

料理竈室内煖爐又ハ室内「カミーン」ニアリテハ掃除人ヲ用ヒズ他ノ方法ヲ以テ掃除シ得ベキ煙突ヲ設クルヲ得但其内面ノ廣サハ少クモ〇、二〇米四方ナルヲ要ス

鐵製煙管

第三十八條　鐵製煙管ハ建物ノ木製部ヨリ凡テ〇、三〇米以上ノ距離ヲ有スベシ又組合廳ノ申請ニ依リテ府廳ガ特別ニ認可シタル場合ニアラザレバ屋根ヲ通ジテ之ヲ屋上ニ導クコトヲ得ズ

煙突掃除口

第三十九條　新タニ築造セラルベキ煙突及煙管ニハ凡ベテ其下部ニ掃除口ヲ設ケ鐵製ノ壓シ戸又ハ引戸ヲ備フベシ

煙突及煙管ノ高サ

第四十條　煙突及ビ煙筒ハ屋上少クトモ〇、六〇米ニ突出スルヲ要ス若高サノ排出ガ自己所有又ハ隣家建物ニ對シテ火災ノ危害ヲ及ボシ又煙若クハ瓦斯ニ依テ迷惑ヲ蒙ラシムル場合ニアリテハ組合廳ノ意見ニ依リ之ヲ高築セシメ又ハ火災又ハ隣家ノ迷惑ヲ防クニ必要ナル裝置ヲナサシムベシ

右ノ通リ決議候事

ベルン千八百七十七年十二月二十日

組合會議ノ名ニ於テ

市長　オー、フオンビユーレン

書記　バンデリール

承認書

ベルン區參事會ハ茲ニ前記建築令ヲ承認ス

ベルン千八百八十年七月十七日

參事會ノ名ニ於テ

長　スタイゲル

書記　エル、クールツ

前記承認書ニ基キ本「ベルン市外建築令」ヲ千八百八十年八月一日ヨリ施行ス

ベルン千八百八十年七月二十六日

組合會ノ名ニ於テ

副長スツーベル

書記バンデリール

廣告目次

ニ、日本コルク株式會社　四一
日本石綿盤株式會社　四二
日本建築用製紙會社　三八
ホ、ホーン株式會社大阪支店　一九
ヘ、米國貿易會社　三三
ト、東京電氣株式會社(前)一
東洋コンプンツソル會社七及四〇
東洋工業社(前)二
チ、大阪鐵筋混凝土工務所　二六
大阪煖房商會　二九
大阪窯業株式會社　二七
大野式特許品營業所　四六
カ、川崎工場　三
河津商店　二五
ヨ、横河橋梁製作所　三一
タ、高石商會　三二
高田商會銀座販賣店　一七
高島屋裝飾部　四三
高田南會　三〇
ナ、土木建築内外材料合資會社　三六
ム、村井工業所　二四
ウ、宇野澤組ステインド硝子製作所二四
ノ、野澤幸三郎　二四
ヤ、山本窯業商店　三三
山本コンベス商會　二一
マ、松尾和助商店　一四
ケ、建築事務所案内　四七
建築請負業者案内　一二八
エ、榮進社　三七
ア、淺野スレート株式會社　三四
淺海商店　二三
穴原商會　一六
有田製陶所　三六
キ、銀座建築用品店　一五
銀座建築用品店支店　二八
共同建材製作所　三五
メ、明正社　一八
シ、清水工務所工事部　二二
モ、木材石材商案内　一三
茂木合名會社(裏表紙表裏)
ス、須賀商會　四四
巢鴨製作所　二〇
砂崎合名會社　三九

